

# 和光市デジタルミュージアム紀要

## 第7号



### 目次

#### <論稿>

和光の地質	大滝 孝久	p 1
学びを育む地域文庫の歴史 一和光市における西大和団地と諏訪原団地を中心に一	中岡 貴裕・石川 敬史	p 27
<確認調査報告>		
半三池遺跡溝確認報告（市道 268 号線他改良工事地点）	鈴木 一郎	p 43
<実績報告>		
令和2年度 和光市埋蔵文化財調査年報	江口やよい	p 49



2021.3

和光市教育委員会



## 序文

和光市では郷土にゆかりのある貴重な文化財などを後世に伝え活用するために、これまで多くの方々から資料をご提供いただき、文化財保存庫に収蔵してまいりました。これらの収蔵物等を広く市民の皆様方にご紹介し、本市の歴史や文化をご理解いただくため、平成24年4月1日からWeb上で「和光市デジタルミュージアム『れきたま』」の配信を開始しました。配信開始以来、年間約20,000件の閲覧をしていただいております。そして、『れきたま』の充実をさらに図るべく、和光市文化財保護行政の1年間の成果を取りまとめた「和光市デジタルミュージアム紀要」を創刊し、併せてWeb上での公開をしてから今年度で第7号となりました。

今回、那須町文化財保護審議委員の大滝孝久氏から、外環工事の際に行った地層調査や採取された貝化石資料をもとに「和光の地質」と題した貴重な成果をいただきました。また、和光市職員中岡貴裕氏と十文字学園女子大学の石川敬史氏からは、西大和団地と諏訪原団地を中心とした地域文庫の歴史についての論稿をいただき、紀要内容の充実にご協力を賜りました。誠にありがとうございました。さらに、文化財パトロール中に発見した半三池遺跡包蔵地内での遺構についてや令和2年度の埋蔵文化財調査年報も併せて掲載いたしております。

有形・無形文化財、民俗的文化財など先人の残した文化財は、本市の貴重な財産であり、後世に残していく責任があります。また、このような文化財の蓄積は、本市の歴史や文化財を学び理解していただく上で有効なものであると考えています。

最後になりましたが、本紀要の刊行にあたりまして日ごろからご指導いただいております埼玉県教育局市町村支援部文化資源課、和光市文化財保護委員会委員各位、また、公私ともご多用の中、たくさんのご教示・ご高配を賜りました関係者の皆様に心より厚く御礼申し上げます、あいさついたします。

令和3年3月  
和光市教育委員会  
教育長 大久保昭男



# 和光の地質

大滝 孝久

関東平野の南西部に位置する和光市は武蔵野台地北東部にある。北は荒川の沖積低地に区切られ、南と西は新河岸川に流入する白子川によって板橋区、練馬区と、東は越戸川で朝霞市と区切られている。午王山周辺や白子川、谷中川などで自然状態の露頭が残っていたが都市化により急速に消えている。平成6年(1994)頃和光市内の外環工事で台地に大規模な連続した露頭が表れた。その地層調査を行い貝化石を採集した。本報告はそのときの調査資料をもとに和光市の地質概要を述べた。

## 1.はじめに

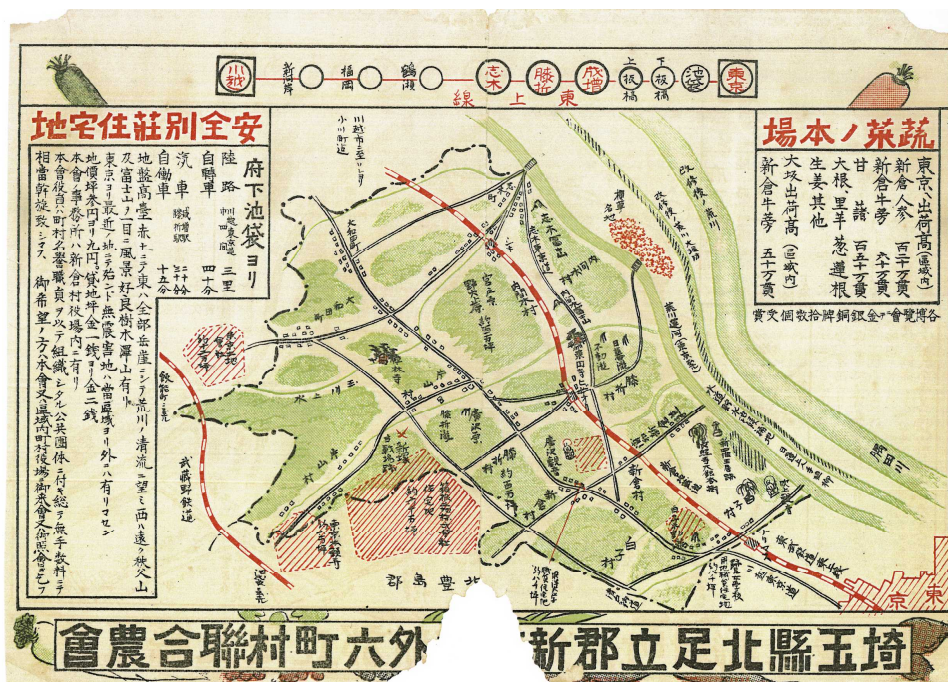
関東地震は、大正12年9月1日(1923)に南関東で発生した巨大地震。東京・神奈川で死者142,800人、全壊家屋128,26

6戸という甚大な被害であった。

とくに東京下町の低地に被害が集中したので地盤に人々の関心が集まった。その後、埼玉縣北足立郡新倉村外六町村聯合農會で安全別荘住宅地を宣伝・販売した。(図1)

内容は・「府下池袋ヨリ 陸路 東京川越道中 四間 三里 自転車 四十分 汽車 成増 十分 膝折駅 三十分 自動車 十三分 地盤 高台赤土ニテ東ハ全部岳崖ニシテ荒川ニ風景好 良樹木澤山アリ 東京ヨリ最近コノ地ニテ殆ンド無震害地ハ当区域ヨリ外ニハ有リマセン・」と新倉村周辺を安全な土地と宣伝した。

また、「高台赤土ニテ東ハ岳崖ニ・」は武蔵野台地の特徴を言い表し関東地震以後地盤の強固な東京近郊に人々の関心が高まり、大正3年誕生した東武東上線(池袋一寄居間)の沿線に土地を求めた。



図(1) 関東地震後に発行した安全別荘住宅地宣伝チラシ(大日方純夫氏所蔵)

関東地震の被害状況から和光市付近の洪積台地と沖積低地の違いが分かる。沖積低地の美谷本村、六辻村、沼影、辻、文蔵、根岸、戸田村、芝村等に家屋被害があり、一方洪積台地の浦和町、與野町、三室村、木崎村、大和田町で被害が少なかった。白子村、新倉村、膝折村の被害は荒川の沖積低地であり、志木町でも沖積低地の宗岡地域に被害があった。図(5)

当時の被害状況から和光市の地質についての概要を述べる。

## 2. 沖積低地

埼玉県東部の荒川沿いに広がる荒川低地は最終氷期(ウルム氷期)にB・洪積層が下方侵食され河谷ができた。その後の間氷期の温暖化により河谷に海が進入し周囲の土砂を河川運びが堆積した。海が退くと低地にA・沖積平野が現れた。図(3)

大宮台地と武蔵野台地に挟まれた荒川低地の断面(1・朝霞市浜崎ー2・さいたま市大戸、a・新河岸川、b・荒川)から地表はさいたま市に向かって僅かに高度が上がる。A・沖積層は新河岸川右岸の3m前後から荒川左岸のさいたま市側の約35mと全体的に層厚が増す傾向にある。(AとBの間の線は沖積層の基底礫層。)

沖積層は砂層、泥層、腐植層から構成され砂層、泥層が交互に堆積している。砂層のN値は3~40、泥層のN値が0~10となっている。基底礫層ではN値50になる。また、和光も砂、シルト層があり層厚30mまではN値10以内である。図(4)

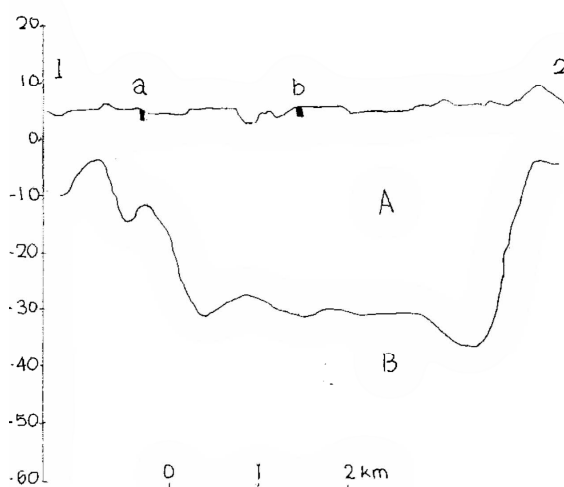
荒川低地は30m前後の泥層、砂層からなる沖積層の上戸田は洪積台地の広沢より東日本大地震の被害が増した。図(2)

東日本大地震		戸田(低地)・和光(台地)の震度							
地名	1	2	3	4	5弱	5強	6	7	合計
戸田市上戸田	61	31	6	1	0	1	0	0	100
和光市広沢	28	24	2	1	1	0	0	0	56

(気象庁震度データベースより作成)

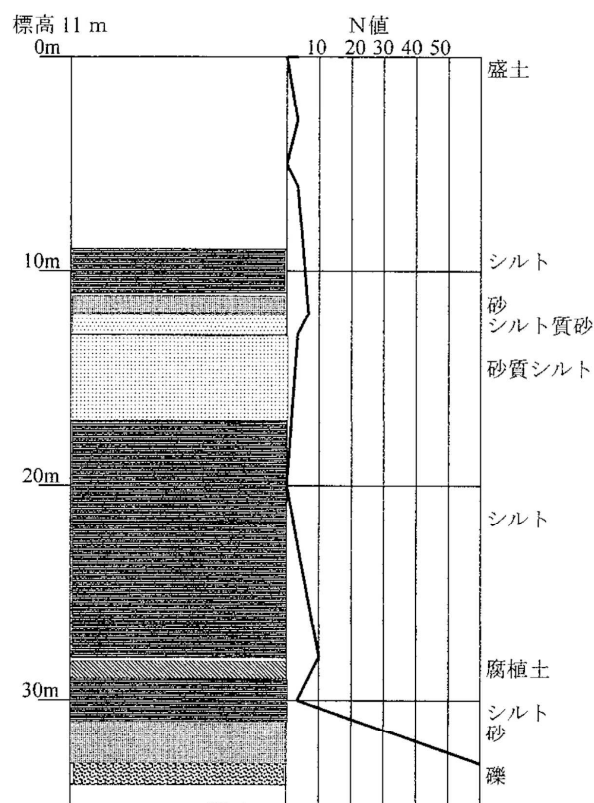
図(2) 東日本大地震震度 低地と台地

荒川低地の断面図



図(3) 小松原純子(2014) 荒川低地の沖積層基盤地形一部引用

荒川低地(和光市新倉7丁目)柱状図



図(4) (国土地盤情報検索サイト K u n i J i b a n を参考に作成)

郡市	町村	集落(字)	地点名	被災地の地盤条件および液状化	全戸数	全潰数(倒潰)	全潰率%	転倒方向(墓石・家屋等)	震度	半潰数	被害や家屋の状況に関するコメント
北足立郡	浦和町			ロームの広い台地性丘陵地で地盤良好	2450	25	1.02		5.75	13	瓦葺多
			調神社					E-W(燈籠)	5.25		社名標不転倒、石燈籠4箇中2箇転倒
	與野町				1021	0	0.00		4.75	0	
	大久保村				577	8	1.39		5.75	1	
	土合村				680	14	2.06		5.75	14	
	美谷本村				457	72	15.75		6.25	63	
	六辻村				663	229	34.54	SE(家屋)	6.75	171	瓦、葺葺相半ば
		沼影		沖積地	40	23	57.50		6.75	15	
		辻		沖積地	173	104	60.12		6.75	65	
		文蔵		沖積地	80	47	58.75		6.75	30	
		根岸		沖積地	100	42	42.00		6.75	36	
		白幡		ローム台地性丘陵地および、其の傾斜地	165	7	4.24		5.75	22	被害軽微
		別所		ローム台地性丘陵地および、其の傾斜地	105	6	5.71		5.75	3	被害軽微
	谷田村				538	10	1.86		5.75	6	
	尾間木村				450	38	8.44		5.75	35	
	三室村				366	0	0.00		4.75	1	
	木崎村				821	0	0.00		4.75	0	
	蕨町			沖積地。3尺砂礫、60尺粘土、でその下砂(帯水層)	1064	77	7.24	E(家屋)	5.75	71	瓦葺多
	戸田村				769	136	17.69		6.25	134	
	芝村				552	129	23.37		6.25	141	
	笹目村				256	6	2.34		5.75	6	
	志木町			大部分台地上、ローム層。一部沖積層で全・半潰住家	675	1	0.15	W(家屋)	5.25	1	沖積地で住家倒潰有り。台地上に無し。壁は亀裂のみ、瓦落下少なく、煉瓦塀も倒潰せず。
	大和田町				700	0	0.00		4.75	0	住家倒潰なし、納屋倉庫被害のみ
	内間木村			荒川中流	385	12	3.12		5.75	2	
	白子村			荒川沿岸	465	1	0.22		5.25	0	
	新倉村			荒川中流	272	1	0.37		5.25	1	
	膝折村			荒川沿岸	761	1	0.13		5.25	0	
	片山村				456	1	0.22		5.25	0	
	鳩ヶ谷町				1125	24	2.13		5.75	5	
	草加町			綾瀬川、古綾瀬川合流地点を境に北部、南部とする。北部：砂10間で砂礫層(帯水)。南部：粘土1間、砂15間で砂礫層(帯水)。	1028	126	12.26	E-W(家屋)。墓碑NNW	6.25	33	町並は瓦葺、他は葺葺

図(5) 関東地震の詳細分布

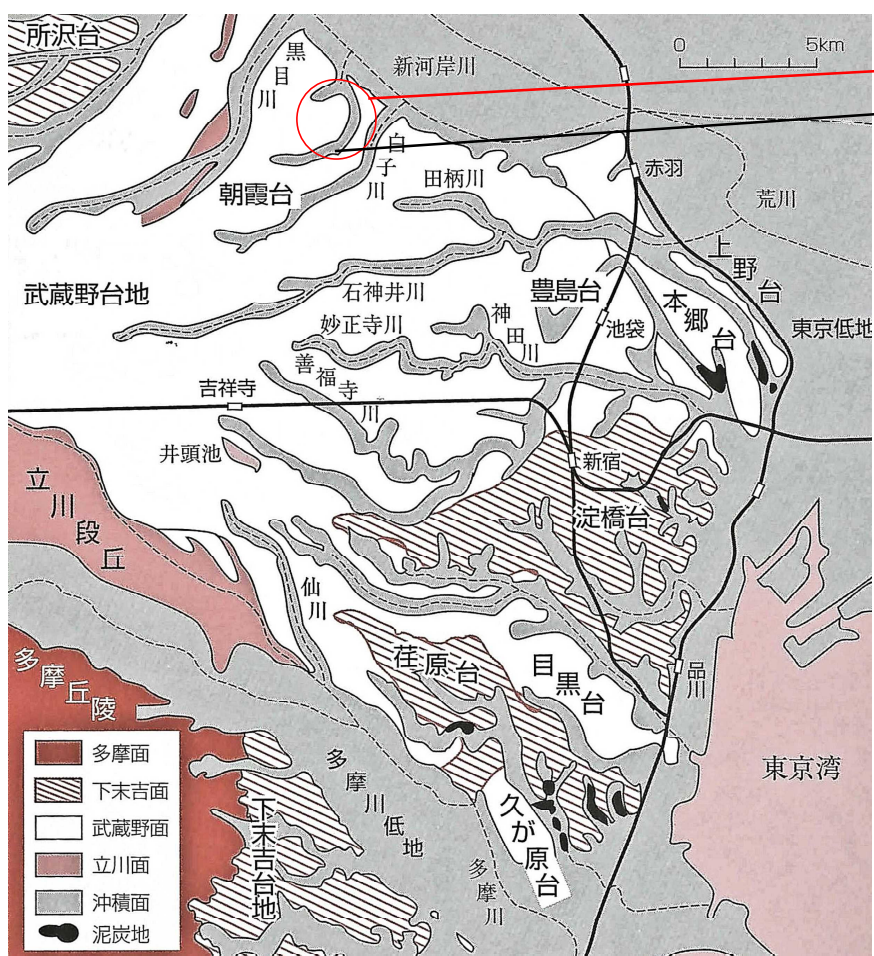
武村雅之・諸井孝文(2002)地質調査データに基づく1923年関東地震の詳細分布その2 埼玉より抜粋

### 3. 武蔵野台地

関東平野西部を流れる多摩川の北側から荒川の間には武蔵野台地がある。埼玉では川越が武蔵野台地の北端となる。面積は700km<sup>2</sup>。関東平野の面積約1万7000km<sup>2</sup>の4%を占める。

武蔵野台地の基盤に第三紀鮮新世-第四紀更新世に連続した海成層の上総層群がある。上総層群は多摩丘陵や房総地域の地表部に見られるが埼玉では地下にある。上総層群の上位に重な

るのが和光でも見ることができる下総層群である。その下総層群は13~7万年前の下末吉海進(リス/ウルム間氷期)で生まれた古東京湾の海成層で関東平野から房総丘陵に広がった。浅海性の古東京湾に堆積した下総層群上部の東京層は武蔵野台地東端の崖線に見られ和光の午王山から朝霞台まで続く。東京層は貝化石や生痕化石を多く含み、平成6年の東京外環工事と和光工区の掘削面で多数産出した。また、工事の露頭面は上部東京層から立川ローム層まで見ることができた。



和光市  
谷中川と越戸川

和光市は越戸川で朝霞市と荒川で戸田市、白子川で板橋区や練馬区と接している。それら中小河川の開析で台地崖から大量の湧水が出ている。この豊かな湧水に注目して「・・・明治10年武州新座郡白子村及び西多摩郡柚木村に養魚場を設け・・・白子養魚場は成績特に顕著で明治17年より5ヵ年民間に貸与した・・・」(秋庭鉄之「東京を中心とした鮭鱒孵化事業1」一部抜粋)

なお、白子養魚場は白子熊野神社あたりと思われる。

図(6) 貝塚爽平著「東京の自然史」紀伊國屋書店発行より

下末吉海進はウルム氷期(7~1万年前)になり海退に転じ海水面は低下して陸地化した。そのため河川の浸食で段丘が形成された。

中期更新世頃から形成された段丘は高位段丘が多摩面(約50~25万年前)、中位段丘が下末吉面(約13~11万年前)、後期洪積世の低位段丘が武蔵野面(約10~3万年前)、立川面(約3~2万年前)に分かれる。図(6) 武蔵野台地は古多摩川流域の広大な扇状地で下位の地層を侵食しながら河川礫(武蔵野礫層・成増礫層)を堆積した。

武蔵野台地の扇頂から扇央、扇端にかけて台

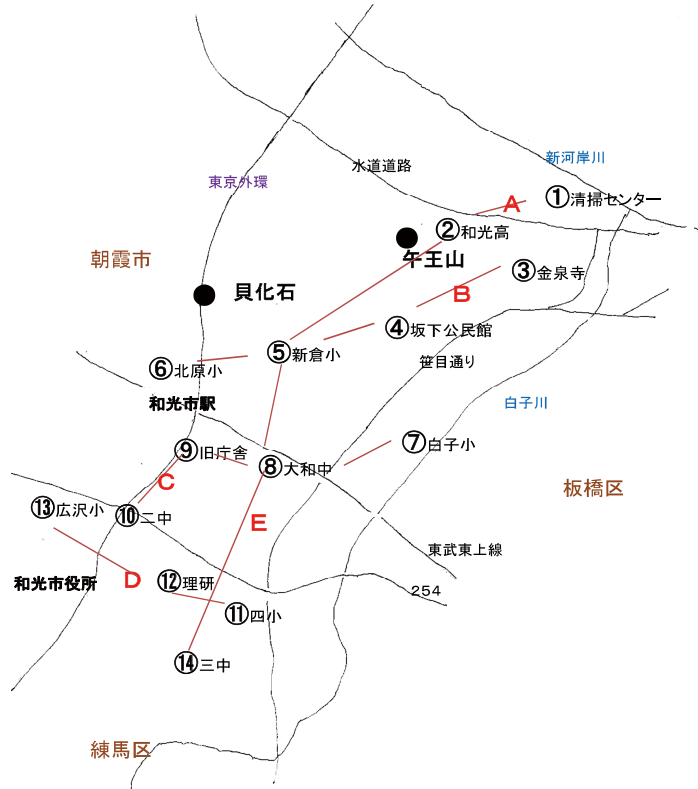
地の傾斜方向に沿った大小の河川が発達し台地を開析した。和光市の白子川、谷中川、越戸川や朝霞市の黒目川、志木市の柳瀬川などで見られる。それらの河川が武蔵野台地崖線に沿って流れる荒川沖積低地の新河岸川に流入する。

和光市の地形は洪積台地と沖積低地によって形成される。

和光市の台地は隆起と浸食によって標高に変化を生じた。武蔵野台地南側が高く和光市役所、樹林公園、和光三中、第四小は標高40m台で大和中30m、新倉小26m、午王山20~25m、和光高校9mと北東に低く傾斜している。



4. 和光市における武蔵武蔵野台地の地点ごとの柱状図



図（7）

和光市における武蔵野台地を地点ごとの柱状図で東西と南北で表した。図（7）

- A—①清掃センター（520m）②和光高校。
- B—③金泉禅寺（400m）④坂下公民館（380m）⑤新倉小学校（1250m）⑥北原小学校。
- C—⑦白子小学校（540m）⑧大和中学校（500m）⑨旧和光市庁舎（517m）⑩第二中学校。
- D—⑪第四小学校（480m）⑫理化学研究所（510m）⑬広沢小学校。

- E—⑭第三中学校（1270m）⑧大和中学校（890m）⑤新倉小学校（1m）②和光高校

なお、各地点の位置、道路、河川は概略とした。（ ）数字は地点間の直線距離。

柱状図は和光市の資料（1963年～1977年）を参考・引用した。

5. 各地点の柱状図 A～E

和光市内各地点の標高を基準に柱状図を表記した。（層厚スケールに相違がある。）

A

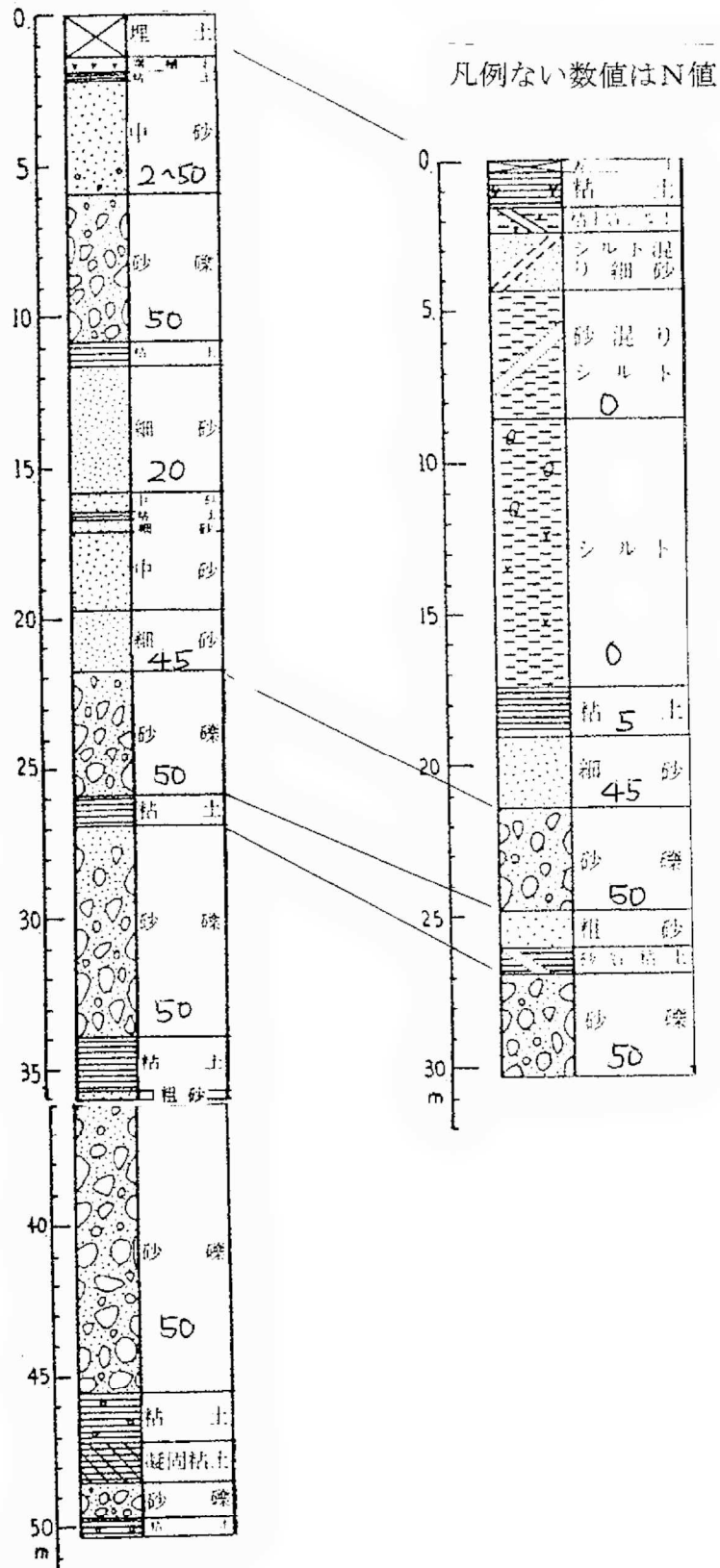
② 9 m

① 5 m \*

\* 標高

和光高校

清掃センター



B ⑥ 23 m

北原小学校

⑤ 26 m

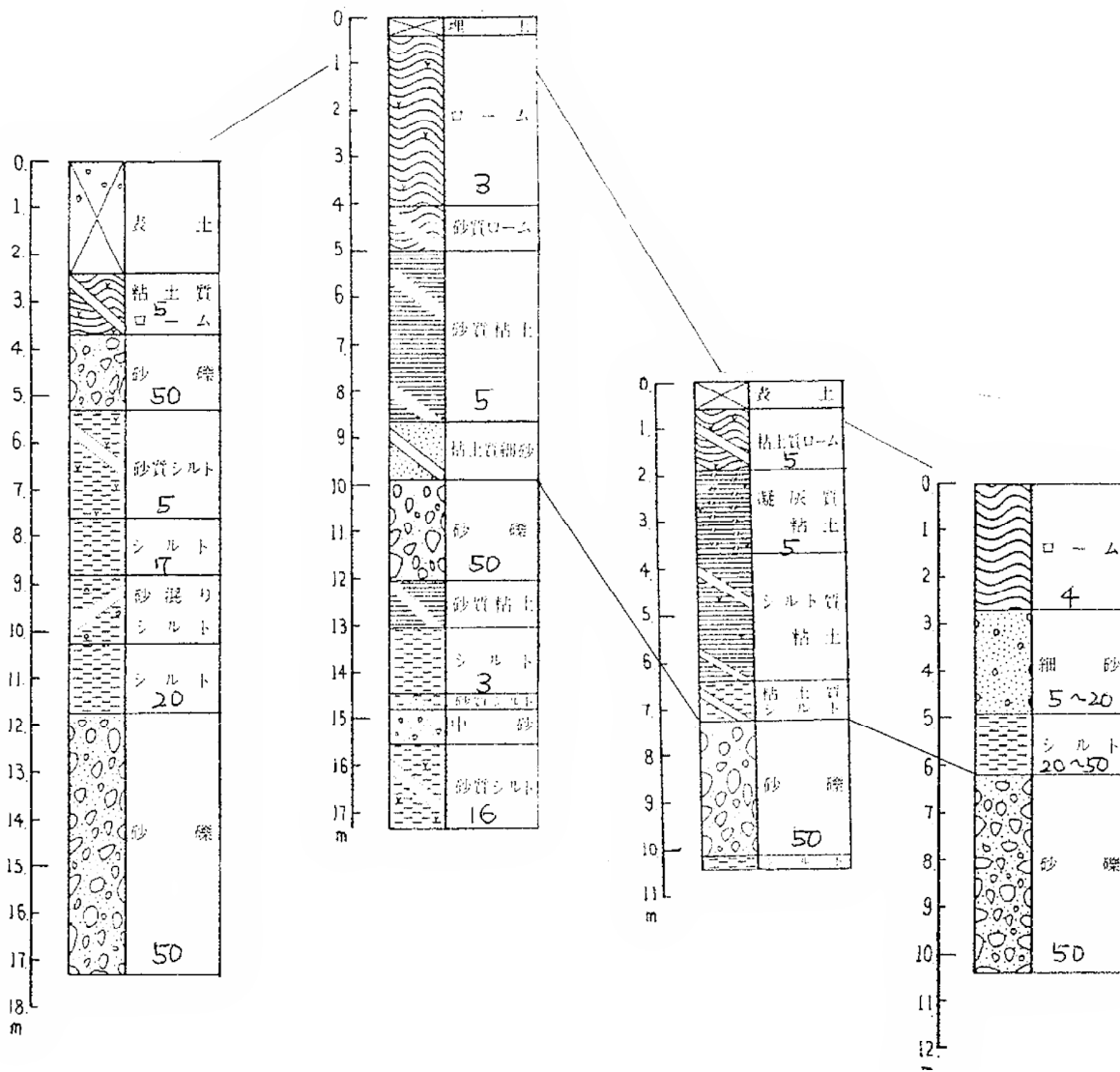
新倉小学校

④ 18 m

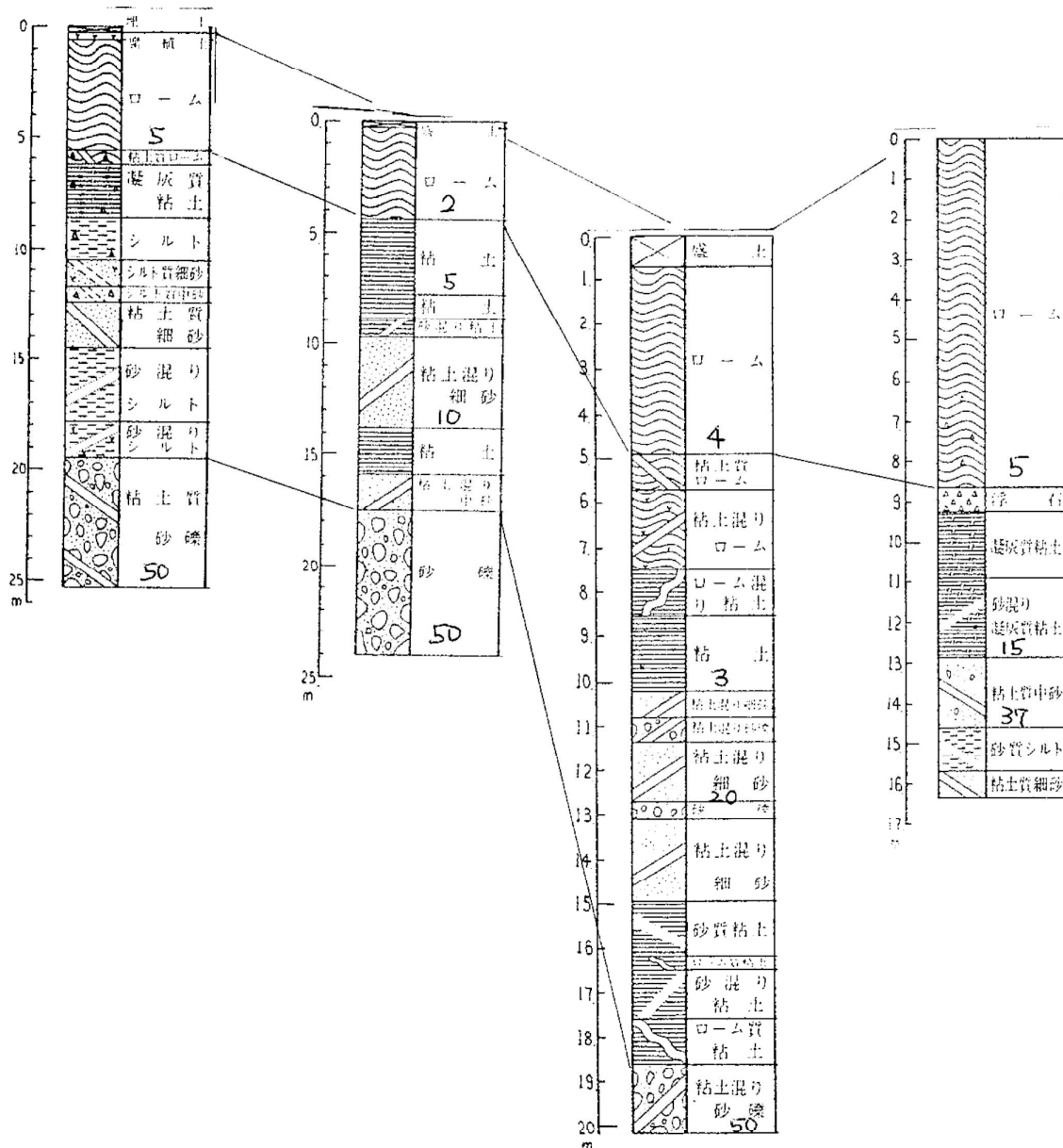
坂下公民館

③ 16 m

金泉禅寺



C ⑩ 3.9 m      ⑨ 3.5 m      ⑧ 3.0 m      ⑦ 3.3 m  
 第二中学校      旧和光市庁舎      大和中学校      白子小学校



D

⑬ 40 m

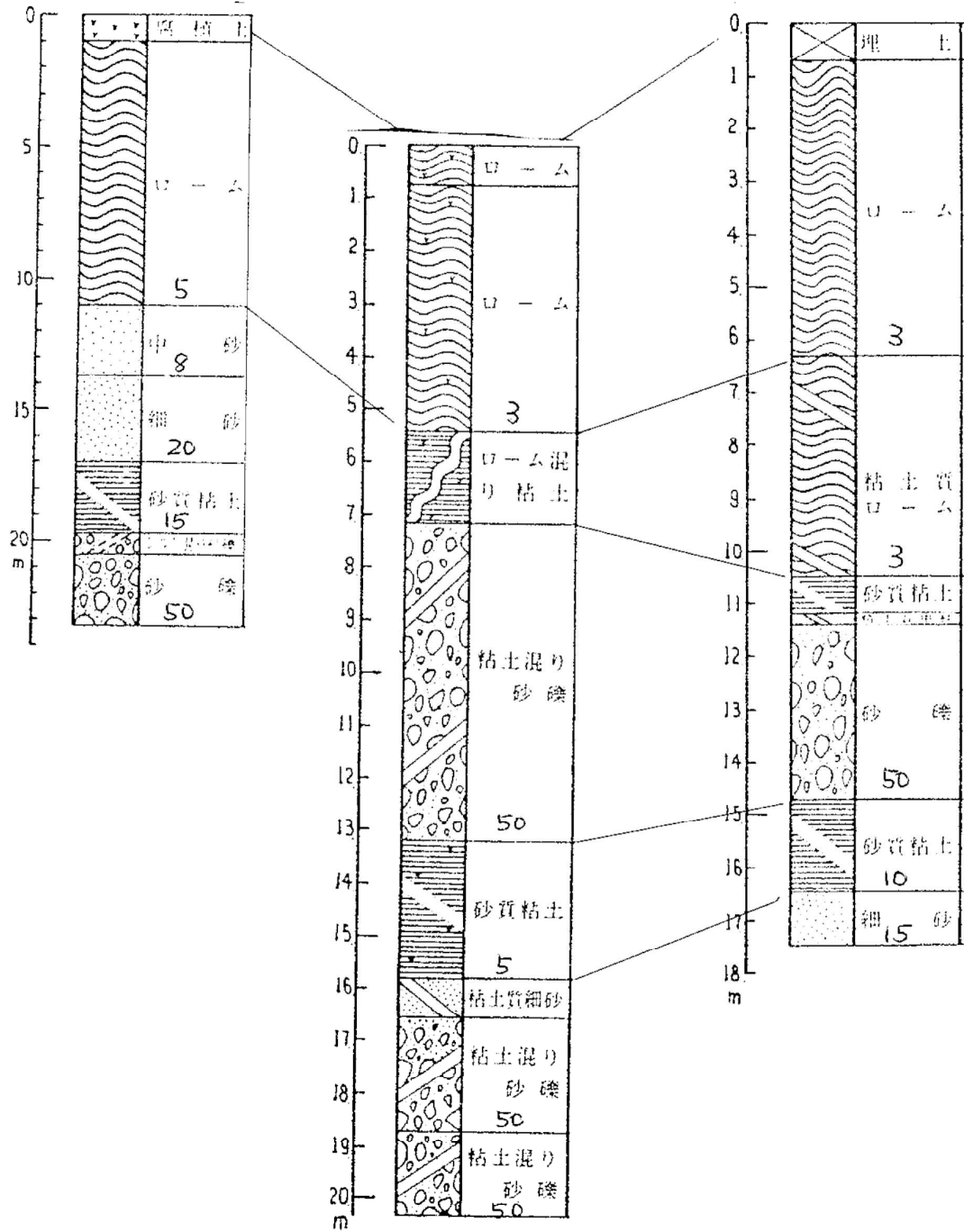
広沢小学校

⑫ 37 m

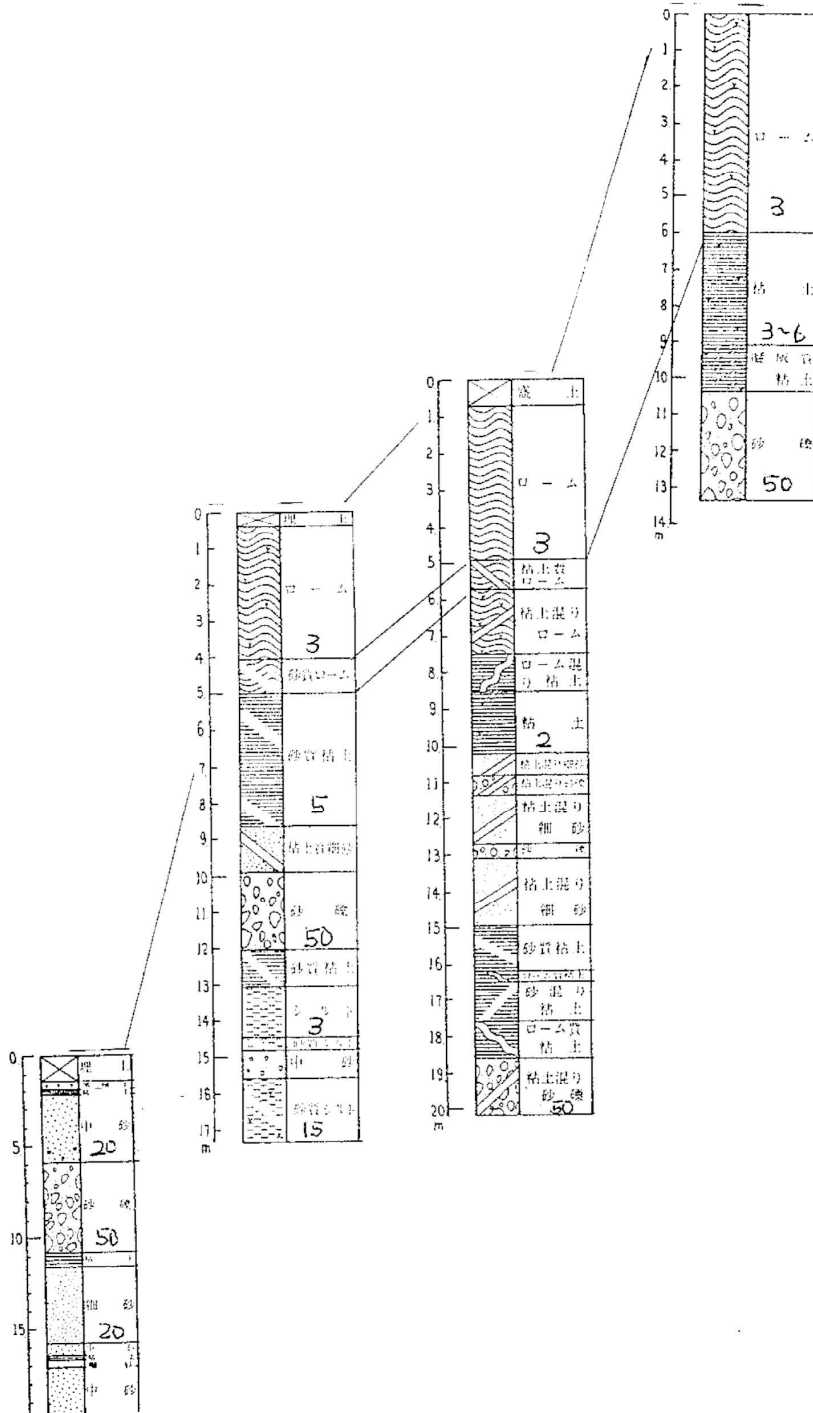
理化学研究所

⑪ 40 m

第四小学校

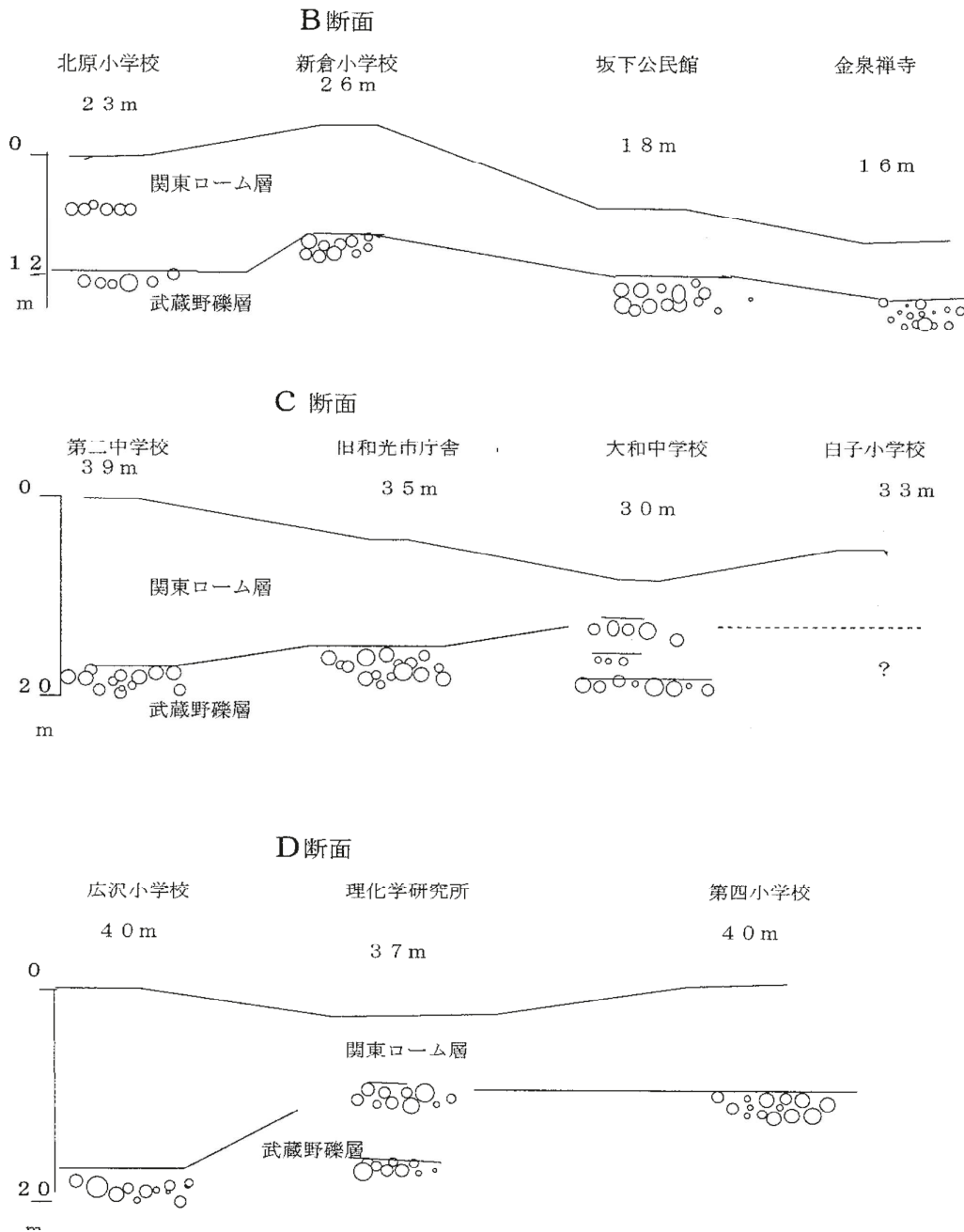


- |   |       |        |        |        |
|---|-------|--------|--------|--------|
| E | ② 9 m | ⑤ 26 m | ⑧ 30 m | ⑭ 40 m |
|   | 和光高校  | 新倉小学校  | 大和中学校  | 第三中学校  |



和光市内試錐  
地点一覧表  
(和光市役所 建設部)  
より作成

6. 台地断面における武蔵野礫層概要



図（8）和光の武蔵野礫層。（柱状図を補正）

上図は和光市を南から北を見たD-C-B各断面である。図（8）

台地の標高は北東に向かって下がって行く。最大標高は40m、最小は今泉禅寺で16m。寺付近道路で8mとなる。

D断面では広沢小学校は地表20mから武蔵野礫層（N値50）、理化学研究所7m、第四小学校11m付近から武蔵野礫層がある。また、理化学研究所は17m付近にも礫層がある。

C断面では第二中学校地下20mに武蔵野礫

層（N値50）、旧和光庁舎18m、大和中学校18m（その間に2枚の礫層を含む）、白子小学校はボーリング深度16mのため以下は不明だが白子小学校から南西方向約400mの白子熊野神社露頭に武蔵野礫層を確認した。

B断面は北原小学校で地下4m、12mに礫層（N値50）がある。新倉小学校地下10m、坂下公民館7m、今泉禅寺6mと成増礫層（武蔵野礫層）が分布する。

古多摩川の浸食・堆積によって段丘地形が出来た。扇状地であった（和光も含む）地形面に広く武蔵野礫層を堆積した。その後、下末吉ローム層、武蔵野ローム層と立川ローム層と順に重なっていき現在の武蔵野台地になった。

## 7. 午王山

午王山は武蔵野台地の北端に東西約300m、南北約130m、標高約20～25m、西向きのやや二等辺三角形をした上部が平坦な独立した台地である。午王山は武蔵野台地の一部であったが武蔵野礫層堆積後の河川の下刻作用によって現在の地形になった。図（9）

地形的特徴から台地上に弥生時代の竪穴住居と環濠集落跡が造られ、遺跡は国指定文化財になっている。

和光・午王山は武蔵野台地の一部であり荒川の崖線沿いに東京・成増、朝霞・浜崎と続いている。

午王山南側露頭は保存状態のよい関東ローム層があり上から立川ローム層、武蔵野ローム層下末吉ローム層が確認できる。写真（1）

露頭は高さ約6m。上から2本の黒色帯（BB）とATが立川ローム層に、武蔵野ローム層下部にTPがありその下に礫（1～2cm）混じりローム層、ラミナを含む砂層がある。以前は午王山の地層と東京・成増の露頭が対比できた。写真（2）



図（9）午王山の形成



写真（1）午王山南側露頭  
立川ローム層、武蔵野ローム層、下末吉ローム層がある。



写真（2）成増の露頭（昭和40年代）

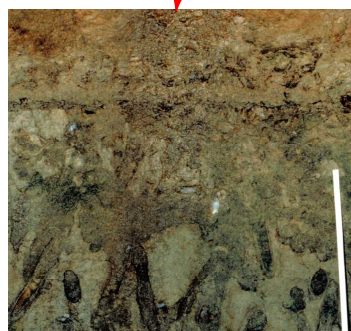


午王山北側は上から礫層（成増礫層）、貝化石含む砂質泥層、生痕化石を含む泥質砂層、泥質塊含む泥質砂層。礫層の下位は海成層で東京層最上部である。貝化石は褐色の二枚貝で10～20cmの層厚内にあり保存状態悪い。写真（3）（4）（5）（6）

生痕化石は、砂質シルト層に棲息する甲殻類や多毛類の巣穴とみられる



写真（3）



貝化石  
東京層  
生痕化石

写真（4）

生痕化石は直径3cm前後のパイプ状で内側には酸化鉄が層状についている。パイプ状の管の長さは4～50cmほどだが1m以上のも多数ある。また管は一本でなく幾つかに枝分かれして続いている。生痕化石の棲息環境は干潟か浅い海と推定できる。写真（5）（6）



生痕化石

写真（5）



写真（6）

昭和50年代台風で午王山北側が一部崩落した。中央白い部分以下東京層。東京層の上、成増礫層、関東ローム層と続く。写真（7）



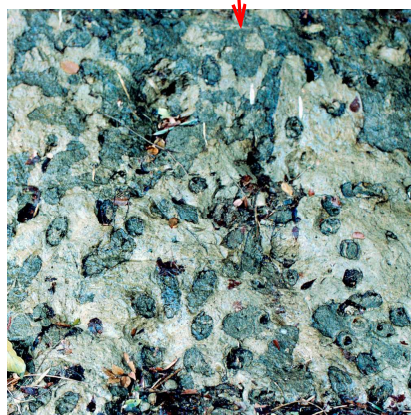
写真（7）

東京層は東京・赤塚～和光～朝霞～志木と続き成増台地・武蔵野台地と荒川低地と接する崖線に見られる。和光・午王山の生痕化石は黒目

川沿いの朝霞・浜崎の粘土質砂層の露頭に保存状態良く密集した状態で見ることができる。その上位に武蔵野礫層が厚く堆積している。写真(8)(9)(10) 写真(8)のスケールは4m。7mの崖は東京層。その上位に武蔵野礫層、関東ローム層が重なる。

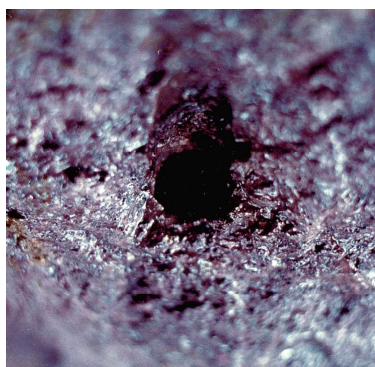


写真(8) 朝霞・浜崎の露頭



写真(9) 拡大 生痕化石

青色は痕化石  
白色は粘土質砂



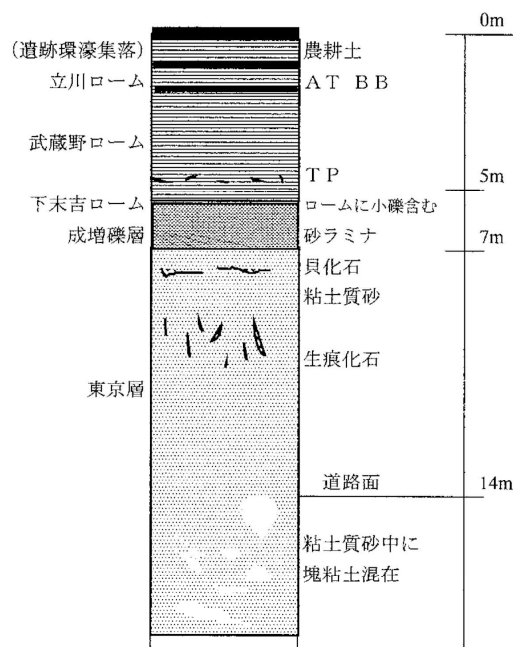
写真(10) 生痕化石の拡大

円筒状の内部は酸化鉄層。

穴の直径は3cm前後。

カニ(軟甲綱十脚目)、ゴカイ(多毛綱サシバゴカイ目)、アナジャコ(甲殻綱十脚目)等の巢穴である。これらの生痕化石から古東京湾が何回かの小規模の海進・海退を繰り返して次第に浅くなり陸化する過程を捉えることができる。

午王山柱状図

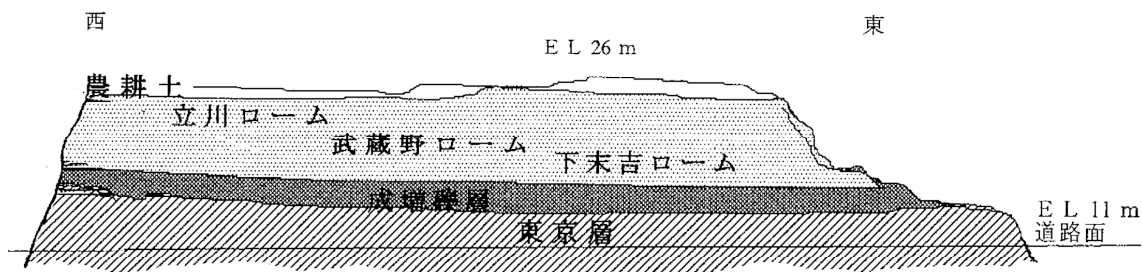


図(10)

午王山の南側と北側の露頭から柱状図を作成した。南側は下末吉ローム層から立川ローム層まで、北側は東京層(道路面より1~2m下)から成増礫層まで確認した。図(10)(11)

しかし、午王山の連続した地層を見ることはできないが古東京湾の海成層、段丘形成、古多摩川の礫層、関東ローム層など下総層群堆積から現在までの変化過程を残す和光・午王山は貴重な自然資料を提供する場所である。

## 午王山地質概要図



図(11)

## 8. 下新倉の地層断面

和光市における武蔵野台地の連続断面を下新倉で調査する機会が少しあった。露頭は南から北へ低く傾斜して荒川低地に達している。

この地点標高約20mの露頭は下位からh礫層—g粘土層—fシルト層—e粘土層—d—武蔵野礫層—c褐色ローム層—bローム層—a盛土である。図(12)

**a層**・・層厚0.5～3.8m。ロームの表土化、農耕土、盛土からなる。

**b層**・・層厚2～9m。火山灰質粘土、ロームで褐色。(立川ローム、武蔵野ローム)

**c層**・・層厚1.5～4.7m。凝灰質粘土、ローム質粘土、褐色のローム。(下末吉ローム)

**d層**・・層厚3～6m。粘土混じりの砂礫で砂層を挟む。(武蔵野礫層)

**e、g層**・・d層の下位にあるe層と同じ。褐灰色、青灰色の粘土。部分的に凝灰質粘土。地点2では生痕化石あり。

**f層**・・層厚1～2m。g層とe層間にある厚

いシルト混じりの砂礫層。このf層は地点1の方が厚い。青灰色、茶褐色。貝化石を含む。

**h層**・・層厚4～5m褐色、暗褐色、緑灰色の砂礫。

b層は関東ローム層、c層は下末吉層、d層は武蔵野礫層、e層以下は東京層である。

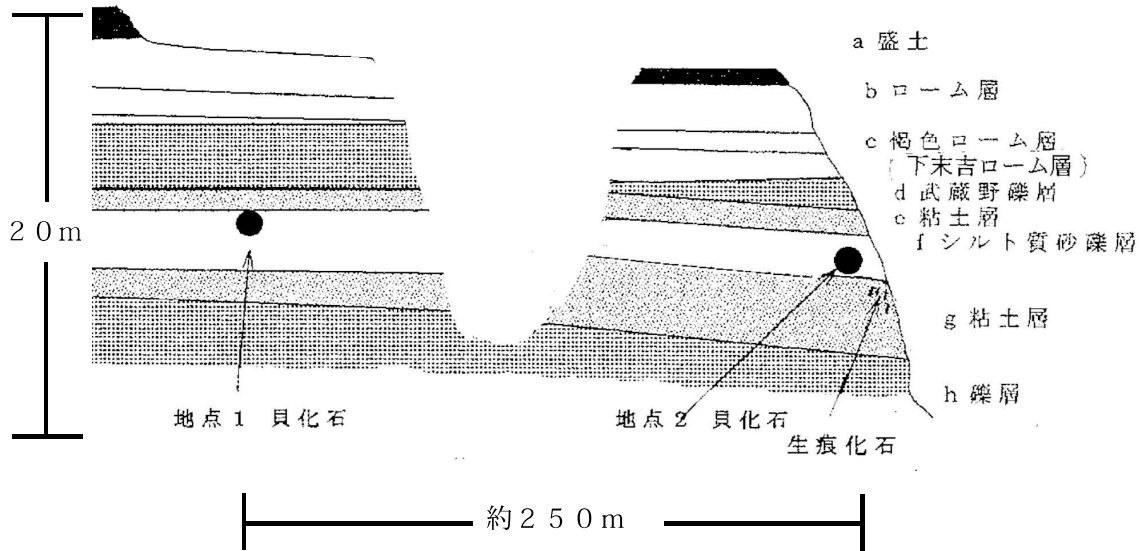
地点1と地点2の露頭は連続していると思われるが地層の色、構成、層厚に違いが見られる。

地点1のf層(シルト質砂礫層)に保存状態のよい貝化石が多数含まれている。地点1から北方向約250mの地点2のf層は細礫(中礫含む)であり、また、地点2のf層に原型が欠損した状態の貝化石を含む。

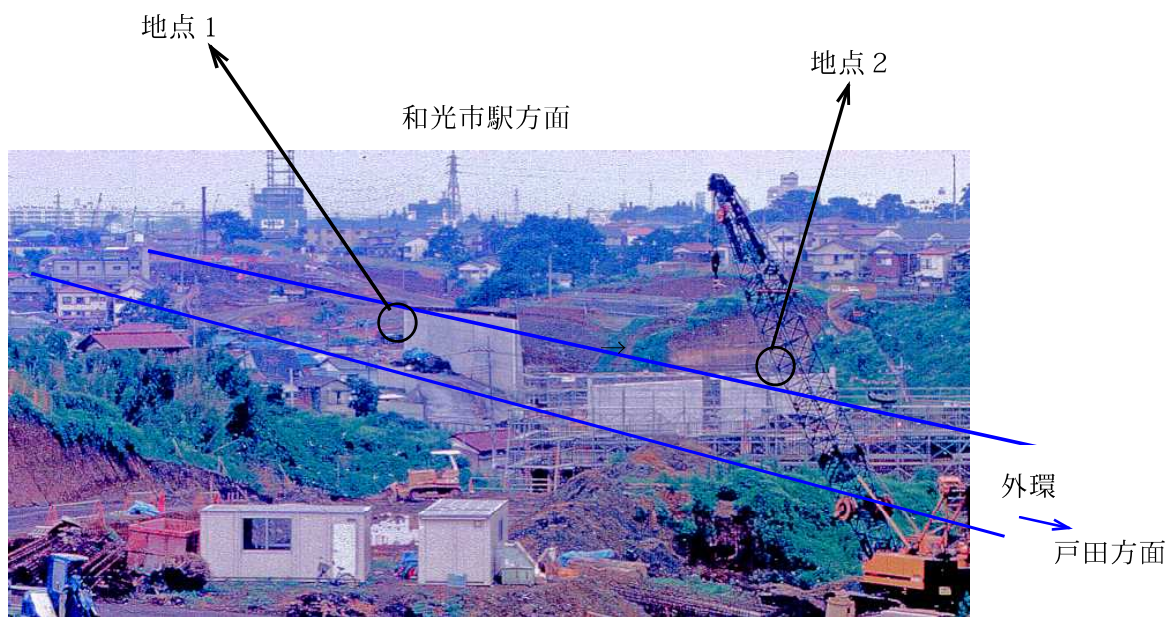
地点1と地点2のf層に見られる貝化石の層厚は著しく地点2は薄い。このことは当時1地点と2地点は異なる堆積であったと考えられる。谷中川の開析谷などの下に砂礫の東京層が続き、その上に腐植土層、黒色粘土や褐色土、ロームの盛土の沖積層がある。

(東北自動車道和光地区土性縦断面図より)

東京外環工事和光区地層模式断面  
下新倉付近



図(12) 下新倉の地層断面図 (東北自動車道和光地区土性縦断面図をもとに断面図作成)



写真(11) 下新倉地区付近の工事 平成6年当時

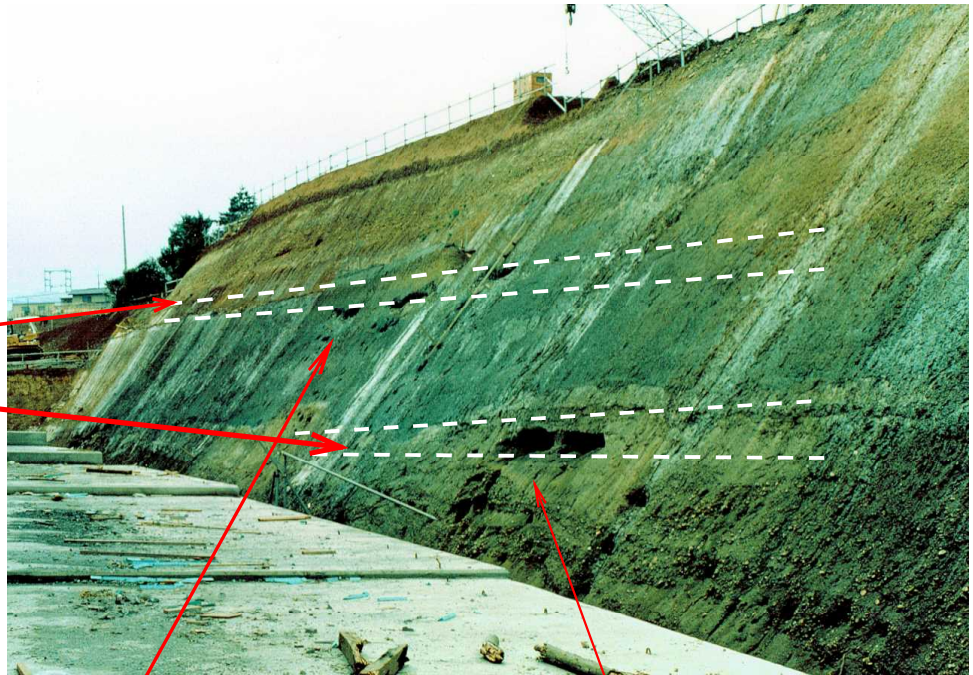
8-1 地点1

下新倉地層断面

東京層に2カ所の貝化石層がある。砂礫層に両者とも保存状態が良く現地性を示す。

写真(12)(13)

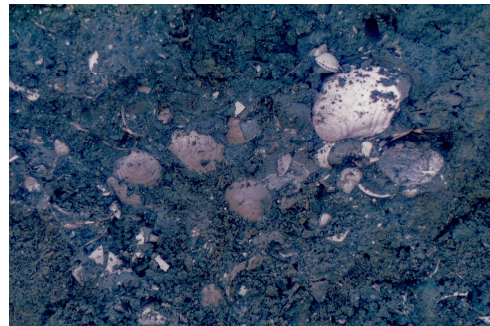
貝化石層  
東京層  
(下総層群)



写真(12) 外環道路基礎面

貝化石

貝化石



写真(13) 拡大写真



茶褐色

緑青色

緑灰色

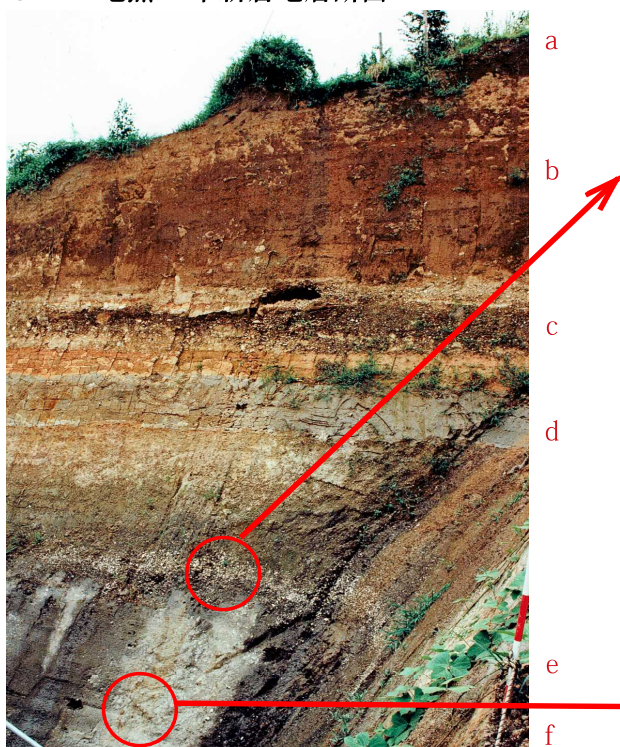
写真(14)

地点1の北方向続き露頭面も異なる緑灰色、緑青色、茶褐色の海成層が確認できる。緑青色の層の上の茶褐色の層は下位の層を削って堆積している。層の境界に乱れがある。写真(14)

露頭の緑青色の層の下部、上部に保存状態の良い貝、ウニの化石が2カ所の白線内に層状に堆積している。数カ所の横長の穴は化石採取跡。

写真(12、13)

## 8-2 地点2 下新倉地層断面



写真(15)

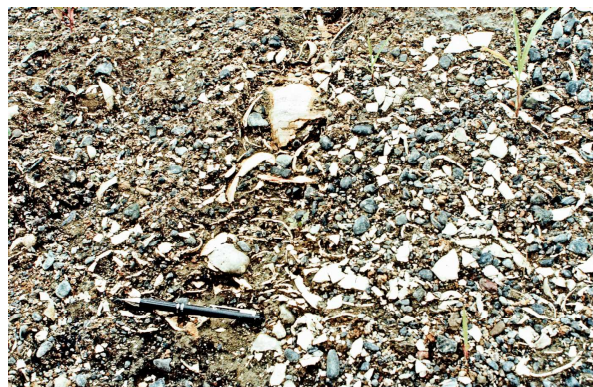
東京外環の橋脚工事で武蔵野台地が深く下まで掘られた。地点1の緑青色の崖と比べ茶褐色の崖となる。上よりa農耕土、bローム層、c礫層、d粘土層、e貝化石層(砂礫層) fシルト質粘土層となり、地点1より下位にある砂礫層に貝化石が層状に約70~80cm厚さで含まれている。写真(15)

貝化石の産状は地点1と異なる。

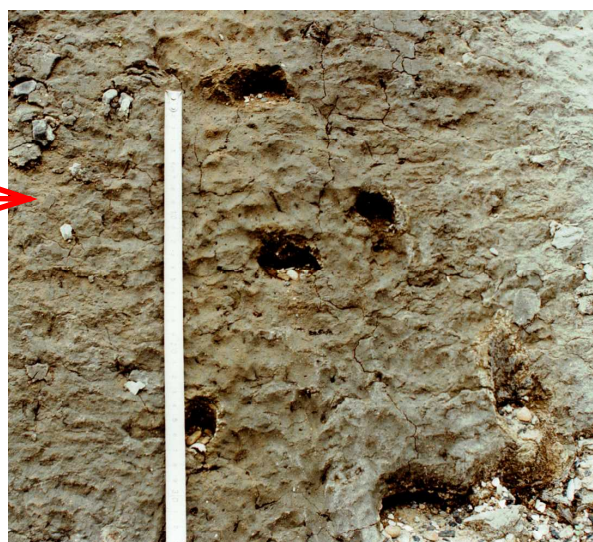
地点2では、形状が欠損した貝化石が多数砂礫層の中に含まれる。貝化石は地点1では現地性の貝化石であるが地点2では他から砂礫と共に移動しこの場所に堆積した。地点1より浅い海と思われる。写真(16)

地点1と地点2のは露頭開削はほぼ同時期であるが地層全体の色、層相、化石状態、化石層の相違などが見られる。両地点の堆積環境の検討が必要である。

e層の下位の粘土層に生痕化石がある。午王山や朝霞の生痕化石より穴数の密度が低い。穴の直径は約3cmが多い。写真(17)



写真(16) 貝化石 ペン・スケール



写真(17) 生痕化石 穴直径約3cm

## 9. まとめ

- ①和光市の武蔵野台地(洪積台地)は南~北東に傾斜し、荒川低地(沖積低地)に接する。
- ②午王山は上位から立川ローム層、武蔵野ローム層、下末吉ローム、成増礫層(武蔵野礫層)、東京層と堆積する。成増礫層(武蔵野礫層)上部にラミナ(砂層)がある。また、成増礫層と下位の東京層の境界面はシャープである。
- ③午王山は成増礫層(武蔵野礫層)堆積後から河川の下刻作用で独立した地形になった。

④午王山の礫（成増礫層）は和光の台地西側、朝霞の台地の武蔵野礫層と比較して形状に相違があり詳細な調査が必要であることがここでは両者を別とした。

⑤東京層の生痕化石は和光・午王山、下新倉・外環道工事（地点2）、朝霞・浜崎の露頭にある。朝霞・浜崎と和光・午王山の生痕化石の産状は同様だが下新倉・外環工事（地点2）では単位面積あたり巣穴数が少ない。

⑥貝化石は午王山と下新倉地点1（シルト質砂礫層）と下新倉地点2（シルト質砂礫層）、朝霞・根岸台（シルト砂礫層）にある。

⑦午王山の貝化石は形が種の同定できないほど崩れている。下新倉地点2は形が破損して一部残っている。両地点は棲息地から海流で運ばれ形が壊れた状態で堆積したと思われる。

⑧下新倉地点1の貝化石は保存状態が良い。現地性の棲息であり、環境は暖海性と寒海性が混ざった内湾で比較的浅い海で棲息していたと思われる。（この地層から多数の貝化石を採取した。）

⑨下新倉地点1、地点2、午王山の貝化石の産出状況から堆積環境に相違があった。

⑩午王山は下総層群（上部東京層）があり和光付近、成増、朝霞一帯の貝化石、生痕化石からも古東京湾の最終の陸化運動に小規模な海退・海進を含め解明する手がかりとなる。

#### 謝辞

この度「和光の地質」の研究をまとめるにあたり多くの方々にご支援を賜りましたこと御礼を申し上げます。

和光市教育委員会元教育長茂木音一様、同学校教育課元課長石田勝明様、同生涯学習課課長補佐鈴木一郎様、高原勇夫様、そして快く調査のご協力を頂きました日本道路公団東京第一建設局川口工事事務所様に感謝を申し上げます。

そして、採集した貝化石・ウニなどの種同定、クリーニング、標本づくりなどに貴重な時間を割

いて頂きました国立研究開発法人産業技術総合研究所地質情報研究部門平野地質研究グループ理学博士中島 礼様、また、現地指導・資料提供など貴重な助言を頂きました同所属理学博士中澤 努様両氏に改めて感謝を申し上げます。

しかし、浅学な私で本報告は更なる調査が必要な課題が残りました。諸先生方のご指導を賜りいつか諸問題解明を望みたいと思います。

#### 文献

- ・武村雅之・諸井孝文（2002）地質調査データに基づく1923年関東地震の詳細分布その2 埼玉 日本地震工学会論文集 第2巻、第2号
- ・諸井孝文・武村雅之（2002）関東地震（1923年9月1日）による被害要因別死者数の推定 日本地震学会論文集 第4巻、第4号
- ・小松原純子（2014）荒川低地の沖積層基盤地形、地質調査研究報告第65巻第7／8号、85－95
- ・和光市内試錐地点一覧小表（1963～1978）和光市役所建設部
- ・中澤 努・遠藤秀典（2002）大宮地域の地質 独立行政法人産業技術総合研究所地質調査総合センター
- ・杉原重夫・高原勇夫・細野 衛（1972）武蔵野台地における関東ローム層と地形区分についての諸問題。第四紀研究 第11巻、29－39
- ・中澤 努・長 郁夫・坂田健太郎・中里裕臣・本郷美佐緒・納谷友規・野々垣進・中山俊雄（2019）東京都世田谷区、武蔵野台地の地下に分布する世田谷層及び東京層の層序、分布形態と地盤震動特性、地質学雑誌、第125巻、367－385
- ・貝塚爽平著（1968）「東京の自然史」 紀伊國屋書店

- ・東北自動車道和光地区土質調査土性縦断面  
(1987)  
日本道路公団東京第一建設局川口工事事務所
- ・国土交通省気象庁震度データベース(埼玉県)  
「平成23年(2011年)東北地方太平洋地震」による各地の震度 平成24年12月 地震・火山月報
- ・大日方純夫所蔵(2020)  
埼玉縣北足立郡新倉村外六町村聯合農會  
関東地震以後発行
- ・URBAN KUBOTA(1980)  
特集=関東堆積盆地 1-55
- ・菊池隆男  
海成更新統、下総層群と上総層群の境界層準に  
関する再検討(2004)  
地球環境研究、Vol. 6
- ・中澤 努・田辺 晋  
野田地域の地質  
地域地質研究報告 5万分の1地質幅 東京  
(8) 第41号 NI-54-25-1  
平成23年独立法人産業技術総合研究所地質調査総合センター
- ・中澤 努・中里裕臣(2007)  
関東平野中央部の下総層群:研究の発展と課題  
地質ニュース643号、50-59頁
- ・水資源開発公団朝霞水路建設所(1979)  
朝霞水路改築事業工事誌
- ・羽島健三・井口正男・貝塚爽平・成瀬 洋  
杉村 新・戸谷 洋(1962)  
東京湾周辺における第四紀末期の諸問題  
第四紀研究、2 (2-3)、69-90
- ・秋庭鉄之(1957)  
東京を中心とした鮭鱒孵化事業1  
『魚と卵』第8巻第2号、北海道さけ、ますふ  
化場・北海道水産孵化場



## 「和光市新倉（外環工事露頭）から産出した貝・ウニ化石リスト」

中島 礼

今回、下新倉・外環道工事地点2から保存状態の良い貝化石等を大滝が採集した。その種同定とリスト作成を国立研究開発法人産業技術総合研究所地質情報研究部門 平野地質研究グループ理学博士中島 礼氏にお願いした。  
理学博士中島 礼氏が作成した「和光市新倉（外環工事露頭）から産出した貝・ウニ化石リスト」次頁に掲載した。

## 和光市新倉（外環道工事露頭）から産出した貝・ウニ化石リスト

学名	和名
巻貝類 12種	
<i>Chlorostoma turbinatum</i> A. Adams	ヘソアキクボガイ
<i>Cryptonatica andoi</i> (Nomura)	エゾタマガイ
<i>Glossaurax didyma</i> (Röding)	ツメタガイ
<i>Tonna luteostoma</i> (Küster)	ヤツシロガイ
<i>Rapana venosa</i> (Valenciennes)	アカニシ
<i>Siphonalia cassidariaeformis</i> (Reeve)	ミクリガイ
<i>Cancellaria (Sydaphera) spengleriana</i> Deshayes	コロモガイ
<i>Mitrella (Indomitrella) lishkei</i> (Smith)	シラゲガイ
<i>Mitrella burchardi</i> (Dunker)	コウダカマツムシ
<i>Crepidula (Bostrycapulus) gravispinosus</i> (Kuroda et Habe)	アワブネガイ
<i>Strombus (Doxander) japonicus</i> Reeve	シドロガイ
<i>Babylonia japonica</i> (Reeve)	バイ
ツノガイ類 1種	
<i>Antalis weinkauffi</i> (Dunker)	ツノガイ
二枚貝 32種	
<i>Scapharca satowi</i> (Dunker)	サトウガイ
<i>Scapharca globosa ursus</i> (Tanaka)	クマサルボウ
<i>Glycymeris vestita</i> (Dunker)	タマキガイ
<i>Glycymeris yessoensis</i> (Sowerby)	エゾタマキガイ
<i>Volachlamys hirasei</i> (Bavay)	ヤミノニシキ
<i>Volachlamys hirasei</i> (Bavay)	アワジチヒロ (学名はヤミノニシキと同じ)
<i>Pecten albicans</i> (Schröter)	イタヤガイ
<i>Crassostrea gigas</i> (Thunberg)	マガキ
<i>Ostrea deselamelloso</i> Lischke	イタボガキ
<i>Anomia chinensis</i> Philippi	ナミマガシワ
<i>Clinocardium buellowi</i> (Rolle)	イシカゲガイ
<i>Fulvia mutica</i> (Reeve)	トリガイ
<i>Fuscocardium braunsi</i> (Tokunaga)	ブラウンスイシカゲガイ
<i>Tresus keenae</i> (Kuroda et Habe)	ミルクイ
<i>Mactra chinensis</i> Philippi	バカガイ
<i>Macoma tokyoensis</i> Makiyama	ゴイサギガイ
<i>Moerella jodoensis</i> (Lischke)	モモノハナガイ
<i>Nitidotellina hokkaidoensis</i> (Habe)	サクラガイ
<i>Nitidotellina minuta</i> (Lischke)	ウズザクラ
<i>Diplodonta gouldi</i> Yokoyama	フタバシラガイ
<i>Solen krusensterni</i> Schrenck	エゾマテガイ
<i>Clementia valtheleti</i> Mabille	フスマガイ
<i>Paphia lischkei</i> Fischer-Piette et Métivier	スタレガイ
<i>Paphia venicosa</i> Gould	アケガイ
<i>Saxidomus purpurata</i> (Sowerby)	ウチムラサキ
<i>Dosinella angulosa</i> (Philippi)	ウラカガミ
<i>Phacosoma japonicum</i> (Reeve)	カガミガイ
<i>Protothaca jodoensis</i> (Lischke)	オニアサリ
<i>Ruditapes philippinarum</i> (A. Adams et Reeve)	アサリ
<i>Panopea japonica</i> A. Adams	ナミガイ
<i>Mya japonica</i> Jay	オオノガイ
<i>Anisocorbula venusta</i> (Gould)	クチベニデ
ウニ類 2種	
<i>Scaphechinus mirabilis</i> (A. Agassiz)	ハスノハカシバン
<i>Temnopleurus hardwickii</i> (Gray)	キタサンショウウニ

採集者：大滝孝久 種同定：中島 礼（産業技術総合研究所）

図版 1

1:ヘソアキクボガイ,25mm。2:エゾタマガイ,40mm。3:ツメタガイ,60mm。4:ミクリガイ,40mm。5:ヤツシロガイ,60mm。6:バイ,60mm。7:アカニシ,105mm。8:クマサルボウ,40mm。9:サトウガイ,55mm。10:エゾタマキガイ,40mm。11:タマキガイ,60mm。12:ナミマガシワ,45mm。13:マガキ,110mm。

\*数値は貝殻の高さ

図版 2

1:フタバシラガイ,20mm。2:ヤミノニシキ,40mm。3:イタヤガイ,85mm。4:ブラウンスイシカゲガイ,80mm。5:イシカゲガイ,45mm。6:トリガイ,40mm。7:スダレガイ,30mm。8:アケガイ,35mm。9:ゴイサギガイ,30mm。10:カガミガイ,40mm。11:ミルクイ,80mm。

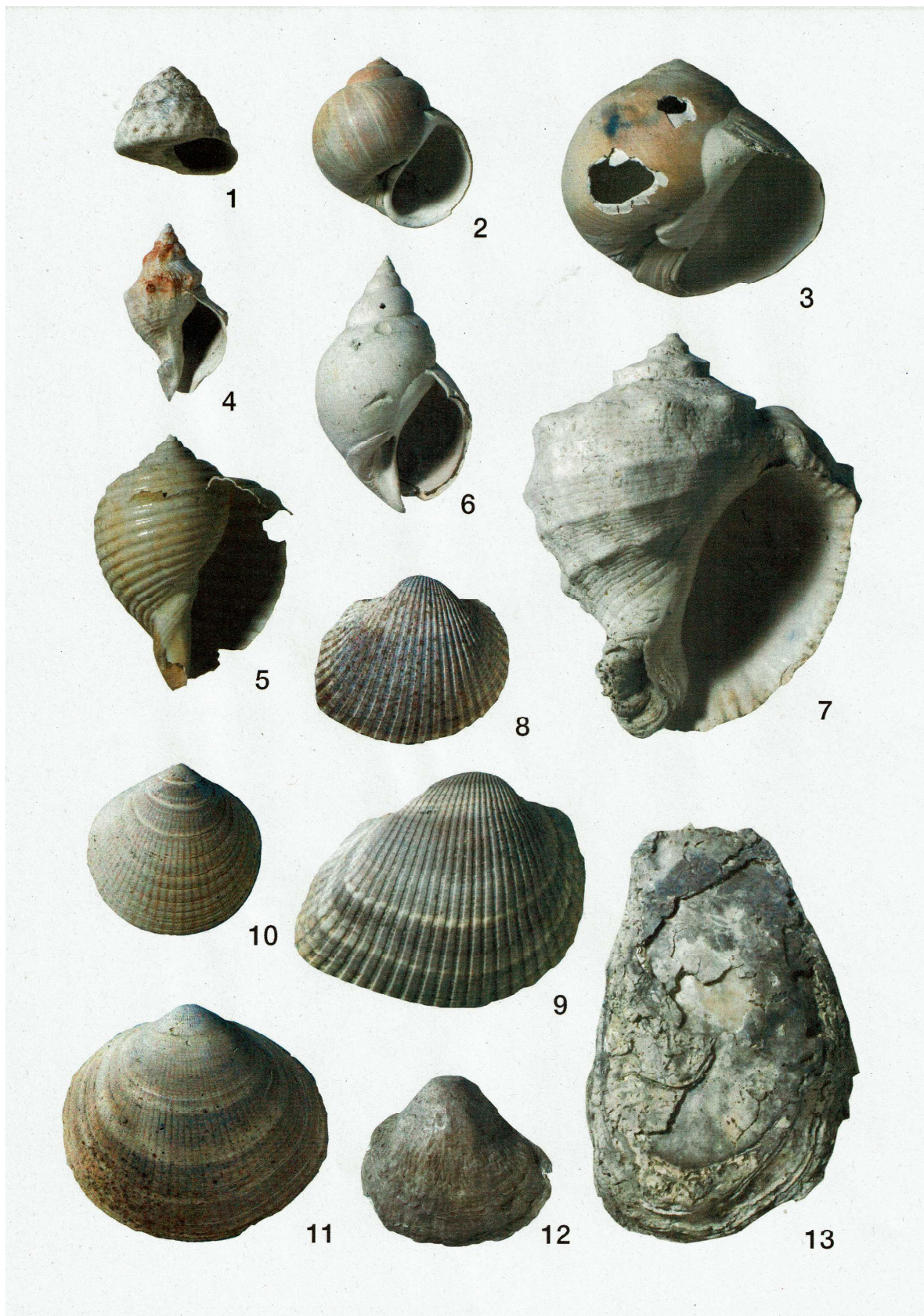
\*数値は貝殻の高さ

図版 3

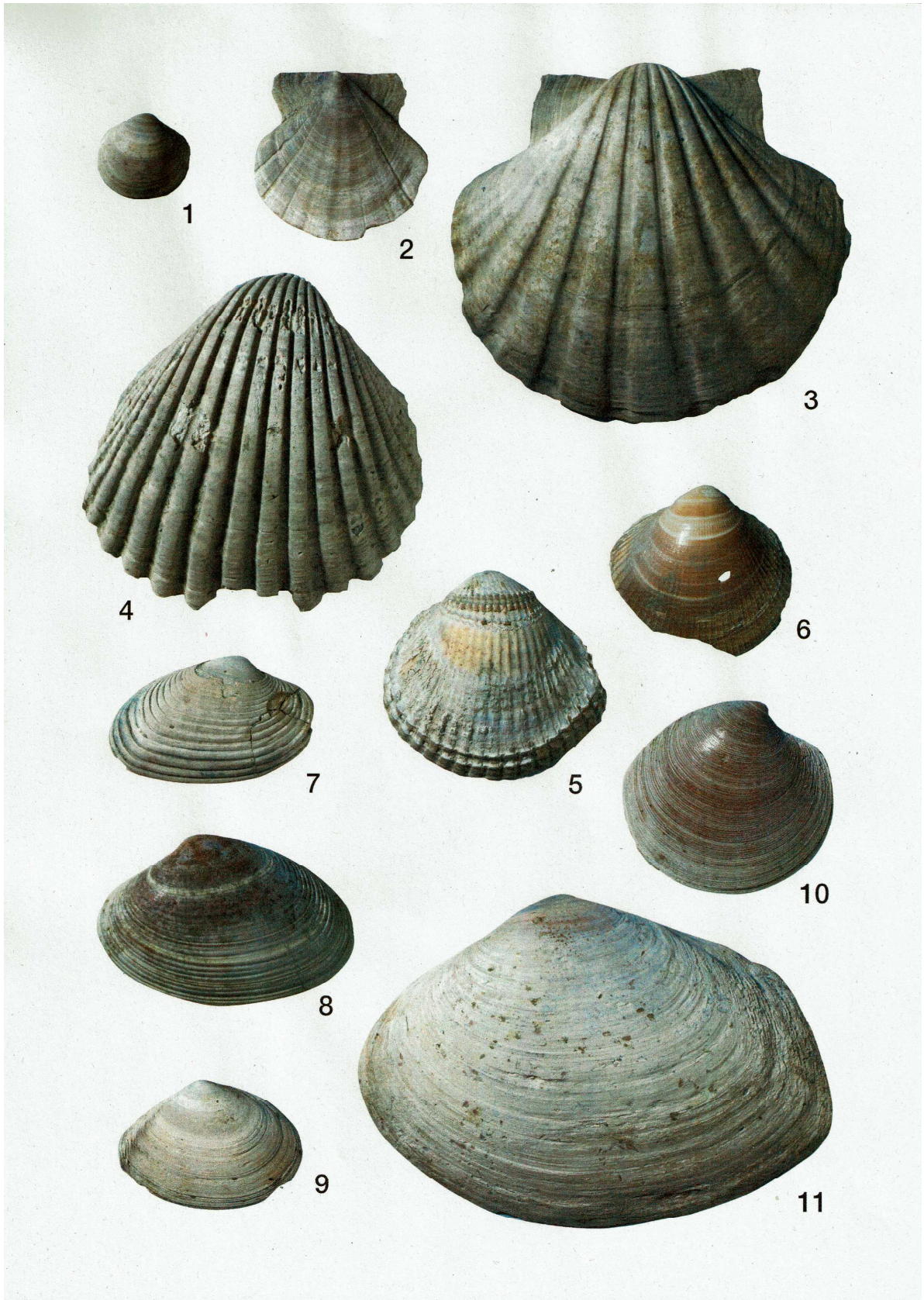
1:ウチムラサキ,65mm。2:オニアサリ,50mm。3:アサリ,30mm。4:ウラカガミ,45mm。5:クチベニデ,8mm。6:オオノガイ,55mm。7:ナミガイ,75mm。

\*数値は貝殻の高さ

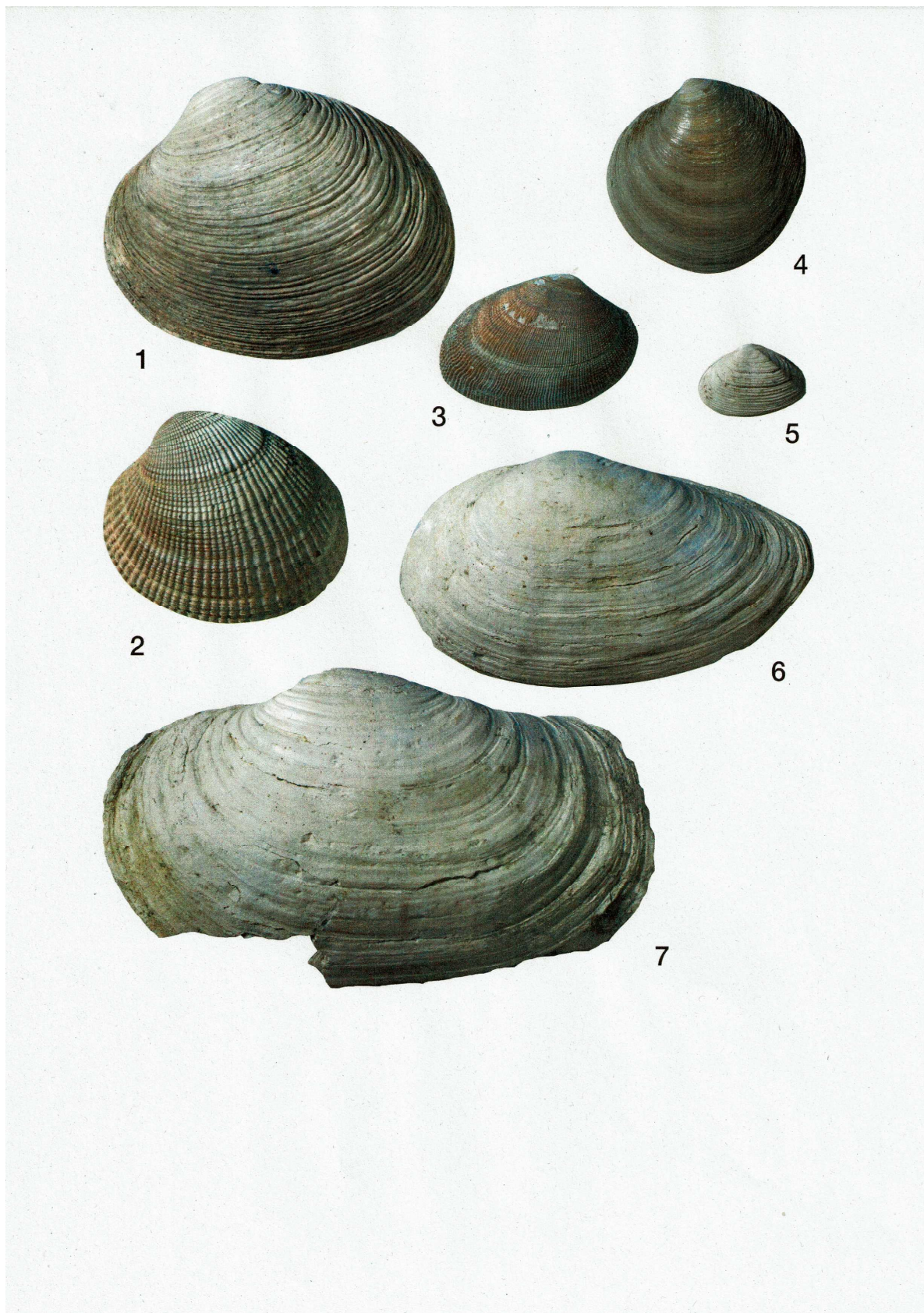
図版 1



図版 2



図版3



なかじま れい (国立研究開発法人産業技術総合研究所)

# 学びを育む地域文庫の歴史

## —和光市における西大和団地と諏訪原団地を中心に—

中岡 貴裕・石川 敬史

### 1. 研究の視角と目的

ポストの数ほど図書館を

かつて東京都杉並区で「かつら文庫」を開設し、海外の児童文学作品の翻訳をはじめ、児童文学作品の批評や文庫活動の実践など、地域の子どもたちと本をつないだ石井桃子の言葉である<sup>1</sup>。石井桃子の活動は、各地における家庭文庫や地域文庫の広がりとともに、公立図書館の設置と児童サービスの豊かな実践に結びついたことは知られている。地域文庫とは、「地域の自治会や町内会、PTA、有志グループなどが組織的に設置し、運営する子ども文庫」<sup>2</sup>であり、家庭文庫とは、「個人の篤志家が自宅を開放し、自己所有の児童図書を貸し出す形態の子ども文庫」<sup>3</sup>である。こうした地域・家庭文庫の活動や公立図書館における児童サービスの戦後史は、汐崎順子<sup>4</sup>や吉田右子<sup>5</sup>によって検討されているほか、近年では高橋樹一郎<sup>6</sup>が「子ども文庫」の歴史を整理し社会的意義を論じているとともに、竹内愨<sup>7</sup>も地域における図書館のあり方をたどる中で、石井桃子の活動や地域・家庭文庫の活動やネットワークを評価している。

また、藤本浩之輔<sup>8</sup>は子どもの遊びを論じる中で地域・家庭文庫の役割に触れているほか、磯井純充は自身が推進する「まちライブラリー」を論じる中でもこうした文庫に触れている<sup>9</sup>。戦後日本の地域図書館の歴史の中において、地域全体で子どもの読書環境をつくり、大人も子どもとともに学びあった地域・家庭文庫の活動が大きく位置づけられているとともに、社会教育や子どもの遊び、まちづくりとして図書館活動が実践されるプロセスにおいても、これらの文庫が評価されている。

埼玉県の南部に位置する和光市においても

大規模団地の建設や子どもの増加を背景に、1960年代半頃から地域文庫が各地で設置され始めた。これまでに調査を重ねた和光市を中心とする戦後移動図書館史研究<sup>10</sup>の過程においても、とりわけ団地自治会による地域文庫や読書会活動と、図書館や移動図書館活動が交差していたことが明らかになっている。例えば、埼玉県立浦和図書館の一日図書館「むさしの号」の巡回に当たり、地域文庫や読書会を担う女性らがステーションの設営の担い手にもなっていたことをはじめ、団地において地域文庫を担う住民らが和光市の移動図書館を求める運動の起点になっていたこと、さらには中央公民館図書室からこれら文庫に対して団体貸出による支援などが行われていたことなどが明らかになっている。

すでに戦後における団地と社会教育については、数多くの実践報告や論考がある。例えば久井英輔<sup>11</sup>が高度成長期における団地と社会教育との議論を整理しているほか、上野景三<sup>12</sup>は都市近郊団地に関わる社会教育学や建築学の研究の系譜と成果を整理し、社会教育学研究の課題を提起している。戦後の団地の歴史研究については、原武史<sup>13</sup>が戦後思想史の視点から首都圏郊外の団地を対象に鉄道インフラが住民の意識を規定していることを実証的に明らかにしているほか、総中流の始まりという視角から渡邊大輔ら<sup>14</sup>が団地の生活時間を研究対象にしている。かつては倉沢進ら<sup>15</sup>による都市社会学研究の立場から生活様式やコミュニティに関する実証研究も盛んに行われていた。総じて戦後の団地に関わる社会教育研究や歴史研究においては、高齢化と建物の老朽化という現代的課題を背景に、「学び」を軸とした地域社会教育としてのあり方や、地域再生（団地再生）とまちづくりをはじめ、戦後日本の社会形成過程において団地に集う人々とその空間が大きな影

響を及ぼしたという問題意識があろう。その一方で、公立図書館と団地に関わる歴史的な分析や考察は、かつて団地に設置された地域文庫とのかわり<sup>16</sup>を除き、十分にみることはできない。

こうした研究視角と問題意識を背景に、本稿では埼玉県内で早期に開設された和光市における西大和団地と諏訪原団地における地域文庫や読書会活動を対象に、文庫開設の経緯や活動の歩みを明らかにするとともに、公民館図書室や公立図書館、移動図書館との関わりを踏まえることによって、地域における文庫活動が果たした役割と意義について再発見することを目的とする。そのため本稿では、西大和文庫（ありんこ親子読書会）と諏訪原文庫において活動を担っていた地域住民の方々へのインタビュー調査記録を中心に、関連資料も用いながら実証的に検討する。なお本稿で掲載したインタビュー記録については、紙数の関係から内容を整理・抜粋するとともに、年表記は西暦で統一している。インタビュー記録の詳細は、今後本研究の報告書としてまとめる予定である。

## 2. 団地と移動図書館・地域文庫

### 2.1 団地建設と人口の増加

埼玉県は1950年代後半から人口増加が目立つようになり、1960年に入るとその傾向は一層著しくなった。1965年には年間人口増加率は戦後最高の約7%に達し、1970 - 1975年にかけての人口増加率は24.7%に及び、全国第一位の増加率を示した<sup>17</sup>。人口が急増する中で埼玉県内には多くの団地が建設されていく。

和光市（大和町）においても、1964年8月に日本住宅公団によって西大和団地の建設が始まり、1965年3月に第一期工事、同年6月に第二期工事が完成した<sup>18</sup>。その翌年に当たる1966年1月に日本住宅公団は諏訪原団地の建設も開始し、同年10月から同団地への入居が始まった<sup>19</sup>。こうして「西大和団地と諏訪原団地という二大団地が相次いで建設され、大和町の様相は大きく変化」し、1966年の人口は「対

前年比で25%増という驚異的な増加率」<sup>20</sup>を示した。人口の急増に伴って、都市基盤や公共施設整備の遅れが顕著となり、なかでも教育施設の整備は「緊急かつ深刻な問題」<sup>21</sup>であった。1971年には総合会館の完成に伴い中央公民館図書室が移転開設しているが、その翌年に当たる1972年度の一般会計当初予算を見ると、予算全体のうち教育費が占める割合は30.7%に及び、その内訳としては小学校費（66.7%）と中学校費（19.2%）が大半を占め、社会教育費の占める割合はわずかに6.2%であった<sup>22</sup>。

### 2.2 県立図書館による移動図書館の巡回

県南部を中心とする大規模団地急増に対して、埼玉県立図書館では500戸以上の中高層集団住宅地を対象に、大型バスを改造した約4,500冊積載可能な一日図書館「むさしの号」の巡回を1972年1月に開始した<sup>23</sup>。埼玉県立図書館による移動図書館の和光市への巡回については、すでに1962年から「むさしの号」（約800冊積載）が和光市中央公民館へ巡回していたが、1971年5月になると新たなステーションとして新倉小学校、西大和団地、諏訪原団地が加わっている<sup>24</sup>。そして翌年の1972年1月には、西大和団地と諏訪原団地がこの一日図書館のステーションとして位置づけられた（図1、図2）。

こうした県立図書館による移動図書館の巡回が契機となり、「県立依存型ではなく、市内各地域での身近な駐車場でサービスを受けることによって、地域的な不均衡と不平等を解消しよう」と呼びかけられ、「和光市に移動図書館をつくる会」が発足し、移動図書館を求める活動に結びつくこととなった<sup>25</sup>。その活動の中心は団地に居住し、団地内において地域文庫の活動を担っていた女性らであった。

### 2.3 埼玉県と和光市における地域・家庭文庫

埼玉県内における地域・家庭文庫の開設状況についてみると、図3のとおりであり、1970年代から急増していることがわかる。1981年9月現在においては、県内に196の文庫があ



BM名	ステーション名	S37年度 (1962)	S38年度 (1963)	S39年度 (1964)	S40年度 (1965)	S41年度 (1966)	S42年度 (1967)	S43年度 (1968)	S44年度 (1969)	S45年度 (1970)	S46年度 (1971)	S47年度 (1972)	S48年度 (1973)	S49年度 (1974)	S50年度 (1975)
県立 むさしの号	大和町中央公民館	8月から													
	新倉小学校										5月から				
	諏訪原団地										5月から				
	西大和団地										5月から				
	南大和団地											4月から			
	白子小学校												4月から		
一日図書館	諏訪原団地										S47年1月 から		S49年2月 末で廃止		
	西大和団地										S47年1月 から				S51年3月 末で廃止

図1 埼玉県立図書館による移動図書館ステーション変遷（和光市内）



図2 埼玉県立図書館による移動図書館ステーション位置図（和光市教育委員会生涯学習課提供の現況白図を基に作成）

ったことが報告されている<sup>26</sup>。

和光市内における地域・家庭文庫の設置状況については、1981年9月現在、8カ所設置されていた記録が残されている(表1)。このうち、1964年に開設したとされる西大和団地自治会文庫が最も古く<sup>27</sup>、1968年開設の諏訪原団地地理学会文庫と続く。西大和団地自治会文庫は埼玉県内でも2番目に古い文庫であり、「瀬田文庫(昭和32年)西大和自治会文庫(昭和39年)は特筆されよう」<sup>28</sup>と指摘されている。同時に、諏訪原団地地理学会文庫も県内では5番目の古さであり、両文庫は古い歴史を有し、埼玉県内における地域文庫の先駆けと位置されていたことがわかる。

これらの地域文庫に対して和光市の中央公民館図書室は、埼玉県立図書館による貸出文庫の利用案内を周知<sup>29</sup>するとともに、1972年7月からは中央公民館図書室による貸出文庫として、地域団体に対する貸出を開始した<sup>30</sup>。とりわけ埼玉県立図書館による貸出文庫をとおして行われた地域文庫に対する支援が「市の公民館をとおしておこなわれたので、文庫と公民館のつながりができるようになり」<sup>31</sup>、それが後述する「ありんこ親子読書会」の発足にきっかけを与えた点は特筆することができる。

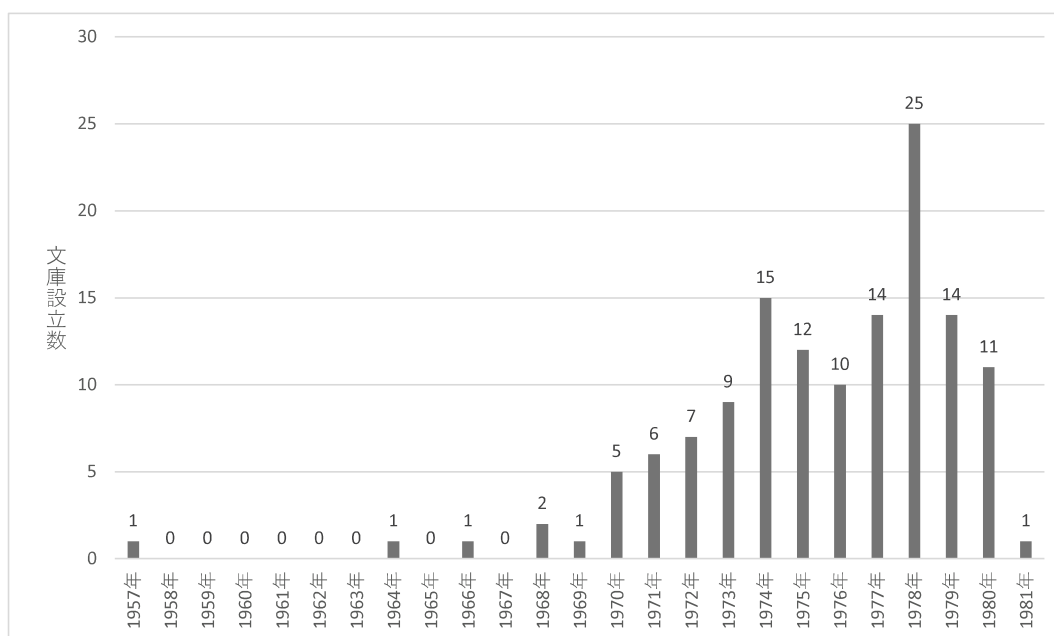


図3 埼玉県内の地域・家庭文庫の年別新規設立数 (1957-1981年)

(全国図書館埼玉大会実行委員会編『埼玉の移動図書館』1981を基に作成)

文庫名	開始年月日	所在地 ※番地以降は省略	世話人数	会員数	蔵書冊数	会費	備考
ありんこ親子読書会	S46	和光市西大和団地2	17	39世帯 57人	134	月100円 年1,200円 (世帯)	
しらこぼと文庫	S52.5	和光市白子2	2	120	1000	無	
諏訪原団地地理学会文庫	S43.7.27	和光市諏訪原団地集会所	32	団地居住者	1480	無	理事会より10万円
なかよし文庫	S54.7	和光市白子2	16	110	400	無	
西高島平スカイハイツ自治会文庫	S53.1.21	和光市白子3	3	75世帯	250	無	
西大和自治会文庫	S39.?	和光市西大和団地	52	860	1644		
ひまわり文庫	S51.6						
たげのこ文庫	S51.12						

表1 1981年現在の和光市における地域・家庭文庫

(全国図書館埼玉大会実行委員会編『埼玉の移動図書館』1981を基に作成)

### 3. 西大和文庫と「ありんこ親子読書会」

#### 3.1 西大和団地と西大和文庫

西大和団地の建設は1964年8月に日本住宅公団によって始まり、1965年3月に第一期工事、同年6月に第二期工事が完成した。鉄筋五階建41棟、収容世帯数は1,427戸であり、「当時の東武東上線沿線では上福岡につぐ大団地」であった<sup>32</sup>。この西大和団地に地域文庫（団地文庫）として西大和文庫が開設され、団地住民向けに本の貸出等が行われていた。西大和文庫の設立経緯については川久保武子が以下のとおりまとめている。

四〇年六月に入居開始をした団地で、カークラブや、野球部などというサークルはすぐにできたのですが、文化的な集まりはなかなかできませんでした。

そんなときに、自治会文庫の設立を願う母親たちが手をとりあって、文庫設立を提案し、みんなに呼びかけを始めました。

最初は寄贈本で、わずかな蔵書でスタートした自治会文庫も、その後、県立図書館から児童の団体貸し出しをうけられるようになり、だんだん充実されてきました。

この団体貸し出しが、市の公民館をとおしておこなわれたので、文庫と公民館のつながりができるようになりました<sup>33</sup>。

川久保の記録によると、西大和文庫が開設されたきっかけは母親たちの呼びかけによるものであり、その願いが結実して設立されたことがわかる。

#### 3.2 活動の目的

西大和文庫が開設されたことをきっかけに、その活動はさらに広がりを見せ、「ありんこ親子読書会」が誕生することとなる。先の西大和文庫同様に、川久保によってその詳細が記録されている<sup>34</sup>。

“新しい子どもの本”を手にした母親の

なかから、“子どもの本”のことについて学びたいという要求が生まれ、公民館側がそれを受けとめて、四九<sup>35</sup>年六月から十二月にかけて、西大和団地集会所で、「親と子のための児童文学を読む会」を開催することになりました。

……（略）……

この講座の受講者は、約一〇〇名にもおよび、そこで学んだ母親たちが、学習したことを実践にうつす場として、四六年四月、次のような申しあわせ事項をつくり「親子読書会」が生まれました。

○目的として

1. 読書をとおして、親と子の交流をはかり親子読書をひろめ、深めていきます。
2. 未来に生きる子どもたちに、よい本にめぐり合わせたいと願います。
3. 集団の中で、子どもの多面的な認識を育てたかめ、豊かな夢や、未来の展望をきりひらく創造力を身につけさせたいと願います。
4. どの子どもにも、楽しい読書の場が与えられるよう力を合わせます。

○活動としては

1. 親子読書会の開催、家庭での親子読書の交流
2. 子どもの生活と、子どもの本の研究
3. 親子読書会だよりの発行
4. 学級、自治会文庫、公共図書館関係の人たちと手をつなぎ、読書施設の整備、充実に力を合わせる。

ありんこ親子読書会の活動は発足後活発に行われ、当時の埼玉新聞（1978年8月1日）においても「すばらしい成果を上げている」と報道された<sup>36</sup>。

こうした「会の目的及び活動」は、第十三回（1983年）から第十六回（1986年）までの総会資料の記録によると、同一の内容であったことがわかる。「第十三回西大和ありんこ親子読書会総会資料（1983年7月18日）」<sup>37</sup>によると、

同会の目的及び活動は以下のとおり記録されている。

#### 目的

- ・読書を通して親と子の交流をはかり親子読書を深めていきます。
- ・未来に生きる子どもたちによりよい本にめぐり合わせたいと願います。
- ・集団の中で多面的な認識を高め、豊かな未来の展望をきりひろく想像力を身につけさせたいと思います。
- ・どの子にも楽しい読書の場が与えられる様に力を合わせます。
- ・「親子読書・地域文庫連絡会」と「日本親子読書センター」に団体加入し、会の発展をはかります。

#### 活動

- ・親子読書会の開催
- ・家庭での親子読書の交流
- ・子どもの生活と子どもの本の研究
- ・会誌「ありんこだより」の発行
- ・自治会文庫の管理運営に協力
- ・学校、地域の読書会、文庫、公共図書館関係の人たちと手をつなぎ読書施設の整備充実に力を合わせる。

これらは川久保が記録した1971年の発足当時の「申しあわせ事項」とほぼ同内容であるため、同会の基本的な姿勢は担い手によって継承されているといえよう。ありんこ親子読書会の活動については、ほぼ毎月発行されていた会誌『ありんこだより』に記録されている。ここには、イベントや当番の予定など各種連絡事項をはじめ、様々な事業の報告や子どもたちの感想など多岐にわたる内容が記されている<sup>38</sup>。

### 3.3 インタビュー調査

西大和文庫と「ありんこ親子読書会」の活動について、当時の状況や活動内容についてお話をうかがわせていただいた。なお、本稿においては、特に断りのない限り「西大和文庫」については「文庫」、「ありんこ親子読書会」については「ありんこ」と表記している。

#### (1) インタビュー概要

- ・調査日時：2019年12月15日（日）  
10:00 - 12:30
- ・場所：和光市図書館会議室
- ・協力者：  
桐田光枝（元ありんこ親子読書会）  
鈴木真由美（元ありんこ親子読書会）  
佐藤あゆみ（元ありんこ親子読書会 ※当時、子どもとして活動に参加）
- ・聞き手：中岡貴裕、石川敬史
- ・オブザーバー：小林理恵（和光市図書館長）

#### (2) 西大和文庫の運営について

中岡：『埼玉の移動図書館1981』<sup>39</sup>によると、「ありんこ」は1971年に始まったようです。そして、西大和団地の自治会文庫は1965年から開始されていたようです。

桐田：その自治会文庫というのが、我々が「ありんこ」として運営を引き継いだ「文庫」のことだと思います。西大和団地には西大和文庫という団地の文庫がありました。団地の集会所の大きなお部屋の隣に「文庫」の部屋があって、絵本や紙芝居などの本が1,500冊ほどあり、毎週土曜日の午後に開いていました。「文庫」の本は子どもたちに2週間、貸出することもできました。土曜日に貸出をして、「2週間後の土曜日に返してね」といって紙に名前を書いてもらって。本の購入のお金は自治会から出してもらってました。「文庫」の運営は、「ありんこ」から一人、自治会内で1年ごとの持ち回りの役員である図書部、文化部からそれぞれ一人ずつ選出してもらって運営していました。それが、途中から団地の役員からの選出が無くなり、「ありんこ」が「文庫」を引き継いで運営する形になったと思います。

……（略）……

中岡：「文庫」と「ありんこ」というのは、同じメンバーで運営していたということでしょうか？

桐田：そうですね、同じです。ただ、私たちが入る前はどうかかわからないですが、私たちが入った時には、「西大和文庫はありん

こ読書会が運営する」ということになっていました。必ず一人は貸出の机にいて子どもたちとお話ししたりして、楽しかったですね。

### (3) 西大和文庫の蔵書

中岡：「文庫」の蔵書はどのように購入していたのでしょうか？

鈴木：年に1回ですね。自治会からお金をもらって、それを使って購入していました。

桐田：数人で「今年はどんな本を買おうか」と話し合いながら買いに行きましたね。あの頃はインターネット環境がないから、クレヨンハウスに買いに行ったりして。

石川：現物を見て購入されていたのですね。

桐田：だから、選び抜いて買った良い絵本がたくさんありましたよ。

中岡：どのような分野の本が多かったのでしょうか？

桐田：ほとんど絵本と児童書と紙芝居でしたね。大人向けの本はなくて、子ども向けの本だけでした。本棚に入りきれないくらいありましたね。

鈴木：図鑑とかもあったよね。

桐田：ありましたね。小学校6年生くらいまでの子どもが読むような本がそろっていました。

……（略）……

中岡：本の並び方というのは、どのような順番で並べていたのでしょうか？

桐田：大きく分けて、絵本の棚と、小さい子用の本がある棚と大きい子用の本がある棚というように分けて、児童書は児童書、紙芝居は紙芝居というように並べていました。

中岡：名前順とかではなく？

鈴木：名前順ではないですね。コーナーで分けて、あとは大きさとかでそろえていました。

桐田：本棚も高さがそれぞれあるから、背の高い本と低い本は本棚に合わせて置いたりしました。さすがに図書館のようにきっちりした番号管理などはできなかったですね。壁一面に本があって、1,500冊くらいありました。

### (4) ありんこ親子読書会の活動

桐田：「ありんこ」は、「文庫」に合わせて月に2回活動していました。一人が「文庫」の受付をして、他のお母さんたちは毎回順番で各自が選んだ本や紙芝居を子どもたちに読み聞かせをしていました。その後、工作やゲームをしたりしていました。だいたい2時間くらいですね。季節に合わせて色々な行事も親子でしてきました。春にはヨモギをつんでヨモギ団子づくり、七夕には七夕飾りをつくったり、どんぐりのコマをつくったり、クリスマス会や影絵の制作やクレープをつくったり豚汁をつくったりと色々なことをしていました。たまにはキャンプに行ったり、水族館やミカン狩り、昭和記念公園や植物園に行くこともありました。

鈴木：クリスマス会のこととか、すごく思い出すよね。影絵をつくったり……。

佐藤：ここにあるスイミーの影絵は、小学生の頃に作ったものですね。

桐田：そういうノウハウを図書館から教えてもらって、私たちはそれを「ありんこ」に持ち帰って活動していましたね。色々なことをやりましたね。

佐藤：新聞紙のプールをよく覚えていて、一番楽しかった思い出がありますね。たしか、福音館書店の『しんぶんしでつくろう』<sup>40</sup>という絵本があって、それを参考に家をつくったりプールをつくったり……。

鈴木：新聞紙のプールをつくったことは、自分のこどもに聞いたらすごくよく覚えていましたね。

佐藤：福音館書店の『かがくのとも』のシリー



写真1 インタビュー当日の様子

ズに沿って遊ぶことが多かったように思いますね。

桐田：いわさきちひろ美術館に行ったこともありましたね。本に関するものを実際に見に行くということで、植物園に行ったりもしました。

……（略）……

石川：「ありんこ」のお楽しみ会などの活動は、団地の集会室で行っていたのですか？

桐田：そうです、団地の集会室ですね。絵本を読むときは、お母さんによってレパートリーが色々違うんですよ。好みが色々あるから、聞く方は楽しかったんじゃないかなって思います。だいたい1人2-3冊読んでましたね。それで2-3人が読んだら、その後は工作をしたりとかゲームをしたりとかしていました。

石川：その日に読む人は、その場で決めた感じでしょうか？

桐田：次回は誰が読むかはおおむね決めてました。クリスマス会の時などは、みんなで何をやるか事前に考えて大変でした。「子どもたち主体で何かつくらせてあげたい」という気持ちはずがまずあったから、必ず何かつくってましたね。

佐藤：つくってたね。すごく楽しかった。それでつくったものを、子どもたちが子どもたちの前で見せるんだよね。それでお土産もついできたりとかして。

#### (5) ありんこ親子読書会のメンバー

石川：みなさんが「ありんこ」に出会ったきっかけは？

桐田：気の合うお母さん同士で集まっているときに、「ありんこ」のことを教えてもらって、それで一回行ってみたらすごく楽しかったので入りました。みんな良い人たちでした。今でも会えばその頃の話で盛り上がりそうですね。

石川：メンバーが入れ替わったりということは無かったということでしょうか？

桐田：一回入った人が、入れ替わりのためにやめるというものではなかったですね。

中岡：「ありんこ」のメンバーは、どんどん追加されていくという感じでしょうか？

桐田：そうです。だからクリスマス会なんかも、小さい子のグループと大きい子のグループで出し物を別々にするということもありました。

佐藤：子どもの参加は自由だから、DIK マンションのお友達が参加したということもあったと思います。気に入った子は、何回も遊びに来ることがありました。

桐田：やはり本が好きだったりする子が集まりやすいのだと思います。集まった人は、みんな楽しみながら活動していましたね。

#### (6) 広報活動

石川：団地内での広報はどのようにされていたのでしょうか？

桐田：チラシをつくりましたね。団地の中に『自治会ニュース』というものがあって、そこに必ずクリスマス会やお楽しみ会のお知らせも載せていました。

中岡：『自治会ニュース』というのは、掲示板に掲示するものでしょうか？

鈴木：掲示板に貼っていたんじゃないかな。

佐藤：各棟に掲示してあったと思います。

桐田：それで、お楽しみ会なんかは20人くらい集まったりしましたね。

鈴木：お母さんが来なくても、子どもだけで来たりということもありました。

桐田：団地内だから危なくななく来れるというのも良かったのではないかと思います。

石川：「ありんこ」独自の広報誌などはありましたか？

鈴木：ありました。

中岡：『ありんこだより』でしょうか？

桐田：そうです！『ありんこだより』です。何冊もつくりましたよ。あれは楽しかったですね。よく中央公民館に刷りに行きましたよ。

鈴木：輪転機を使って刷ってたね（笑）。

中岡：それは、1枚のチラシというのではなくて冊子ということでしょうか？

桐田：そうです。

中岡：誰に配っていたのでしょうか？

桐田：ほとんど「ありんこ」内で配っていましたね。「ありんこ」用の広報という感じです。私はイラストを描いた記憶があります。

鈴木：いろんな本の紹介とかしてなかった？

桐田：あったかもしれない。親向きの内容が多かったよね。

鈴木：うん、子ども向けの内容では無かったよね。今考えたらとても大変そうだけど、よくやっていましたよね。みんな好きだったのよね。

#### (7) ありんこ親子読書会と西大和文庫の終焉

中岡：「ありんこ」はどうして終わってしまったのでしょうか？

桐田：団地の集会所の建て替えがきっかけでした。その頃には図書館が充実してきたこともあって、団地の「文庫」で借りる子どもも少なくなってきました。それで、その分のスペースを空けたいという団地側の要請があって、「文庫」を閉じることになりました。

石川：そうだったのですね……。

……（略）……

石川：団地の「文庫」が無くなってしまふことについて、反対される方とかはいらっしゃらなかったのでしょうか。子どもの数が少なくなってきたことも関係するかもしれませんが……。

桐田：「文庫」を閉めるころは、「文庫」自体を知らない人も多かったのかもしれないね……。

鈴木：お母さんが忙しくなってしまったのかもしれないね。

桐田：確かに、共働きの人が多くなってきましたから、土曜日でも忙しくなってしまったのかも。専業主婦は少なくなりましたね。

佐藤：あと、子どもは成長してしまいますから、新しい人が入ってこないと子どもの数が減ってしまいますよね。それで減っていったんじゃないかなという気がします。

桐田：今はいろんな国籍の人も団地に入居してくるようになりました。

中岡：最後にお別れ会のようなものはされたの

でしょうか？

桐田：やりました！

鈴木：みんな高校生になった子たちもたくさん集まったんですね！

桐田：最後はみんなで「クレープパーティーをしよう！」とあって、最後だから卒業生たちに声をかけました。

## 4. 諏訪原文庫と「たつの子親子読書会」

### 4.1 諏訪原団地と諏訪原文庫

諏訪原団地は日本住宅公団によって1966年1月に第1期の建設が開始され、翌年に第2期、さらにその翌年に第3期の建設が行われ、入居は1966年10月から始まっている<sup>41</sup>。諏訪原団地には団地集会所の洋室に諏訪原文庫があり、現在も運営されている。その開始は1968年に遡り<sup>42</sup>、現在は、蔵書数約3,500冊、毎週日曜日10:00 - 11:30に貸出が行われ、団地の居住者はだれでも利用することができる<sup>43</sup>。

諏訪原団地で活動していた読書会として、川久保は「たつの子親子読書会」を紹介している<sup>44</sup>。「たつの子親子読書会」ができたきっかけは、和光市中央公民館で1971年に開催された第二回「親と子のための児童文学を読む会」<sup>45</sup>で、第一回の受講生が西大和団地の「ありんこ親子読書会」で素晴らしい活動をしていることを知ったこと等を挙げている。「ありんこ親子読書会」に比べ、たつの子親子読書会は、ちいさなんびりした親子読書会であったとされ、その活動は「学級のなかの自主サークル」というもので、先生（教員）を含めた活動であり、「ありんこ親子読書会」が西大和団地で活動していたのに対し、「たつの子親子読書会」は公民館、団地集会所、地域集会室、学校教室などを使用するものであったと報告している<sup>46</sup>。

### 4.2 インタビュー調査

「諏訪原文庫」の歴史と現在の活動について、お話しをうかがわせていただく機会をいただいた。なお、本稿において特に断りのない限り「諏訪原文庫」については「文庫」と表記した。

**(1) インタビュー概要**

- ・調査日時：2020年10月17日（土）  
13：30-16：30
- ・場 所：諏訪原団地集会所（諏訪原文庫）
- ・協力者：  
坂井和子（諏訪原文庫世話人）  
大谷鐵子（諏訪原文庫有志）
- ・聞き手：中岡貴裕、石川敬史

**(2) 諏訪原文庫の運営体制**

中岡：諏訪原文庫の運営体制は、有志当番と評議員による体制ということですが、具体的にはどのようなもののでしょうか？

坂井：せっかくこれだけある設備や組織をぜひ続けていきたいと管理組合の理事さんに相談して、今の体制があります。諏訪原団地は委託管理ではなくて自主管理なんです。1年任期で毎年各棟から1名ずつ理事が、各階段の縦10軒から1名ずつ評議員が出て運営されています。福祉担当の理事2名と評議員二十数名が文庫の運営に直接関わっています。「福祉」の評議員として来ていただいている方は、文庫の当番は年に2回くらい担当していただくことになります。有志当番は自発的にお手伝いしてくださる方々ですね。

中岡：元々は有志当番だけだったものが、後に評議員が加わったということでしょうか？

坂井：そうです。評議員が加わったのは、ずっと後の話ですね。はじめはずっと有志のみで行っていました。評議員というもの自体はありましたが、福祉の評議員が文庫の当番に加わったというのは、比較的最近の話ですね。

中岡：有志当番というのは入れ替わりがあるというよりも同じ方々が続けているのでしょうか？

坂井：有志当番には新しく入られる方もいますが、「有志」というように自発的に入られる方々ですね。そうした方々にはそれぞれ色々なきっかけがあります。例えば評議員として文庫の当番をしてみたら意外と良かったということで入られる方もいます。

……（略）……

坂井：当番のやることについては手順書のようにまとめたものがあります<sup>47</sup>。管理組合の予算などは年度で区切られますが、毎年理事や評議員さんが変わるのは3月、4月ではなく5月後半の総会となっています。新しい方でも見ればわかるようにまとめてあります。

**(3) 諏訪原文庫の蔵書管理**

坂井：このノート（写真2）に蔵書の貸出のことがまとめてあります。昔、大和町時代の中央公民館図書室から借りてきた本の書名なども記載してありますね。

石川：貸出の統計なども記録されていて……、とても貴重な資料ですね。

坂井：ここに記載されている諏訪原文庫の本は、最初は家庭から持ち寄られた本が中心でした。

……（略）……



写真2 諏訪原文庫で使用しているノート（貸出記録簿）

石川：このノートに書かれている記録は1975年からとなっていますが、それ以前は同じようにノートで管理されていたのでしょうか？

坂井：これより前は、家庭から持ち寄られた本を中心にしていたと思うのですが、残念ながら記録がないのでわからないんです。公民館図書室から公共の本を借りることになって、大事な本だからということでこういう記録をつけはじめたのかもしれないね。

石川：なるほど。

坂井：このノートは、慣れてくればいいのですが、それまでは本を探すのが大変でした（笑）。図書館でつけられた番号順に並べられているのですが、私たちが探すときは書名でしょ？



ですから少し大変でした。当時は本が少なかったから、なんとなく覚えていたものでざっと見渡せばなんとか探せましたが、今はこれだけ蔵書がありますからさすがに覚えられませんね（笑）。

#### (4) 貸出・返却・督促・装備・配架

坂井：今はこのようにカードで貸出をしています。先週借りた人、それ以前に借りた人などを入れる場所で分けています。あまりにも返却期間を超過している場合はご連絡しますが、最近ではそこまで厳しくはしていませんね。最近は子どもだけではなく、大人も利用して借りていく人が増えてきました。そして、この利用カードにはすでに諏訪原団地を出られた人なども入っています。一度、全部捨てようかと思ったのですが、なかなか捨てられなくて……。

石川：貸出方法は、この利用カードを使っていたのですね。本にポケットを付けて……。

坂井：最近では裏表紙にもきれいな絵や文字が入っているからポケットを付ける場所も難しくなりましたね。

石川：貸出方法は昔からずっと変わっていませんか？

坂井：ずっと変わっていませんね。

石川：この方法ですと返却された後は貸出履歴も残りませんね。

坂井：このカードを捨てずにとっておいて良かったこともあるんですよ。昔利用していたお子さんと、今では立派なお父さんになった人

が、あるとき自分のお子さんを連れて一緒に文庫に来たんですよ。それでお子さんが借りるときに、「あ、自分も借りようかな」なんていって子どもの頃に作ったカードを使って借りて行って（笑）。そうしたことが、何件もありましたね。「とっておいて良かったあ」と思いました（笑）。ここを利用する人の中には、親・子・孫と三代で利用する人もいます。おじいちゃん、おばあちゃんと来るときもあればお父さんやお母さんと来たりとね。

石川：新しく購入した本には、図書の装備としてまずはポケットをつけて、1冊ごとにカードを作るのですね。

坂井：それも一仕事なんです（笑）。

……（略）……

石川：本はどなたが買いに行かれるのでしょうか？

坂井：諏訪原文庫ではリクエストを受付けています。事務所のポストに入れていただいてもいいのですが、多くは直接お渡しいただいています。そうしたリクエストされた本を購入したり、続き物の本を購入しています。いっぺんに予算を使ってしまうと、新しく出た本が買えないのでやりくりしていますね。昔は団地内に子ども向けの本屋さんを経営している方が居住されていて、その方に頼んで購入して運んでもらっていたのですが、その方が転居されてからは市内の書店で購入しています。持ち帰る必要もあるので、だいたい3 - 4人で購入しに行きますね。

大谷：この本棚は二重になっていて、裏側にも本が置けるようになっていました。

坂井：昔人気だったシリーズ物の漫画で、今はあまり利用が無くなったようなものは後ろの本棚に置くようにしています。

中岡：本の入れ換えや配置換えはされるのでしょうか？

坂井：新刊を購入していけば本棚に入りきらなくなってしまうから、本当は処分もしていかないといけないのですが、なかなか本は廃棄できないんですよ。



写真3 インタビュー当日の様子

**(5) 諏訪原文庫の利用者**

中岡：子どもたちが諏訪原文庫を利用する際の様子はどうなものでしょうか？

坂井：特に禁止しているものなどは無いですね。最初から最後まで借りないでずっと本を読んでいる子もいます。スポーツのクラブの試合の待ち時間に利用している子もいます。夢中になって本を読んでいる子もいるから、試合などを控えている子にはあらかじめ「何時からなの？」と聞いておくようにしています（笑）。私なんかは漫画でも読むのにある程度時間がかかりますが、子どもたちは読むスピードが速いんですよ。だからほんの2、30分程度の試合の待ち時間でも読めてしまうんです（笑）。

石川：子どもたちはみんなここが日曜日に開いているというのはよく知っているんですね。

坂井：最初は知らない子もいるかもしれないけど、お友達同士で伝わるみたいですね。

……（略）……

中岡：諏訪原文庫では、何かイベントを行うことはあるのでしょうか？

坂井：文庫としてのイベントは無いですね。でも、集会所で七夕の時は笹をもらってきて手作りの七夕飾りをつくったりすることはあります。文庫の半分くらいを使って、本の貸し借りをするとところと工作をするところという感じで、なんとなく分けて行われています。

……（略）……

坂井：昔は子どもばかりの利用でしたが、最近では良いことに大人の利用もありますね。だから10年近く前からは大人向けの本をリクエ



写真4 諏訪原文庫の書棚

ストに応じて入れるようにしています。

石川：ちょっと歩いてこられるところに文庫があるというのが良いですね。

坂井：文庫に来れば、私たち当番もいますし、子どもたちもいますからしゃべることもできますしね。普段、家にお一人でいる方にも癒しとなれるのではないかと思います。古くからお住まいの方に聞いてみると、みんな最初は「諏訪原文庫というのは子ども向けの本しかないところだ」という印象だったようなんです。私は元々、「文庫の本は子どもの本」と決めつけなくても良いと思っていたこともありますから、「大人が読んでも楽しめる本がいっぱいあるからぜひ来てみたら？」と紹介していました。それで実際に足を運んでくださった方は気に入ってくださって、少しずつ大人も来るようになりました。

**(6) 諏訪原文庫開設の頃**

大谷：昔、先生方の「語る会」という集まりがありましたよね。

坂井：社会科の先生方が中心の集まりでしたね。文庫を最初に始められた方も一緒に、先生たちと勉強会をしていました。団地の住民もいるものだから、この集会所で勉強していたのだと思います。

中岡：諏訪原団地ではかつて川久保武子さんという方が様々な読書推進活動をされていたと聞いています。

坂井：まさに川久保さんはその中の熱心な方の一人でした。親子読書会の推進を熱心にされていました。川久保さんが中心となって色々な活動をされていました。大変なこともたくさんあったのだと思いますが、諏訪原文庫が今日まで続く基礎をつくってくれました。

……（略）……

中岡：その親子読書会というのはいつまで活動されていたかご存じですか？

坂井：読書会としては、そんなに長くは活動しなかったと思います。文庫ができて、本がだんだん増えていくとともに次第に活動が無くなっていったのだと思います。文庫ができたといっても、最初は段ボール数箱くらいの本

しかありませんでしたけども。最初は「子ども文庫」と呼んでいたように思います。

中岡：文庫が充実していく中で、読書会としての活動が文庫の活動と一緒にっていったというような感じでしょうか。

坂井：読書会は有志が少数で集まって開かれるものでした。私も一度、川久保さんに誘われて覗く程度に参加したことがあります。

### (7) 公民館図書室との関わり

石川：先ほど公民館図書室の本を借りていたことが記録に残されていましたが、その本は公民館図書室の職員が運んでくれたのでしょうか？

坂井：自分たちで運んでいたら記憶に残っていると思うのですが、記憶にないところを見ると自分たちでは運んでいなかったと思います。

石川：公民館図書室の本が来なくなったというのはいつごろでしょうか。

坂井：記録を見ると、1977年度に借りたのが最後だったようですね。

石川：貸出期間は1年間だったようですね。

坂井：ですから正確には1978年5月1日が公民館図書室の本を借りていた最後と記録されています。

### (8) 諏訪原団地と移動図書館

中岡：諏訪原団地に移動図書館が来ていたことは記憶にありますか？

坂井：覚えています。子どもが利用もしていましたね。

中岡：どこに停車していたのでしょうか？

坂井：集会所の前です。集会所の前がちょうど団地全体のだ真ん中なんですよ。

中岡：大型バスを改造した県の一日図書館車と、その後、和光市の「やまびこ号」が巡回していたのですが、両方とも同じで場所でしょうか？

坂井：そうです。記憶にありますね。県か市かというのは当時意識していませんでしたが……。

…… (略) ……

中岡：「やまびこ号」には「世話人」という方々

が各ステーションにいて、お手伝いをしてくださっていたようですが、そのあたりのご記憶はありますか？

坂井：そうしたことは、川久保さんたちが何人かでされていたのを覚えています。机を出したりとか、色々なお世話をしてくれていたね。

石川：世話人の方々というのは、団地から選ばれたのでしょうか？

坂井：選ばれたというよりも、自発的なものだったと思います。文庫の活動とは関係なかったですね。

大谷：「やまびこ号」が来なくなってしまったとき、子どもたちがよく利用していたから理由を聞きに行ったんです。そしたら、「諏訪原団地は諏訪原文庫があるからいいでしょ」と言われましたね (笑)。

坂井：私もその話は川久保さんからちょっとうかがいました。「文庫があるからいいでしょって断られたのよ」ってね。「あるからいいでしょって言えるほどの文庫じゃないわよね」なんて話しましたね (笑)。

### (9) 地域とのつながり

石川：和光市には西大和団地などさまざまな団地の文庫がありましたが、そうした方々とのつながりなどはありましたか？

坂井：個人的につながりはありました。そういう方々は幅広く活動をされているということもあって、同じような思いをもっている方と親しくなっていくということもありましたね。西大和団地のYさんなどもそうです。埼玉病院の小児病棟の読み聞かせというのをやることもありました。

大谷：社会福祉協議会のボランティアセンターに登録されていて、小児病棟の読み聞かせに行っていたいていました。Yさんが中心で、桐田さんなど数人のメンバーで毎週読み聞かせをされていました。

…… (略) ……

中岡：諏訪原文庫の活動をされていく中で、何か改めて思うところはありますか？

大谷：私は団地の中に文庫があることで、今で

も子どもたちとふれあえることが一番うれしいと思っています。ハリーポッターの本があるのですが、それを借りに来ていた男の子がいました。まだ小学校1年生くらいだったのに一生懸命読んでいたんです。思わず「漢字読める？」と聞いたところ、「お母さんに教えてもらったから」といって、頑張っている様子で読んでいて。今は中学生になっていますが、とても優秀なお子さんには育っているんですね。「あの時ハリーポッターを読んでいた子が、こんなに立派になって」と成長を見守ることができるのも、ここがあったからだなと思います。諏訪原文庫があることで子どもとふれあえるということは、本当に幸せなことだと思いますね。だから先輩たちには感謝ですね。

## 5. 地域文庫に流れる意志と思い

本稿では、西大和団地と諏訪原団地における地域文庫や読書会の活動を、実際に活動を担っていた方々へのインタビュー調査によって明らかにした。調査の過程において、地域におけるこうした活動は資料として十分に記録が残されておらず、地域住民の方々の経験と記憶が頼りであることも痛感した。

インタビューを通して明らかになったことは、文庫における選書や貸出方法の開発をはじめ、子どもたちや住民との日常的なつながり・声かけ、本を介した読書会の活動・イベントの開催などには、地域文庫を担う方々のエネルギーと地域への思いが流れていたことであった。こうしたエネルギーの源についてうかがったところ、次のようにお話しいただいた。

桐田：やはり、それは「子育て」だと思いますよ。

鈴木：私も「子育て」だと思います。

桐田：子どもたちに楽しんでもらおうとか、いろんな楽しい思いをさせてあげたいとか、そういう気持ちが根底にあるのだと思います。不思議と気が合う仲間同士がまとまっていくんですね。

ここから、地域全体で子どもを育み、母親らも子どもたちと一緒に学びあうといった地域・家庭文庫の理念をみることができる。同時に、日常生活の中に文庫がある意味を次のように語っていた。

大谷：本を借りに来る人の中にはチャレンジドの方もいます。そういう方々とも文庫で自然にふれあえます。文庫が地域の中で色々な役目をたくさんしているなど感じますね。

坂井：今の諏訪原文庫のような一種の「たまり場」はやはり必要だと思いますね。もちろん、いつまでも変わらずに同じことだけを続けていけばいいというわけではないのですが、こういう活動がこれからもずっと続いていくということが私の願うところです。

地域文庫を媒介にしながら、世代を越えた人と人とのつながりや場所が再評価されていることがわかる。この当時、地域全体で学びを育み、世代を越えて地域社会の連帯を創造した活動のひとつが地域文庫であった。その一方で、移動図書館や貸出文庫（団体貸出）などの手段によって公立図書館（中央公民館図書室）が地域で活動を重ねていた地域文庫とどのように結びつき、どのような目的を掲げながら支援をしていたのかは、今後の課題として残されている。すなわち、公立図書館による地域文庫の位置づけが、移動図書館や団体貸出の方法を左右しているからである。今後も和光市における移動図書館を中心に、図書館が地域に果たした役割を考察していきたい。

### ■謝辞

文庫活動や読書会活動につきましてインタビューに快く応じてくださいました桐田光枝様、鈴木真由美様、佐藤あゆみ様、坂井和子様、大谷鐵子様と、資料を提供いただいた越ヶ谷トヨ様には深く御礼申し上げます。また、和光市教育委員会の茂呂あかね様、和光市図書館の小林理恵様にはインタビュー会場の提供や資

料の収集などにご支援をいただきました。改めて感謝いたします。なお本稿は、JSPS 科研費 JP20K02523 と、十文字学園女子大学プロジェクト研究による成果の一部です。

【註】

1. 石井桃子『子どもの図書館』岩波書店, 1965.5, p.210.
2. 日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編『図書館情報学用語辞典』第5版, 丸善, 2020, p.151.
3. 同上, p.38-39.
4. 汐崎順子『児童サービスの歴史：戦後日本の公立図書館における児童サービスの発展』創元社, 2007.
5. 吉田右子「1960年代から1970年代の子ども文庫運動の再検討」『日本図書館情報学会誌』50(3), 2004.10, p.103-111.
6. 高橋樹一郎『子ども文庫の100年：子どもと本をつなぐ人びと』みすず書房, 2018.
7. 竹内愨『生きるための図書館：一人ひとりのために』岩波書店, 2018 (岩波新書, 1783)
8. 藤本浩之輔『子どもの遊び空間』日本放送出版協会, 1974. (NHK ブックス, 204)
9. 磯井純充『本で人をつなぐまちライブラリーのつくりかた』学芸出版社, 2015.
10. 中岡貴裕, 石川敬史「和光市における移動図書館の歩み：インタビュー調査中間報告」『和光市デジタルミュージアム紀要』6, 2020.3, p.1-12.; 石川敬史, 中岡貴裕「1970年代移動図書館史研究序説：埼玉県立浦和図書館における一日図書館を中心に」『十文字学園女子大学紀要』51, 2021.3, (印刷中)
11. 久井英輔「団地と社会教育・再考：高度成長期における都市住民の連帯をめぐる議論の一側面」『広島大学大学院教育学研究科紀要』第3部, 66, 2017, p.21-30.; 久井英輔「高度成長期における団地の社会教育と社会調査：都市住民における集団, 共同性形成の契機に注がれた視線」『広島大学大学院教育学研究科紀要』第3部, 67, 2018, p.17-26.
12. 上野景三「都市近郊団地にみる社会教育とソーシャル・キャピタル蓄積・展開の関連に関する研究(1)」『佐賀大学文化教育学部研究論文集』18(2), 2014, p.1-16.
13. 原武史『団地の空間政治学』NHK出版, 2012. (NHK ブックス, 1195); 原武史『レッドアローとスターハウス：ほうひとつの戦後思想史』新潮社, 2012.
14. 渡邊大輔ほか『総中流の始まり：団地と生活時間の戦後史』青弓社, 2019.
15. 倉沢進編『大都市の共同生活：マンション・団地の社会学』日本評論社, 1990. (都市研究叢書, 2)
16. 東村山市立図書館編『文庫を生きる』東村山市, 1978. (東村山市民叢書) など.
17. 埼玉県編『新編埼玉県史』通史編7, 1991, p.719-720.
18. 和光市編『和光市史』通史編下巻, 和光市, 1988, p.734.
19. 同上, p.734.
20. 同上, p.813.
21. 同上, p.813.
22. 同上, p.822.
23. 前掲10), 石川敬史, 中岡貴裕.
24. 『広報わこう』13, 1971.5.1.
25. 埼玉県移動図書館運営協議会『埼玉の移動図書館1977：市町村移動図書館実態調査』1977, p.28.
26. 全国図書館埼玉大会実行委員会編『埼玉の移動図書館』1981, p.103.
27. ただし1964年は西大和団地の建設がはじまった年であり、入居が始まるのは翌年の1965年からであること、そして後述する川久保氏の記録を踏まえると実際に文庫としての活動が開始されたのは1965年であったと考えられる。
28. 前掲26), 『埼玉の移動図書館』p.104.
29. 『広報やまと』173, 1970.7.1.
30. 『広報わこう』42, 1972.7.15.
31. 川久保武子「親子読書会から移動図書館請願運動へ」『月刊社会教育』17(4), 1973.4, p.82.
32. 前掲18), p.734.

33. 前掲 31), 川久保, p.82.
34. 同上, 川久保, p.82-83.
35. 「昭和四五年」の誤植であると考えられる。『広報わこう』(4, 1970.12.1)によれば1970年に「児童文学を読む会」が西大和団地集会所で行われており、埼玉新聞(1978年8月1日)によれば中央公民館で1970 - 1971年に児童文学講座が行われ、これをきっかけにありんこ読書会が発足したとされていることから、1974年では明らかに矛盾する。よって、昭和45年(1970年)の開催と考えて相違ないだろう。
36. 「ことしで8年目 和光市西大和団地「ありんこ読書会」自治会文庫の運営など活発な実践活動に成果」『埼玉新聞』1978.8.1.
37. 「第十三回西大和ありんこ親子読書会総会資料(1983年7月18日)」は、元ありんこ親子読書会メンバーの越ヶ谷トヨ氏より閲覧の機会をいただいた。
38. 『ありんこだより』についても越ヶ谷氏より閲覧の機会をいただいた。確認できたのは120号(1983年3月10日発行)～181号(1990年3月14日発行)である。※一部欠号あり
39. 前掲 26), 『埼玉の移動図書館』
40. よしだきみまる『しんぶんしでつくろう』福音館書店, 1989. (かがくのとも, 241)
41. 前掲 18), p734
42. 前掲 26), 『埼玉の移動図書館』 p115
43. 坂井和子氏のご教示による。
44. 前掲 31), 川久保, p84
45. 『広報わこう』(15, 1971.6.1.)によれば、ねらいは「親と子がいっしょになって読書をして、その中からおたがいのほのぼのした心の結びつきを求め、あたたかい愛情で、子どもの限りない可能性をはぐくんでいただくとするもの」であり、1971年7月～9月の間で全10回行われた。
46. 前掲 31), 川久保, p85
47. 「<すわはら文庫>運営の手引き」と題した手順書で、運営や当番の役割等について記されている。坂井和子氏提供による。

なかおか たかひろ (和光市)

いしかわ たかし (十文字学園女子大学)

【確認調査報告】

# 半三池遺跡溝確認報告 (市道 268 号線他改良工事地点)

鈴木 一郎

## 1. 経緯と経過

令和元(2019)年9月26日(木)生涯学習課文化財保護担当が、市内文化財パトロールを行っていた際、新倉2丁目23番地先の半三池遺跡(No.11-034)内での道路改良工事現場の掘削断面に、黒色の「V」字溝を確認した。

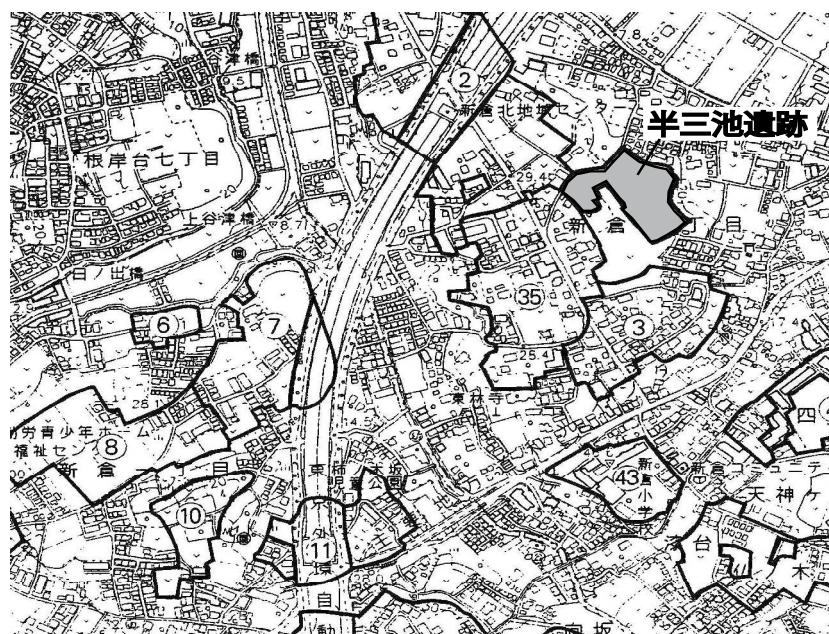
本庁にて、工事現場の位置が半三池遺跡の包蔵地内であること、文化財保護法第93条の通知が未提出であることを確認し、工事担当とすぐに連絡を取り、工事の休止と文化財保護法第93条の通知提出の準備を進めた。

それと同時に、埼玉県文化資源課へ連絡し、これまでの経緯を説明した。県からの指示は、工事をすぐ止めること、現地確認を行い遺跡の状況把握を行うことであった。

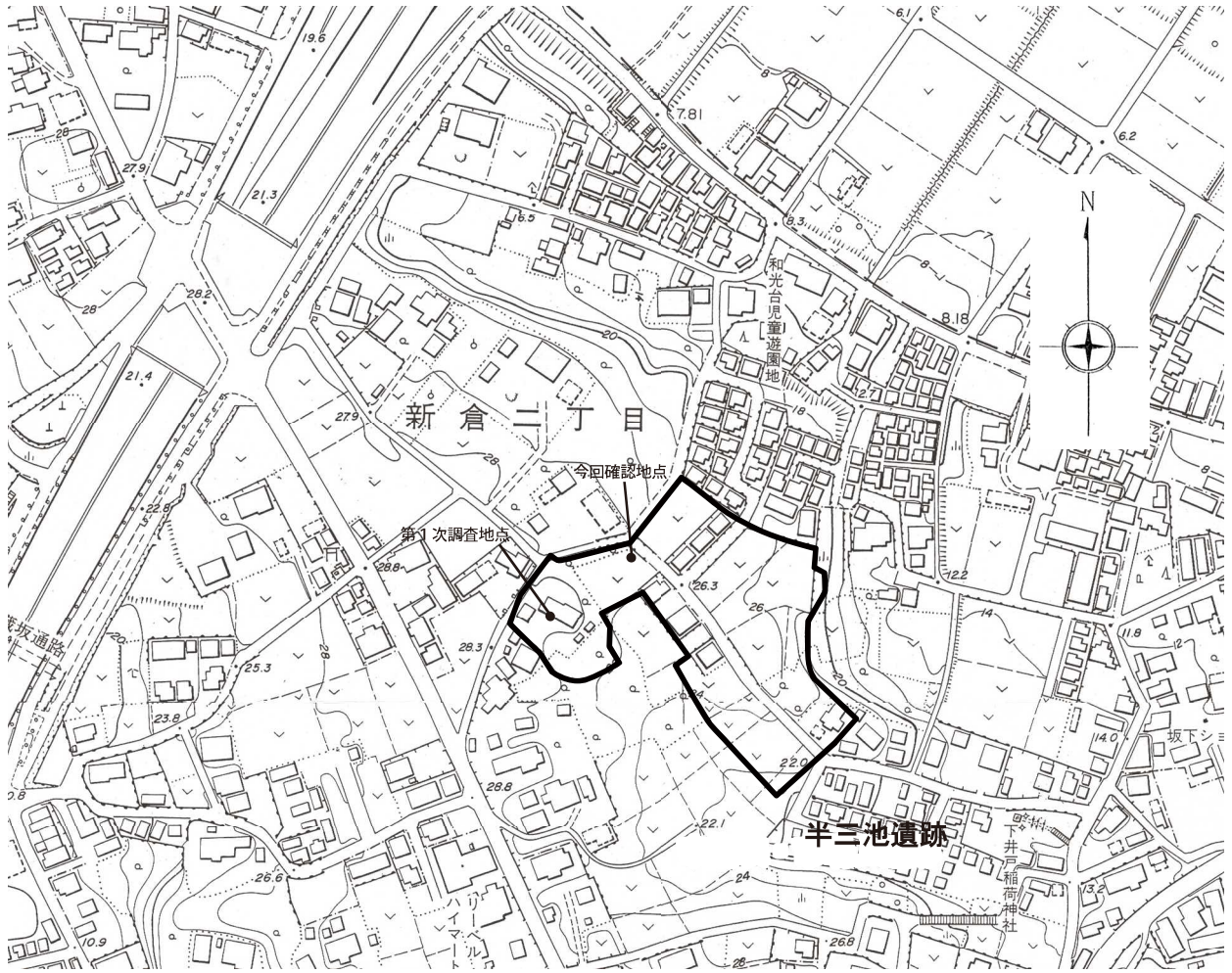
また、和光市として詳しい経緯と現状の説明をすること、現地の現況写真、遺構の写真、図面の提出を求められた。

道路改良工事は、「市道 268 号線他改良工事」の名称であるが、268 号線と 271 号線の路肩の擁壁工事であり、「V」字状溝は市道 271 号線の西側擁壁工事部分に確認された。この部分においては、遺跡範囲指定前から石垣状のコンクリート擁壁が設置されていた場所で、今回は、石垣状のコンクリート擁壁から既成のコンクリート擁壁に変更する工事であった。

そして、工事現場では、工事を一時中止して、同日中に現地で「V」字状溝の確認調査を行い、位置図、断面図等の測量図の作成のほか、遺構の写真撮影などを行った。現地では、工事用の仮ベンチマーク(KBM2)を利用して、断面図の水平レベルとした、後にレベル移動を行いKBM2は22.34mであった。



第1図 位置図 (S=1/10000)



第2図 位置図 (S = 1 / 2 5 0 0)



調査風景





調査風景



第1号溝C - C' 土層

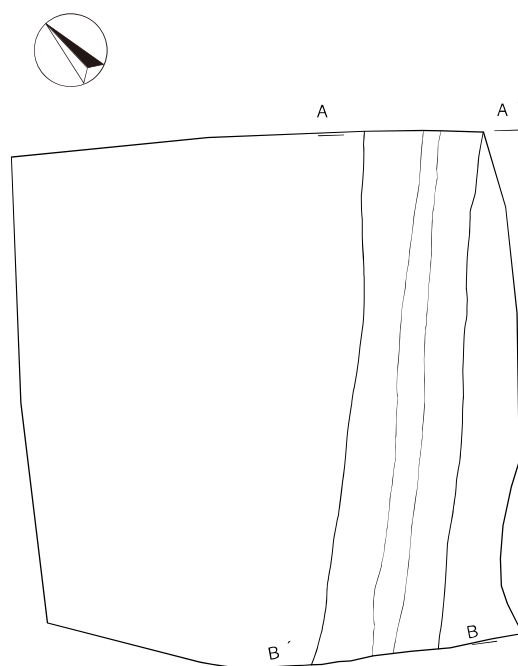
## 2. 半三池遺跡の概要

半三池遺跡（第1図）は、和光市新倉2丁目3009～3012他で、舌状台地上に立地し、同じ台地上で花ノ木遺跡（No. 11-002）、峯遺跡（No. 11-035）と隣接している。標高26m程であり、南東向きの緩い谷の上に位置している。

平成25（2013）年11月7日～8日に行った第1次調査（第2図1～3）では、弥生時代の環濠とみられる断面「V」字状の第1号溝が検出さ

れ、試掘のトレンチにも北東へ伸びていることが確認されている。

今回確認された溝も断面「V」字状であり、第1次調査の延長方向にあることから、第1次調査の第1号溝と同じ溝と考えられる。



第2図—1 第1次調査 第1号溝 平面図（S = 1/60）



第2図—2

第1次調査 第1号溝 A - A' 土層



第2図—3

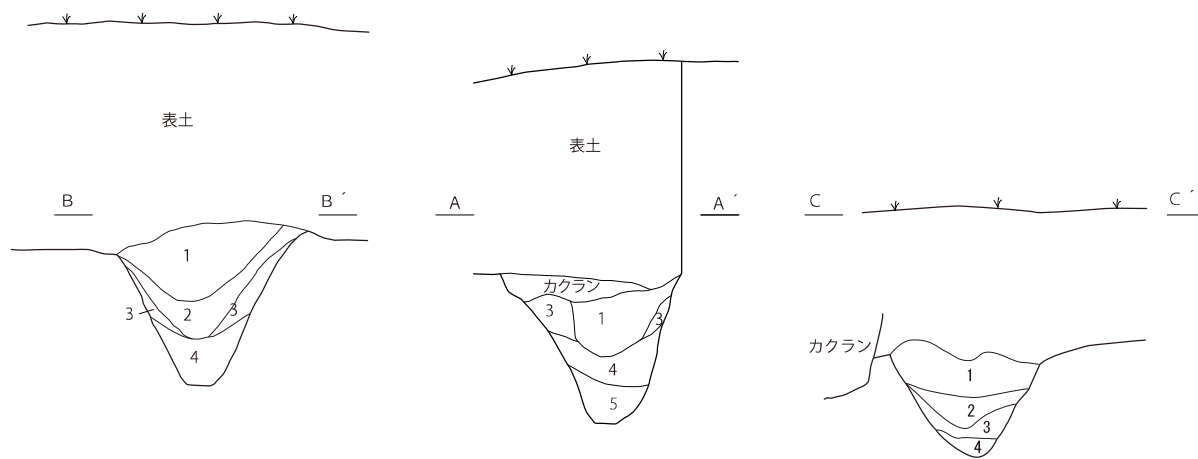
第1次調査 第1号溝 B - B' 土層

### 3. 第 1 号溝

第 1 次調査の第 1 号溝は、長さ 4.2 m が検出され、断面の形状は「V」字状を呈し、上面の幅 95cm、深さ 80cm、底面の幅 20cm を測る。南側底面の標高は 26.58 m を測る。

今回工事中に確認された溝は第 1 号溝の延長部と見られ、断面の形状は同じく「V」字状であるが、土層断面の観察では、耕作土直下から掘り込みが確認されているが、確認面の土層は、既にハー

ドローム層であり、過去の耕作や既存の道路擁壁等により大きく削平や掘削がなされていたため、今回の第 1 号溝は、上面が削られ遺構の下部のみの確認である。上面の幅 86cm、深さ 60cm、底部幅 16cm を測る。底面の標高は、25.94 m を測る。第 1 号溝の覆土（第 3 図）は、現状で 4 層に分層された。



#### C - C' 土層説明

第 1 層 黒褐色土（10 Y R 3/2）

ローム粒をごくわずかに含む。締まりあり。粘性ややあり。

第 2 層 暗褐色土（10 Y R 3/3）

ローム粒をわずかに含む。締まりあり。粘性あり。

第 3 層 暗黄褐色土（10 Y R 4/3）

ローム粒多量。締まりややゆるい。粘性あり。

第 4 層 暗黄褐色土（10 Y R 4/4）

ローム粒多量、ロームブロック（1 cm 程度）。締まりややゆるい。

第 3 図 第 1 号溝断面図（S= 1 / 4 0、L = 27.5 m）

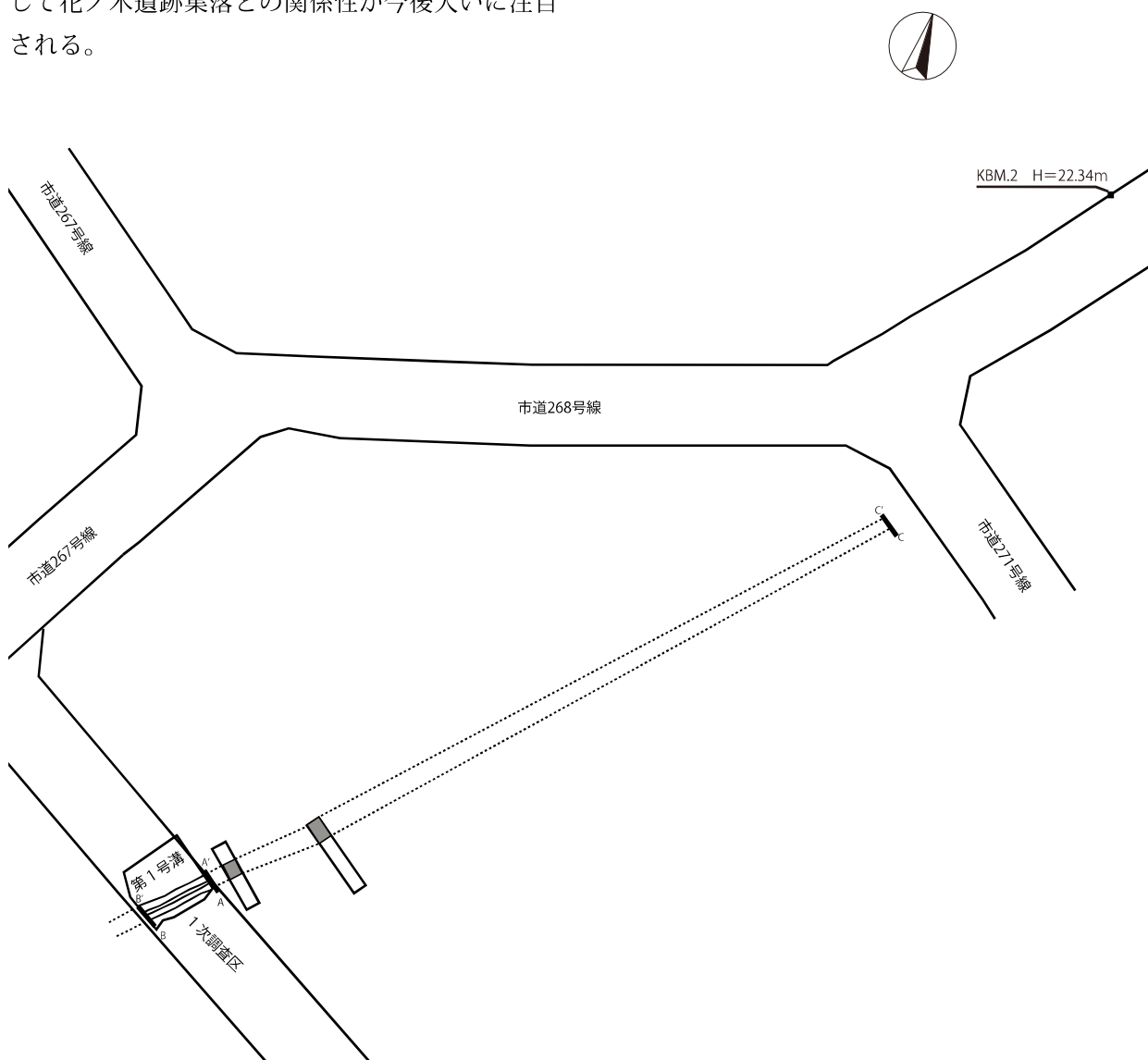
#### 4. まとめ

今回は、工事中での発見であるため、断面の確認のみの調査となった。本来の規模、方向性は不明である。出土遺物はなし。

第1次調査地点の第1号溝と今回確認された溝の位置関係は直線的に持続すると予想され（第4図）、底面の比高差は第1次調査より0.64 m下がってきている。地形と遺跡を全体的にみると、第1次調査地点及び今回確認地点より西側が内側の集落と考えられるが、環濠というよりも、台地断ち切り形の条濠としての展開も予想される、そして花ノ木遺跡集落との関係性が今後大いに注目される。

#### 追記

和光市として、市主体事業でありながら、埋蔵文化財包蔵地での工事について連絡調整が整っていなかったこと、今後は連絡調整に努めることを和光市長名で県に報告を行った。



第4図 第1号溝平面図 (S = 1 / 4 0 0)

すずき いちろう (和光市教育委員会)

# 【実績報告】 令和 2 (2020) 年度 和光市埋蔵文化財調査年報

江口 やよい

## 1. はじめに

この年報は、和光市教育委員会が令和 2 (2020) 年度に実施した埋蔵文化財に関わる調査をまとめたものである。今年度、試掘調査を 16 件、工事立会を 6 件、計 22 件の調査を実施した。

試掘調査は、重機と人力による掘削作業と、測量・記録撮影を行った。工事立会は、作業状況を確認したのち記録撮影を行った。

調査ごとに、調査地の諸情報と概要、試掘調査については調査範囲を平面図化・断面図化し、また、作業状況等を撮影した写真により報告しまとめた。

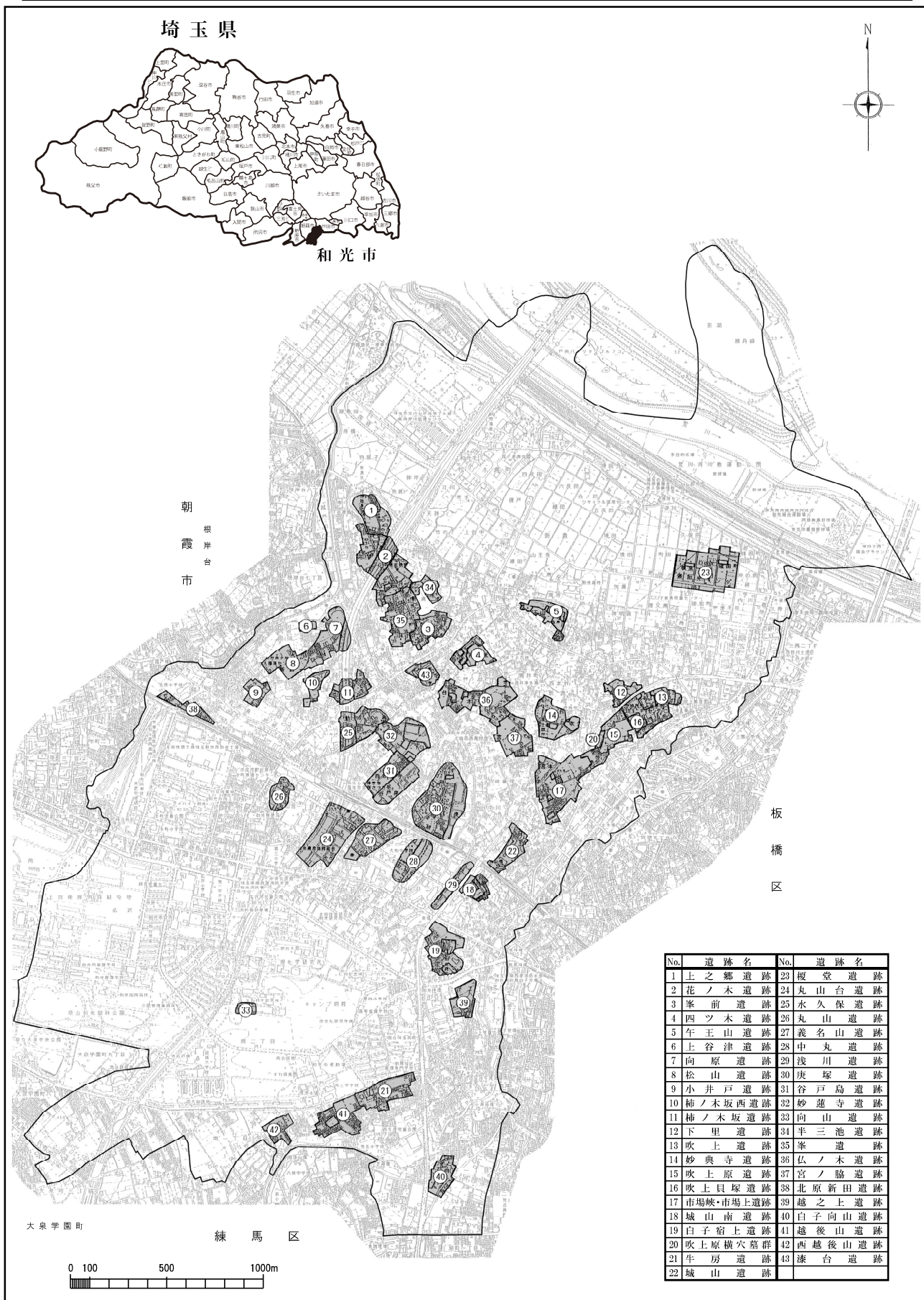
## 2. 表記の仕方

1. 挿図の縮尺は、調査地点位置図は 1/2500、確認調査トレンチ配置図・トレンチ柱状図は任意の縮尺である。
2. 調査地点位置図は、和光市役所発行の地形図（平成 20 年修正）を一部加筆・修正加工して使用した。
3. 遺跡名の前に表記した No. は、一覧表の番号と一致する。なお、ページ順については、試掘調査を調査日順に掲載した後、工事立会をまとめて紹介した。

資料 1 令和 2 (2020) 年度 埋蔵文化財確認調査一覧表

No.	遺跡名 (No.)	原因	調査日	調査地	面積(m <sup>2</sup> )	調査概要
1	吹上遺跡(11-013) (吹上貝塚)	樹木伐採 宅地造成	R2 4. 7 4. 8	白子3丁目4378-1、 -2、-3、4378-6の 一部	665.00	遺構・遺物あり。和光市教育委員会による発掘調査。
2	峯遺跡 (11-035)	個人住宅建設	R2 6. 2	新倉2丁目4370-1 の一部、4370-3の 一部、4370-4	103.02	遺構・遺物あり。和光市教育委員会による発掘調査。
3	城山遺跡 (11-022)	共同住宅建設	R2 6. 16	白子3丁目706-2、 703の一部	298.02	遺構・遺物は確認されなかった。
4	白子宿上遺跡 (11-019)	共同住宅建設	R2 6. 18	白子2丁目1076-10、 1089-3	206.48	遺構・遺物は確認されなかった。
5	小井戸遺跡 (11-009)	共同住宅建設	R2 6. 25	新倉1丁目4241-4	793.00	遺構・遺物は確認されなかった。
6	吹上遺跡 (11-013)	個人住宅建設	R2 7. 3	白子3丁目4393番5	299.28	遺構・遺物は確認されなかった。
7	越之上遺跡 (11-039)	共同住宅建設	R2 8. 6 8. 7	白子2丁目1366番1、 1366番2、1366番3	4,544	遺構・遺物あり。和光市教育委員会による発掘調査。
8	谷戸島遺跡 (11-031)	個人住宅建設	R2 8. 21	下新倉2丁目5757番	160.98	遺構・遺物は確認されなかった。
9	仏ノ木遺跡 (11-036)	電柱移設工事	R2 8. 31	下新倉4丁目826番	2.00	工事立会。
10	下里遺跡 (11-012)	長屋住宅の建設	R2 9. 15	下新倉4丁目2262-2、 -6、-7、-1の一部、 2263-3、-8、-9、-10、 -12、-1の一部	792.08	遺構・遺物は確認されなかった。

No.	遺跡名 (No.)	原因	調査日	調査地	面積(m <sup>2</sup> )	調査概要
11	仏ノ木遺跡 (11-036)	共同住宅建設	R2 10. 12	下新倉3丁目1012-1、 -2、-3の一部	214.50	遺構・遺物は確認されなかつた。
12	西越後山遺跡 (11-042)	共同住宅及び 駐車場建設	R2 10. 27	南1丁目2535番3	1,195.00	遺構・遺物あり。
13	吹上原遺跡 (11-015)	電柱移設	R2 11. 9	白子3丁目11番66 (186-8)	2.00	工事立会。
14	峯前遺跡 (11-003)	電柱の本柱・ 支線の移設	R2 11. 18	新倉2丁目3523番	647.93	工事立会。
15	下里遺跡 (11-012)	ガス供給工事	R2 12. 17	下新倉4-15	17.00	工事立会。
16	吹上遺跡 (11-013)	支持物建替工事	R2 12. 21	白子3丁目4437-1	4.00	工事立会。
17	城山遺跡 (11-022)	個人住宅建設	R3 2. 2	白子3丁目707番2、 同番4の一部	209.28	遺構・遺物は確認されなかつた。
18	越後山遺跡 (11-041)	携帯電話無線基 地局設置工事	R3 2. 25	南1丁目2465番1	2.25	工事立会。
19	仏ノ木遺跡 (11-036)	個人住宅建設	R3 3. 3	下新倉3丁目924番4	100.03	遺構・遺物は確認されなかつた。
20	西越後山遺跡 (11-042)	共同住宅及び 駐車場建設	R3 3. 10 3. 11	南1丁目2535番3の 一部	980.85	遺構・遺物あり。
21	西越後山遺跡 (11-042)	ブロック設置	R3 3. 16	南1丁目2542-3、 2543-14	121.47	遺構が確認され、盛土保存。
22	谷戸島遺跡 (11-031)	個人住宅建設	R3 3. 19	下新倉2丁目20-13	82.12	遺構・遺物は確認されなかつた。



第1図 和光市遺跡分布地図

## 試掘調査

### No.1 吹上貝塚・吹上遺跡

調査目的 解体・造成に伴う埋蔵文化財確認調査

所在地 和光市白子3丁目4378-1,-2,-3,-6の一部

調査日 令和2年4月7・8日

調査面積 約665㎡

#### 調査概要

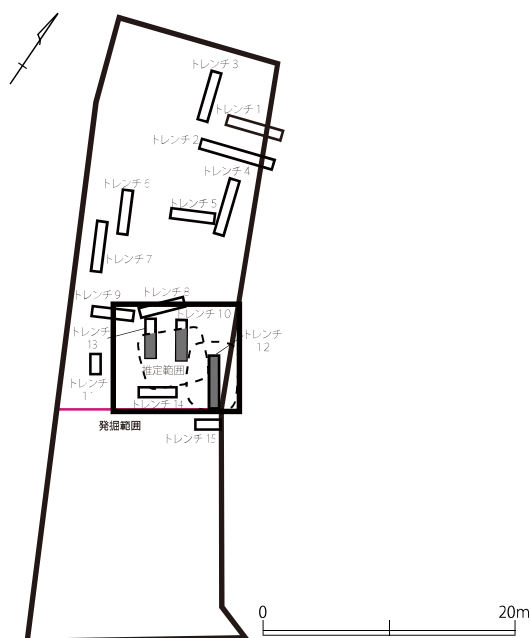
調査地は、吹上貝塚（No.11-016）の中央に位置する。

調査は、対象地内に幅約80cm長さ約1m60cm～6mのトレンチを15本設定した（第3図）。調査区全体を50cm～160cm程度まで掘り下げた（第4図）。

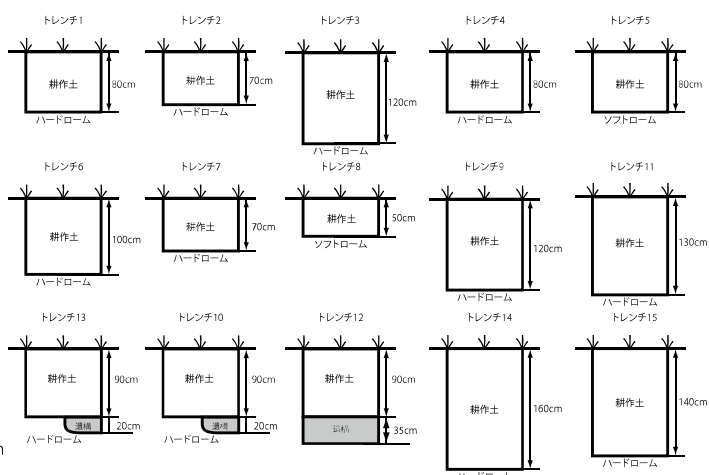
調査の結果、本地点で、遺構・遺物包含層及び遺物が確認され、発掘調査を行うこととなった。



第2図 調査地点位置図



第3図 調査区位置図



第4図 トレンチ柱状図 (S=1/100)



作業状況



掘削状況



## 試掘調査

### No.2 峯遺跡

**調査目的** 個人住宅建設に伴う埋蔵文化財確認調査

**所在地** 和光市新倉2丁目3470-1の一部、  
-3の一部、-4

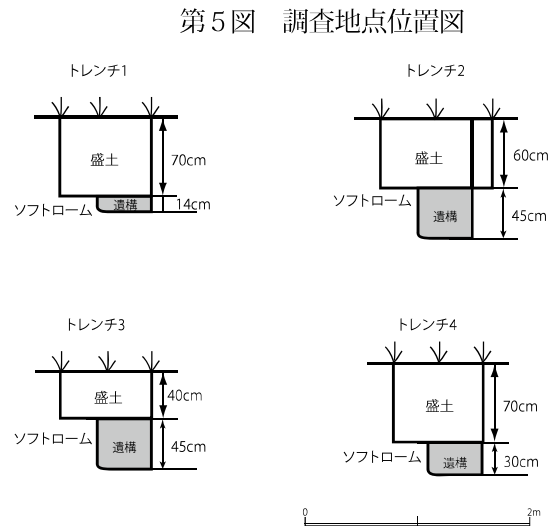
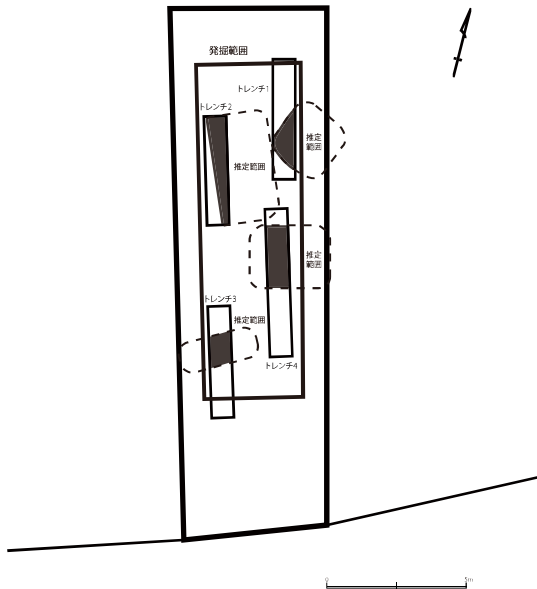
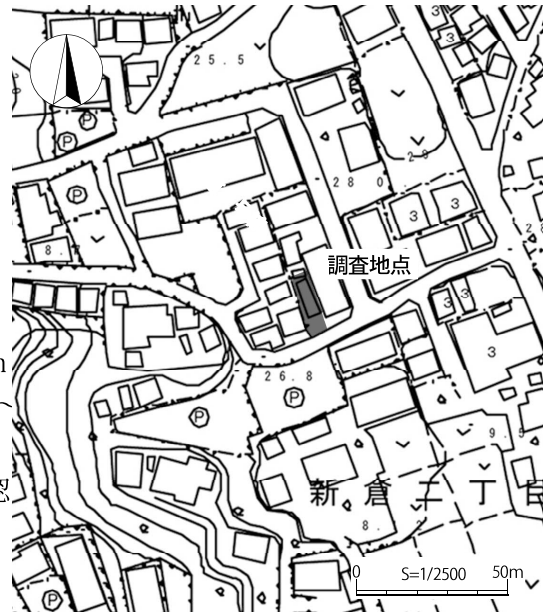
**調査日** 令和2年6月2日

**調査面積** 103.02 m<sup>2</sup>

#### 調査概要

調査地は、峯遺跡 (No.11-035) の北西に位置する。  
調査は、対象地内に幅約80cm長さ約3m90cmと5m30cm  
のトレンチを4本設定した(第6図)。調査区全体を40cm～  
70cm程度まで掘り下げた(第7図)。

調査の結果、本地点で、遺構・遺物包含層及び遺物が確認  
され、発掘調査が行われることとなった。



作業状況



掘削状況

## 試掘調査

### No.3 城山遺跡

**調査目的** 共同住宅建設に伴う埋蔵文化財確認調査

**所在地** 和光市白子3丁目706-2、703の一部

**調査日** 令和2年6月16日

**調査面積** 298.02㎡

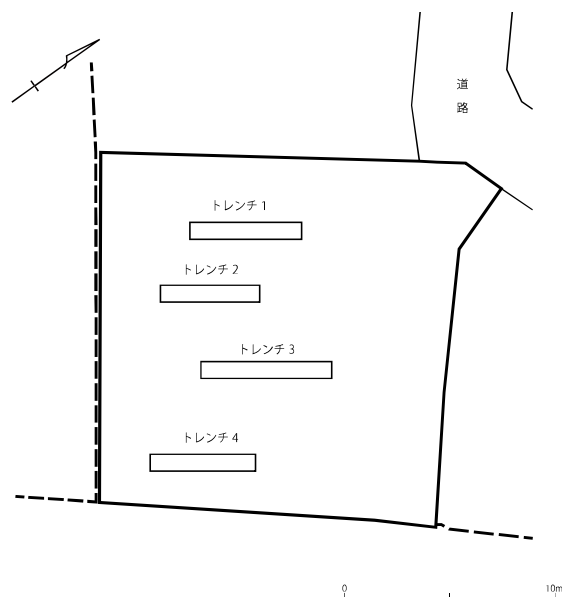
#### 調査概要

調査地は、城山遺跡 (No.11-022) の中北東端に位置する。調査は、対象地内に幅約80cm長さ約4m70cm～5m60cmのトレンチを4本設定した(第9図)。調査区全体を60cm～80cm程度まで掘り下げた(第10図)。

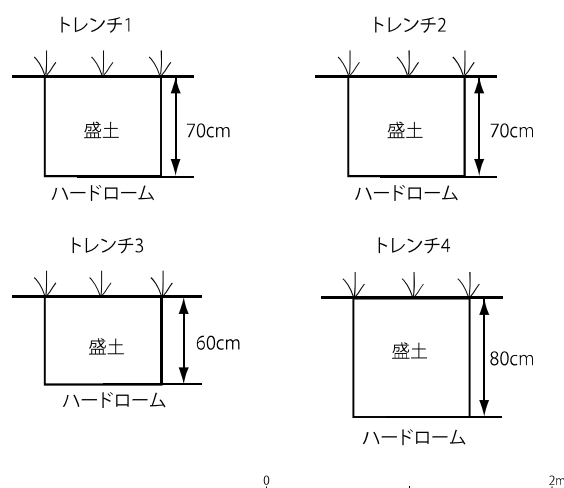
調査の結果、本地点では、遺構・遺物包含層及び遺物は認められなかった。



第8図 調査地点位置図



第9図 調査区位置図



第10図 トレンチ柱状図 (S=1/80)



## 試掘調査

### No.4 白子宿上遺跡

調査目的 共同住宅建設に伴う埋蔵文化財確認調査

所在地 和光市新倉2丁目1076-10、1089-3

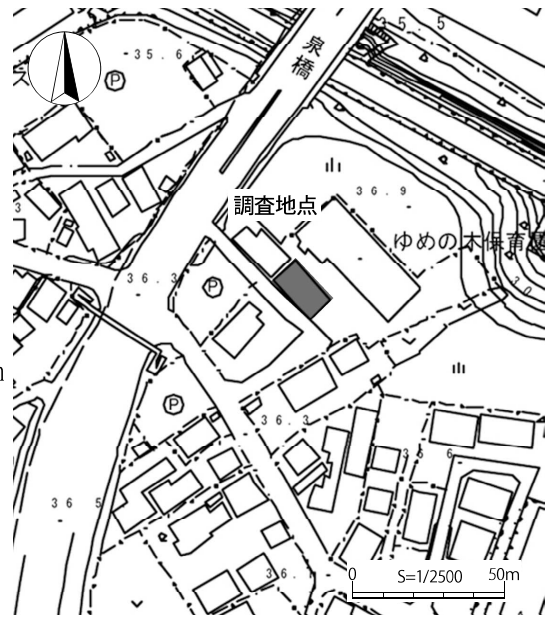
調査日 令和2年6月18日

調査面積 206.48 m<sup>2</sup>

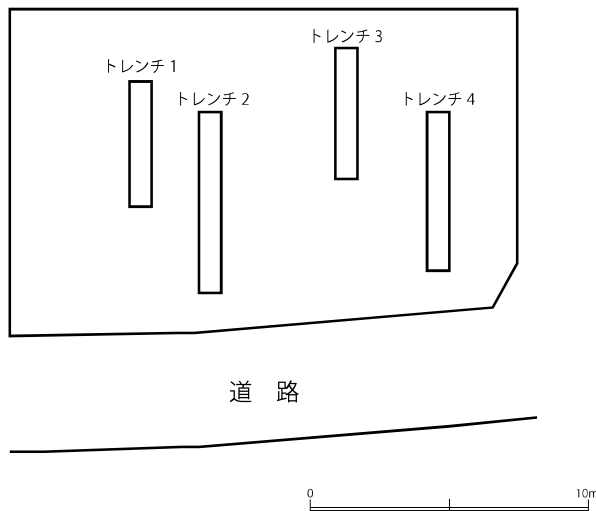
#### 調査概要

調査地は、白子宿上遺跡 (No.11-019) の北西に位置する。調査は、対象地内に幅約80cm長さ約4m50cm～6m40cmのトレンチを4本設定した(第12図)。調査区全体を60cm～70cm程度まで掘り下げた(第13図)。

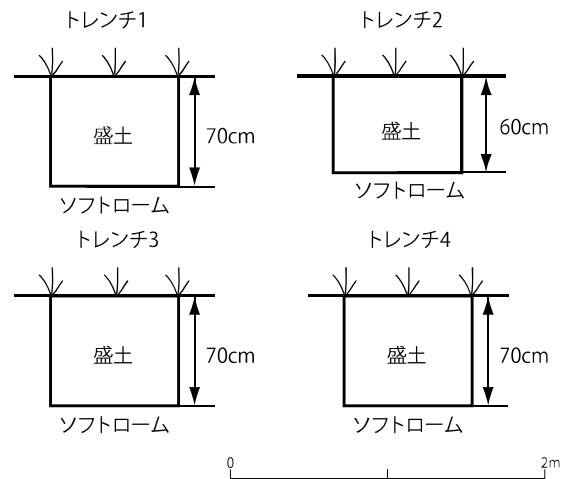
調査の結果、本地点では、遺構・遺物包含層及び遺物は認められなかった。



第11図 調査地点位置図



第12図 調査区位置図



第13図 トレンチ柱状図 (S=1/80)



作業状況



掘削状況

## 試掘調査

### No.5 小井戸遺跡

**調査目的** 共同住宅建設に伴う埋蔵文化財確認調査

**所在地** 和光市新倉1丁目4241-4

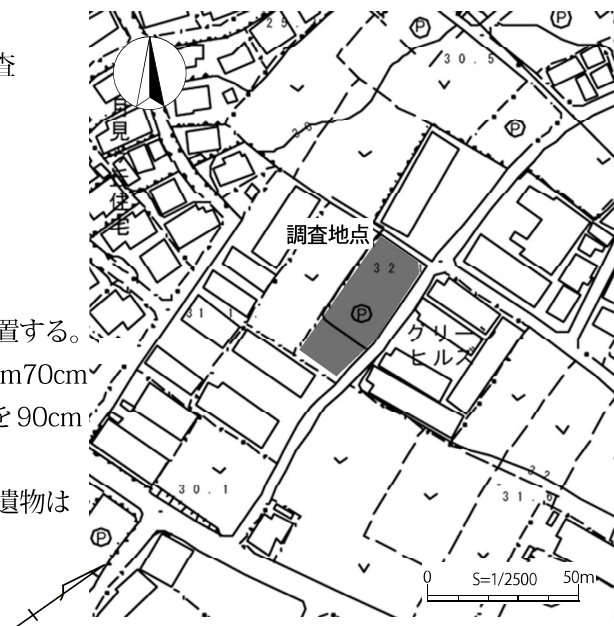
**調査日** 令和2年6月25日

**調査面積** 793.00㎡

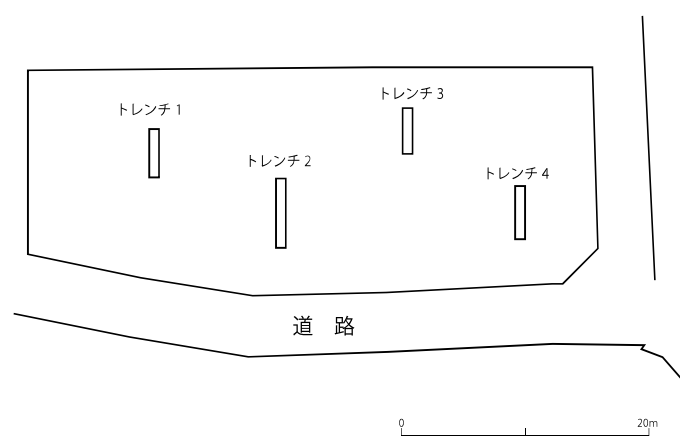
#### 調査概要

調査地は、小井戸遺跡（No.11-009）の南西端に位置する。調査は、対象地内に幅約80cm長さ約3m90cm～5m70cmのトレンチを4本設定した（第15図）。調査区全体を90cm～120cm程度まで掘り下げた（第16図）。

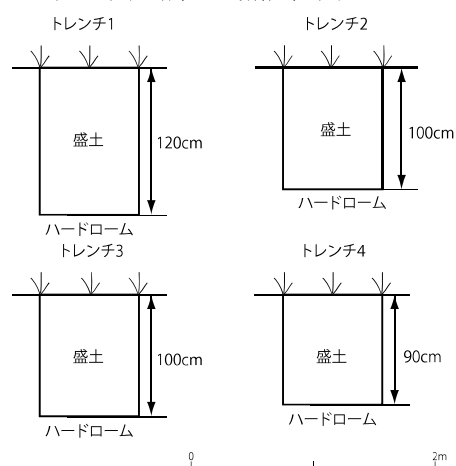
調査の結果、本地点では、遺構・遺物包含層及び遺物は認められなかった。



第14図 調査地点位置図



第15図 調査区位置図



第16図 トレンチ柱状図



作業状況



掘削状況

## 試掘調査

### No.6 吹上遺跡

**調査目的** 個人住宅建設に伴う埋蔵文化財確認調査

**所在地** 和光市白子3丁目4393番5

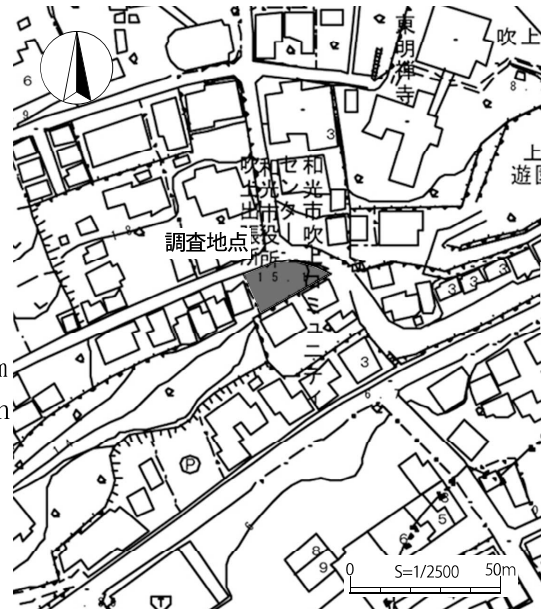
**調査日** 令和2年7月3日

**調査面積** 299.28㎡

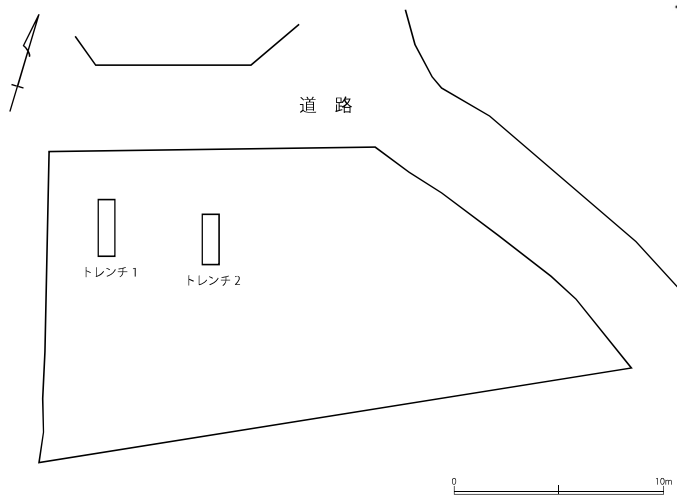
#### 調査概要

調査地は、吹上遺跡(No.11-013)の東南端に位置する。調査は、対象地内に幅約80cm長さ約2m40cmと2m70cmのトレンチを2本設定した(第18図)。調査区全体を130cm程度まで掘り下げた(第19図)。

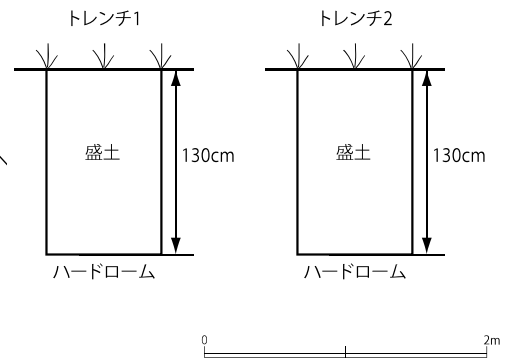
調査の結果、本地点では、遺構・遺物包含層及び遺物は認められなかった。



第17図 調査地点位置図



第18図 調査区位置図



第19図 トレンチ柱状図



作業状況



掘削状況

## 試掘調査

### No.7 越之上遺跡

**調査目的** 共同住宅建設に伴う埋蔵文化財確認調査

**所在地** 和光市白子2丁目1366番1、2、3

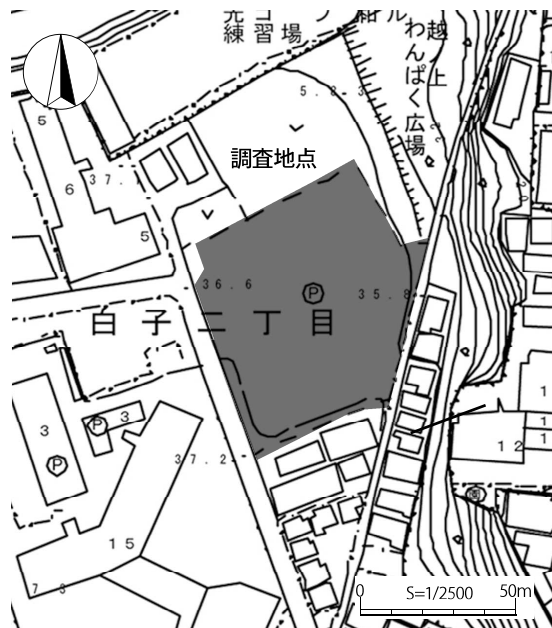
**調査日** 令和2年8月6・7日

**調査面積** 4,544.00㎡

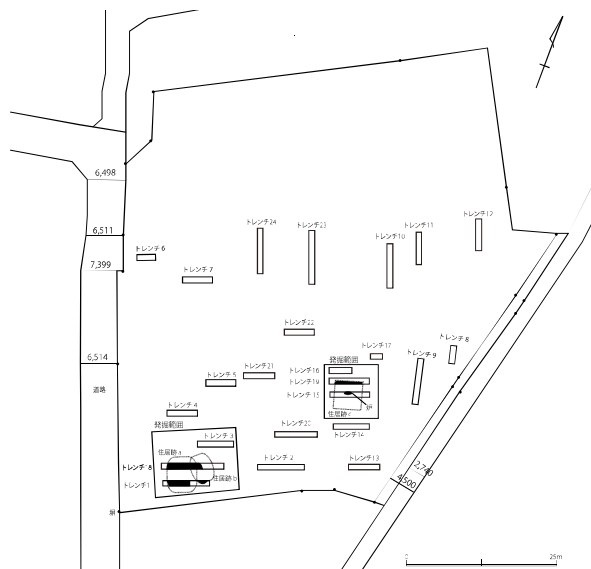
#### 調査概要

調査地は、越之上遺跡（No.11-039）の中央に位置する。調査は、対象地内に幅約80cm長さ約2m～10m40cmのトレンチを24本設定した（第21図）。調査区全体を50cm～190cm程度まで掘り下げた（第22図）。

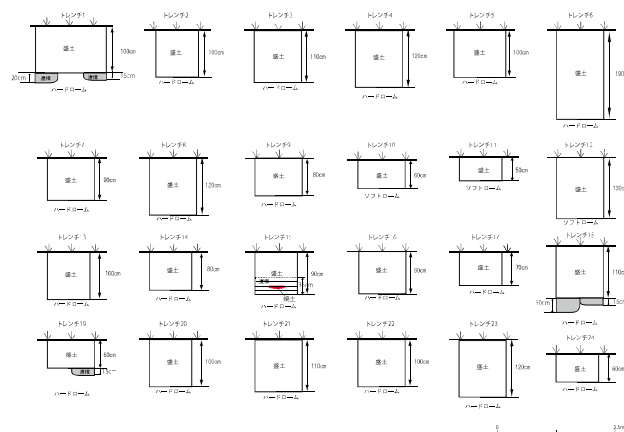
調査の結果、本地点で、遺構・遺物包含層及び遺物が認められ、発掘調査が行われることとなった。



第20図 調査地点位置図



第21図 調査区位置図



第22図 トレンチ柱状図



## 試掘調査

### No.8 谷戸島遺跡

調査目的 個人住宅建設に伴う埋蔵文化財確認調査

所在地 和光市下新倉2丁目5757番

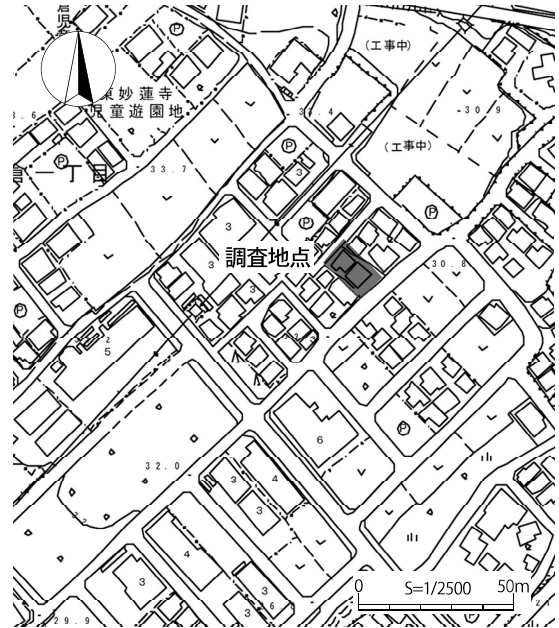
調査日 令和2年8月21日

調査面積 160.98㎡

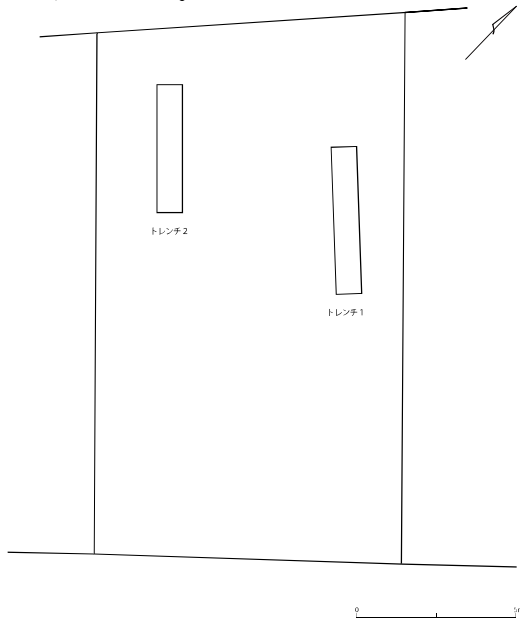
#### 調査概要

調査地は、谷戸島遺跡(No.11-031)の北東寄りに位置する。調査は、対象地内に幅約80cm長さ約4mと4m60cmのトレンチを2本設定した(第24図)。調査区全体を110cm～150cm程度まで掘り下げた(第25図)。

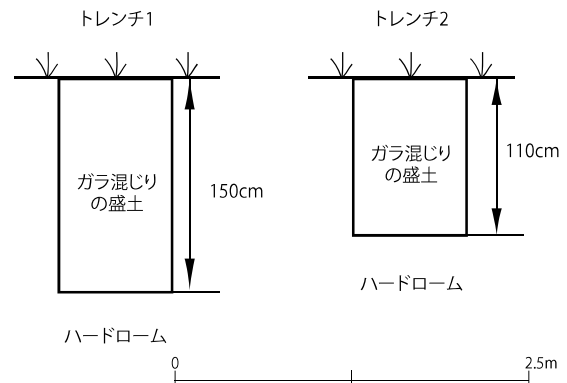
調査の結果、本地点では、遺構・遺物包含層及び遺物は認められなかった。



第23図 調査地点位置図



第24図 調査区位置図



第25図 トレンチ柱状図



## 試掘調査

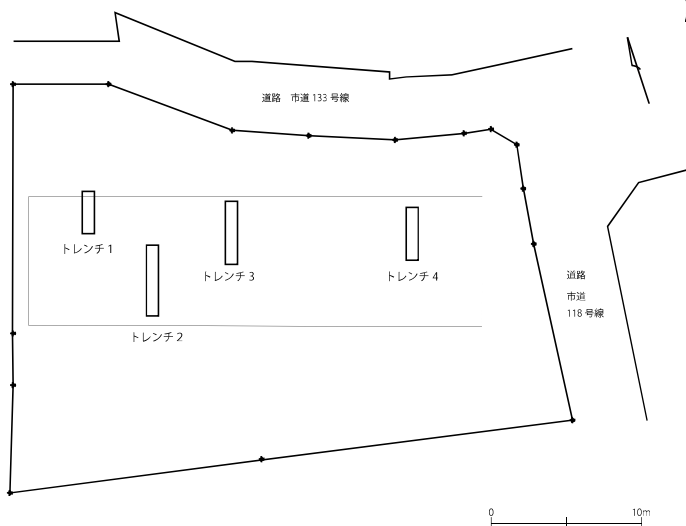
### No.10 下里遺跡

**調査目的** 長屋住宅の建設に伴う埋蔵文化財確認調査  
**所在地** 和光市下新倉4丁目2662-2、-6、-7、-1の一部、  
2263-3、-8、-9、-10、-12、-1の一部  
**調査日** 令和2年9月15日  
**調査面積** 792.08㎡  
**調査概要**

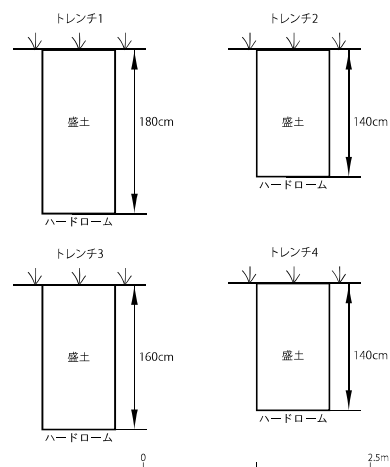
調査地は、下里遺跡（No.11-012）の北端に位置する。  
 調査は、対象地内に幅約80cm長さ約2m80cm～4m70cmの  
 トレンチを4本設定した（第27図）。調査区全体を140cm～  
 180cm程度まで掘り下げた（第28図）。  
 調査の結果、本地点では、遺構・遺物包含層及び遺物は  
 認められなかった。



第26図 調査地点位置図



第27図 調査区位置図



第28図 トレンチ柱状図



作業状況



掘削状況



## 試掘調査

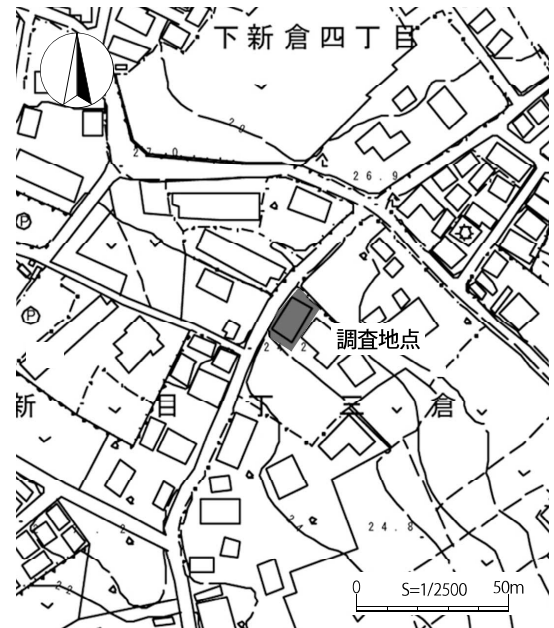
### No.11 仏ノ木遺跡

**調査目的** 共同住宅建設に伴う埋蔵文化財確認調査  
**所在地** 和光市下新倉3丁目1012-1、-2、-3の一部  
**調査日** 令和2年10月12日  
**調査面積** 214.50㎡

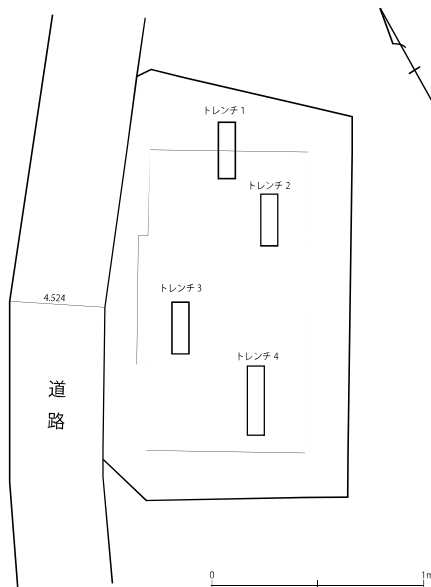
#### 調査概要

調査地は、仏ノ木遺跡 (No.11-036) の南に位置する。調査は、対象地内に幅約80cm長さ約2m40cm～3m20cmのトレンチを4本設定した(第30図)。調査区全体を40cm～100cm程度まで掘り下げた(第31図)。

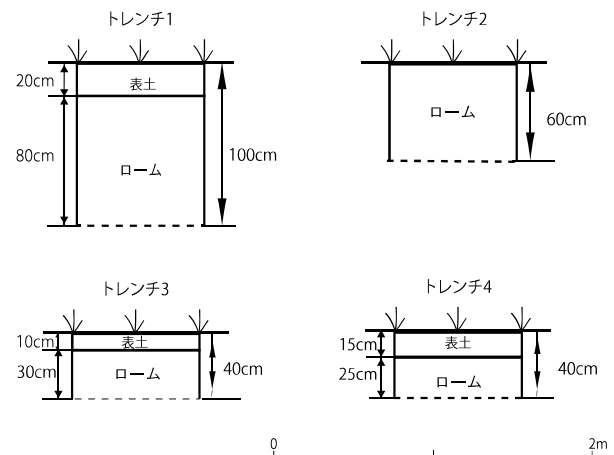
調査の結果、本地点では、遺構・遺物包含層及び遺物は認められなかった。



第29図 調査地点位置図



第30図 調査区位置図



第31図 トレンチ柱状図 (S=1/80)



作業中



掘削中

## 試掘調査

### No.12 西越後山遺跡

**調査目的** 共同住宅及び駐車場建設に伴う埋蔵文化財確認調査

**所在地** 和光市南1丁目2535番3

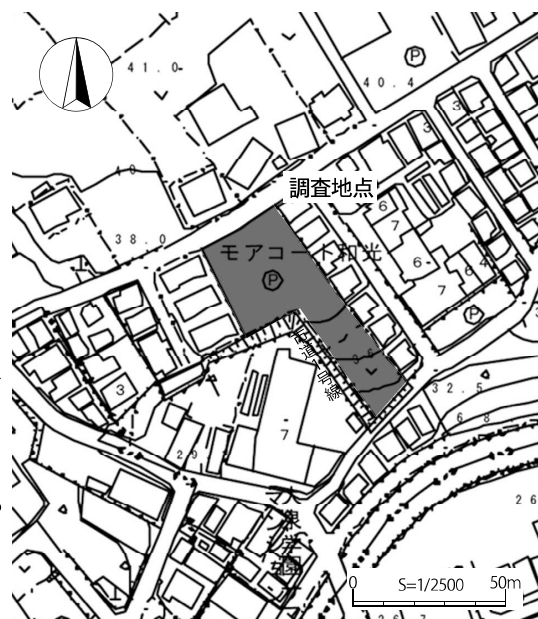
**調査日** 令和2年10月27日

**調査面積** 1195.00㎡

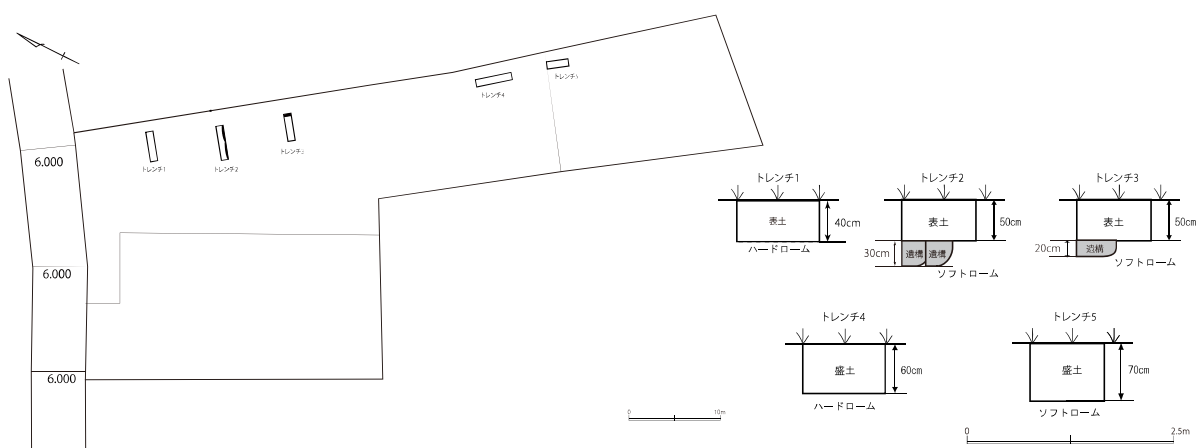
#### 調査概要

調査地は、西越後山遺跡（No.11-042）の北西に位置する。調査は、対象地内に幅約80cm長さ約2m40cm～4mのトレンチを5本設定した（第33図）。調査区全体を40cm～70cm程度まで掘り下げた（第34図）。

調査の結果、本地点で、遺構・遺物包含層及び遺物が認められ、発掘調査を行うこととなった。



第32図 調査地点位置図



第33図 調査区位置図

第34図 トレンチ柱状図



作業状況



掘削状況

## 試掘調査

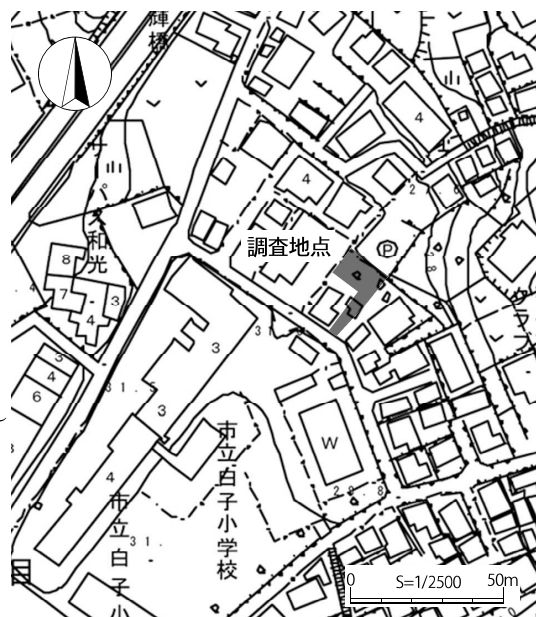
### No.17 城山遺跡

**調査目的** 個人住宅建設に伴う埋蔵文化財確認調査  
**所在地** 和光市白子3丁目707番2、同番4の一部  
**調査日** 令和3年2月2日  
**調査面積** 209.28㎡

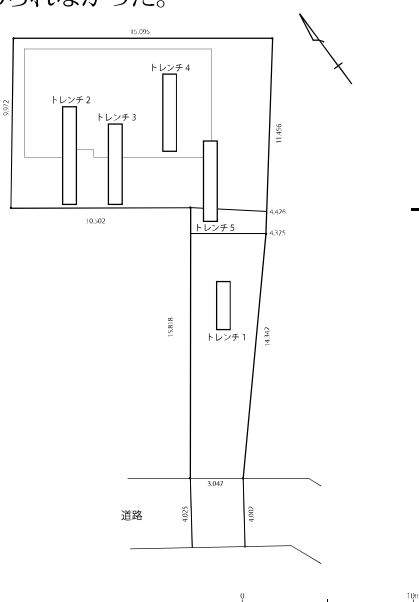
#### 調査概要

調査地は、城山遺跡(No.11-022)の北東に位置する。  
 調査は、対象地内に幅約80cm長さ約2m80cm～5m70cmのトレンチを5本設定した(第36図)。調査区全体を50cm～100cm程度まで掘り下げた(第37図)。

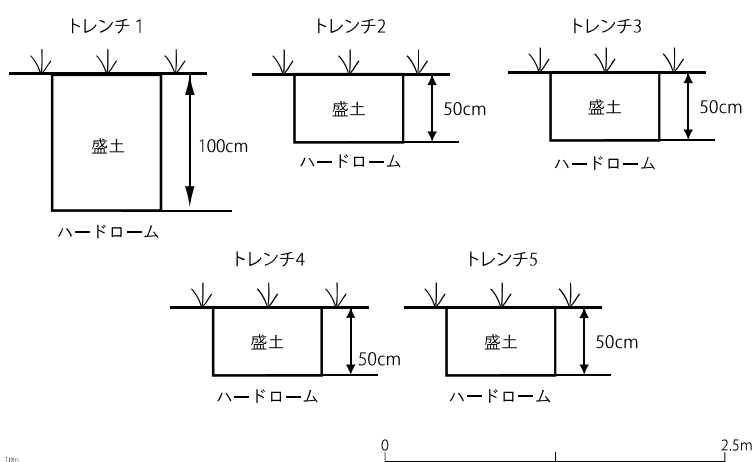
調査の結果、本地点では、遺構・遺物包含層及び遺物は認められなかった。



第35図 調査地点位置図



第36図 調査区位置図



第37図 トレンチ柱状図



作業状況



掘削状況

## 試掘調査

### No.19 仏ノ木遺跡

**調査目的** 個人住宅建設に伴う埋蔵文化財確認調査

**所在地** 和光市下新倉3丁目924番4

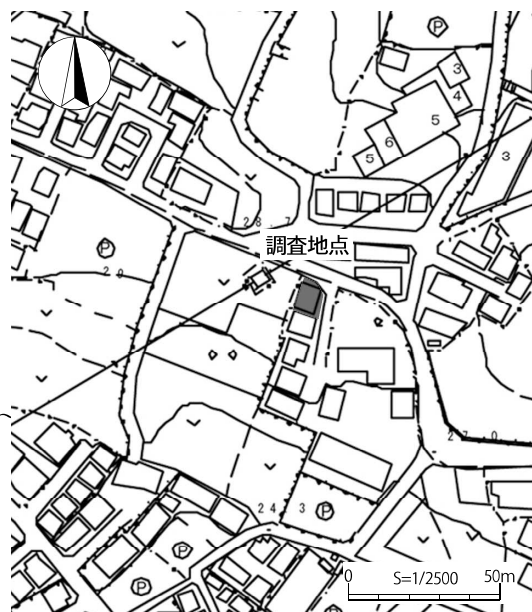
**調査日** 令和3年3月3日

**調査面積** 100.03㎡

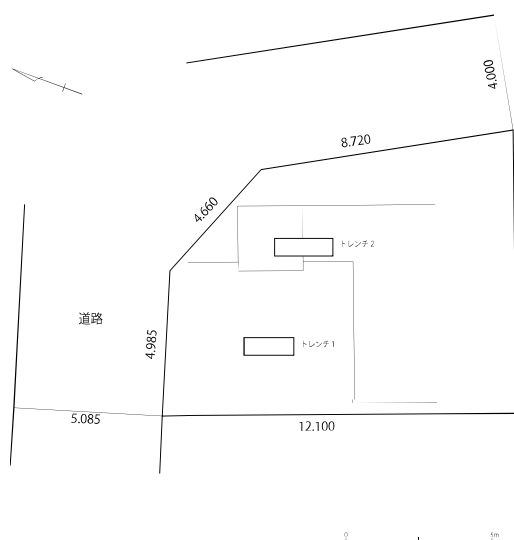
#### 調査概要

調査地は、仏ノ木遺跡 (No.11-036) の西側に位置する。調査は、対象地内に幅約60cm長さ約1m70cmと2mのトレンチを2本設定した (第36図)。調査区全体を160cm～190cm程度まで掘り下げた (第37図)。

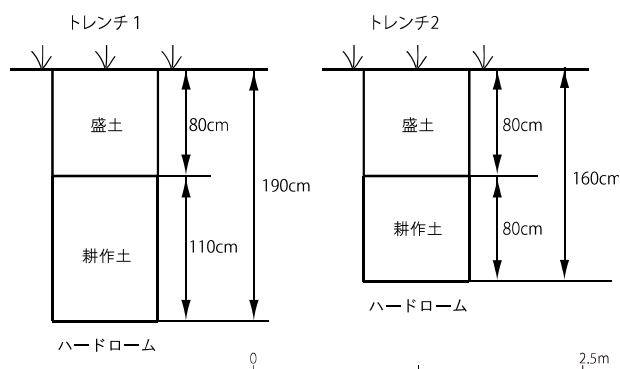
調査の結果、本地点では、遺構・遺物包含層及び遺物は認められなかった。



第35図 調査地点位置図



第36図 調査区位置図



第37図 トレンチ柱状図



作業状況



掘削状況

## 試掘調査

### No.20 西越後山遺跡

**調査目的** 共同住宅及び駐車場建設に伴う埋蔵文化財確認調査

**所在地** 和光市南1丁目2535番3の一部

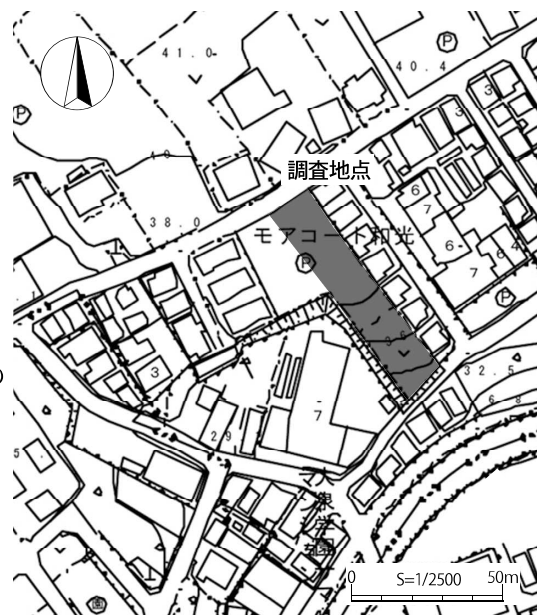
**調査日** 令和3年3月10日

**調査面積** 980.85㎡

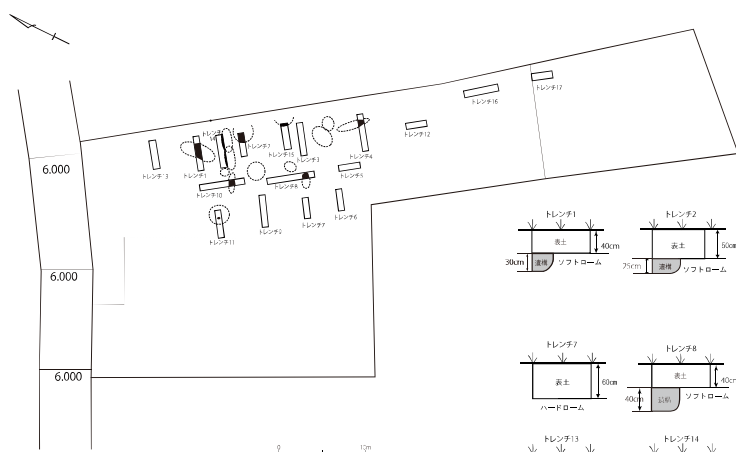
#### 調査概要

調査地は、西越後山遺跡(No.11-042)の北西に位置する。調査は、対象地内に幅約80cm長さ約3m40cm～8m50cmのトレンチを17本設定した(第39図)。調査区全体を50cm～120cm程度まで掘り下げた(第40図)。(R2.10.27試掘分含む。)

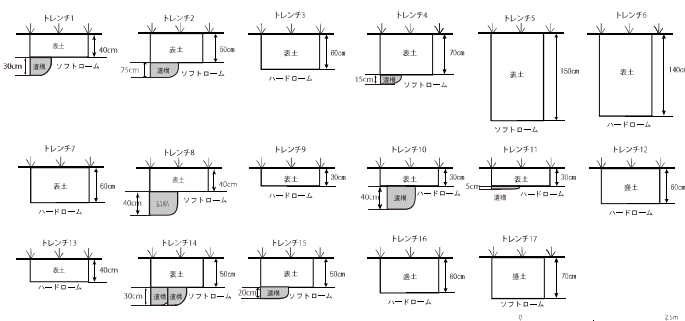
調査の結果、本地点で、遺構・遺物包含層及び遺物が認められ、発掘調査を行うこととなった。



第38図 調査地点位置図



第39図 調査区位置図



第40図 トレンチ柱状図



作業状況



掘削状況

## 試掘調査

### No.21 西越後山遺跡

**調査目的** ブロック・駐車場建設、ガス・電気・水道等工事に伴う埋蔵文化財確認調査

**所在地** 和光市南1丁目2542-3、2543-14

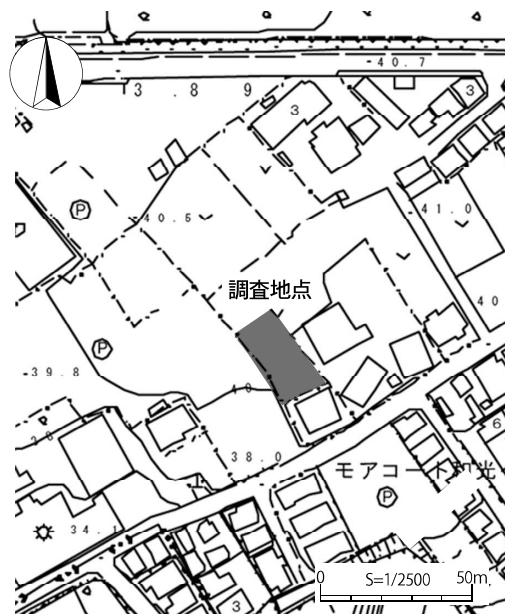
**調査日** 令和3年3月16日

**調査面積** 121.47 m<sup>2</sup>

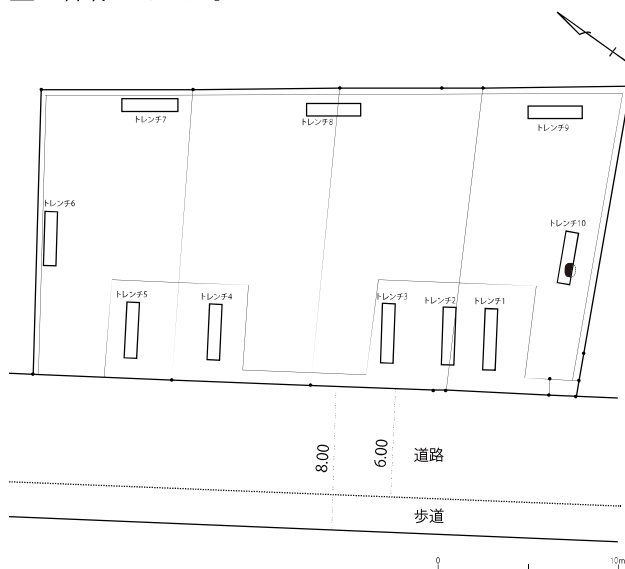
#### 調査概要

調査地は、西越後山遺跡 (No.11-042) の西寄りに位置する。調査は、対象地内に幅約70cm長さ約2m90cm～3m40cmのトレンチを10本設定した (第39図)。調査区全体を70cm～100cm程度まで掘り下げた (第40図)。

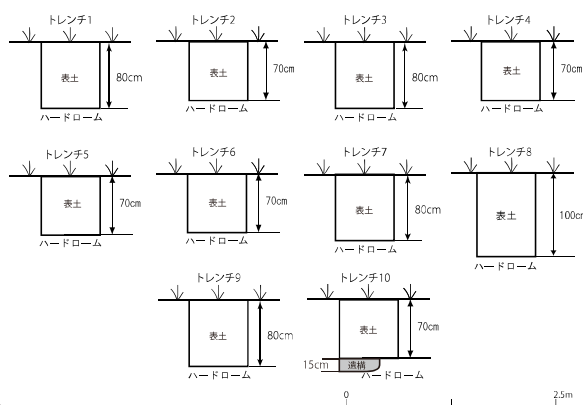
調査の結果、本地点で、遺構・遺物包含層及が認められ、盛土保存となった。



第38図 調査地点位置図



第39図 調査区位置図



第40図 トレンチ柱状図



作業状況



掘削状況

## 試掘調査

### No.22 谷戸島遺跡

**調査目的** 個人住宅建設に伴う埋蔵文化財確認調査

**所在地** 和光市下新倉2丁目20-13

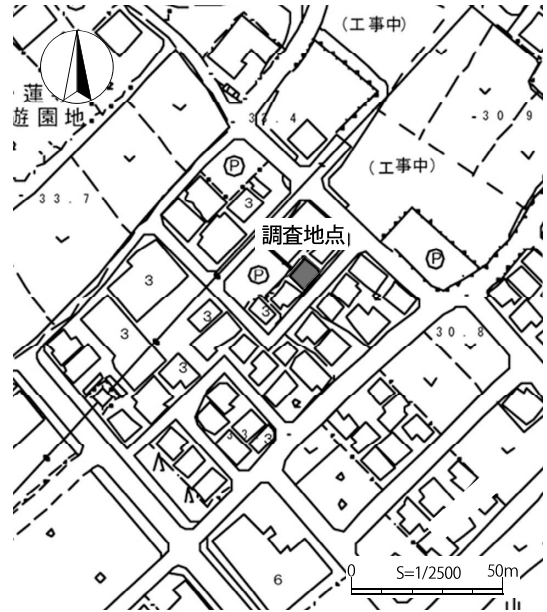
**調査日** 令和3年3月19日

**調査面積** 82.12㎡

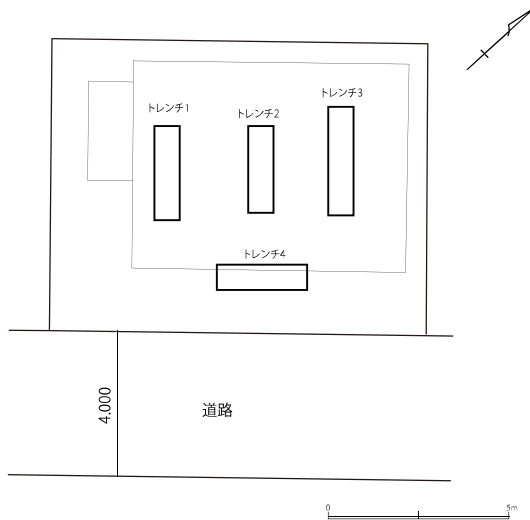
#### 調査概要

調査地は、谷戸島遺跡(No.11-031)の北西に位置する。調査は、対象地内に幅約70cm長さ約2m40cm～3mのトレンチを4本設定した(第39図)。調査区全体を60cm～70cm程度まで掘り下げた(第40図)。

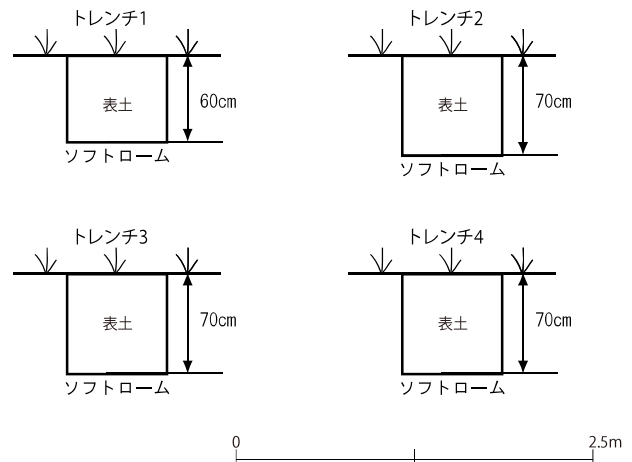
調査の結果、本地点では、遺構・遺物包含層及び遺物は認められなかった。



第38図 調査地点位置図



第39図 調査区位置図



第40図 トレンチ柱状図



作業状況



掘削状況

## 工事立会

### No. 1 下里遺跡

開発目的 電柱移設工事

所在地 和光市下新倉4丁目4436番1

調査日 平成31年4月1日

開発面積 70㎡

調査概要 工事立会。

## 工事立会

### No. 7 吹上遺跡

開発目的 ガス配管工事

所在地 和光市白子3丁目13番

調査日 令和元年6月12日

開発面積 35.64㎡

調査概要 工事立会。

## 工事立会

### No. 8 越後山遺跡

開発目的 ガス配管工事

所在地 和光市南1丁目10番

調査日 令和元年6月12日

開発面積 20.88㎡

調査概要 工事立会。

## 工事立会

### No. 9 榎堂遺跡

開発目的 電柱移設工事

所在地 和光市下新倉6丁目133番2

調査日 令和元年6月12日

開発面積 2㎡

調査概要 工事立会。

## 工事立会

### No. 12 峯遺跡

開発目的 電柱移設工事

所在地 和光市新倉2丁目23番3

調査日 令和元年8月2日

開発面積 2㎡

調査概要 工事立会。

## 工事立会

### No. 13 上谷津遺跡

開発目的 ガス配管工事

所在地 和光市新倉1丁目23・28番地

調査日 令和元年9月12日

開発面積 9㎡

調査概要 工事立会。

えぐち やよい（和光市教育委員会）



## 執筆者紹介

大滝 孝久 (那須町文化財保護審議委員)  
中岡 貴裕 (和光市)  
石川 敬史 (十文字学園女子大学)  
鈴木 一郎 (和光市教育委員会)  
江口 やよい (和光市教育委員会)

ISSN 2189-3276

---

和光市デジタルミュージアム紀要 第7号

発行日 令和3(2021)年3月31日発行

編集・発行 和光市教育委員会(担当:生涯学習課)

〒351-0192 埼玉県和光市広沢1-5

TEL 048-464-1111(代表)

和光市デジタルミュージアムれきたまURL

<http://rekitama-wako.jp>

---



れきたま  
QRコード